



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

COROLLA FIELDER



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	24
シートベルト	26
SRS エアバッグ	32
排気ガスに対する注意	40
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	41
チャイルドシート	42
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	62

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	64
計器類	68
ドライブモニター	
ディスプレイ	71
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	77

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	86
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア（フロントドア、	
リヤドア）	89
バックドア	93
3-3. シートの調整	
フロントシート	97
リヤシート	98
ヘッドレスト	100
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	103
インナーミラー	105
ドアミラー	106
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	108

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	112
荷物を積むときの注意	124

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）	
スイッチ	126
オートマチック	
トランスミッション	138
マニュアル	
トランスミッション	140
方向指示レバー	142
パーキングブレーキ	143

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	144
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	149
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	151

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	153
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense	156
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	162
LDA（レーンディパーチャー アラート／車線逸脱警報）	175
オートマチックハイビーム	181
先行車発進告知機能	185

4-6. 運転支援装置について

Stop & Start System	187
クリアランスソナー	196
パーキングサポートブレーキ （静止物）	204
運転を補助する装置	215

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	221
--------------	-----

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

マニュアルエアコン	226
-----------------	-----

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	231
・ パーソナルランプ	232
・ ルームランプ	232

5-3. 収納装備

収納装備一覧	233
・ グローブボックス	234
・ 助手席アッパーボックス	234
・ コンソールボックス	234
・ カップホルダー／ ボトルホルダー	235
ラゲージルーム内装備	237

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	242
・ サンバイザー	242
・ アクセサリーソケット	242
・ アシストグリップ	243
・ 時計	244
・ リヤアームレスト	244

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	246
内装の手入れ.....	250

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット.....	253
ガレージジャッキ.....	255
ウォッシャー液の補充.....	256
タイヤについて.....	257
タイヤ空気圧について.....	261
エアコンフィルターの交換.....	263
キーの電池交換.....	265
ヒューズの点検・交換.....	268
電球（バルブ）の交換.....	271

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....	282
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	283
発炎筒.....	284
車両を緊急停止するには.....	286
水没・冠水したときは.....	287

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	288
警告灯がついたときは.....	294
警告メッセージが表示された ときは（マルチインフォ メーションディスプレイ 装着車）.....	301
パンクしたときは （タイヤパンク応急 修理キット装着車）.....	313
パンクしたときは （応急用タイヤ装着車）.....	327
エンジンが かからないときは.....	337
電子キーが正常に働かない ときは.....	339
バッテリーが あがったときは.....	342
オーバーヒートしたときは...	346
スタックしたときは.....	349

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
（指定燃料・オイル量
など）.....352

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧.....361

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....364

車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....367

アルファベット順さくいん.....368

五十音順さくいん.....370

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

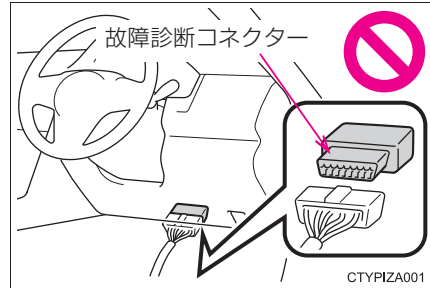
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



CTYP1ZA001

車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ 前方カメラの画像情報

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDRは車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー
- Toyota Safety Sense

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方



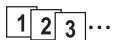
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

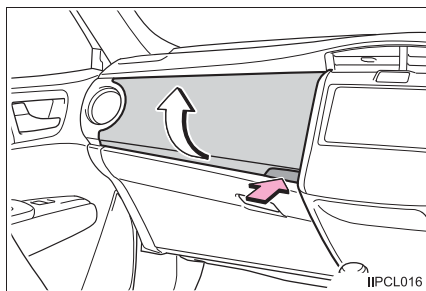
お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

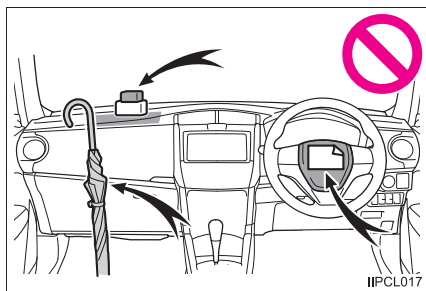
➡ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡ 説明の対象となるもの・場所を示しています。



“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



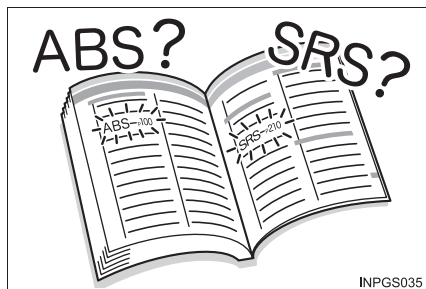
知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん370
- ・ アルファベット順
さくいん368



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次12



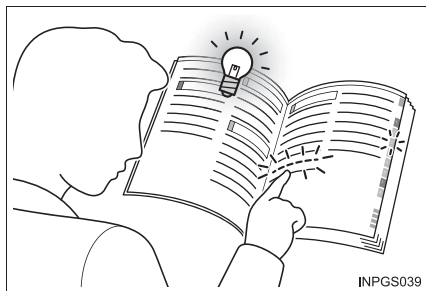
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)364
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)367



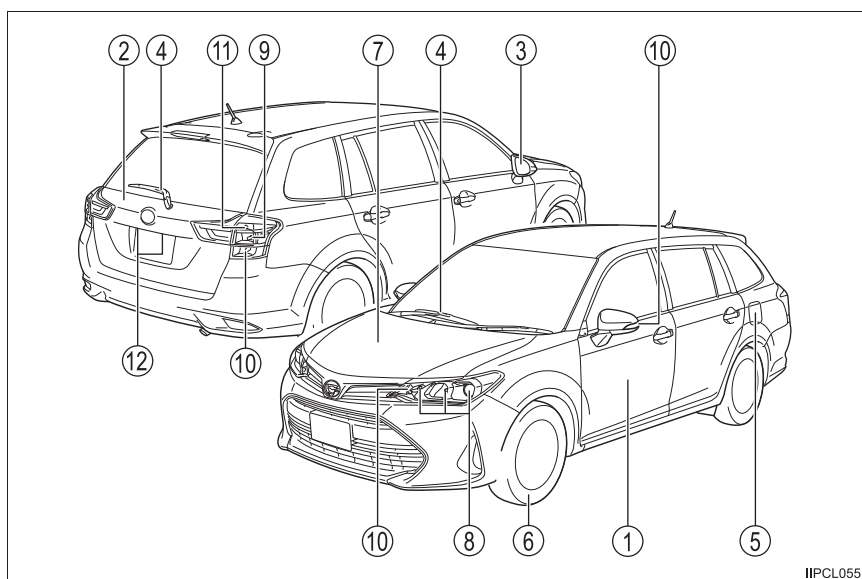
■ タイトルから探す

- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観



IIPCL055

- ① ドアP. 89
 施錠／解錠 P. 89, 91
 ドアガラスの開閉P. 108
 メカニカルキーでの施錠／解錠P. 339
 警告灯..... P. 65, 297
- ② バックドアP. 93
 施錠／解錠P. 93
- ③ ドアミラーP. 106
 鏡面の角度調整.....P. 106
 ミラーの格納P. 106
 曇りを取る（ミラーヒーター）★P. 227

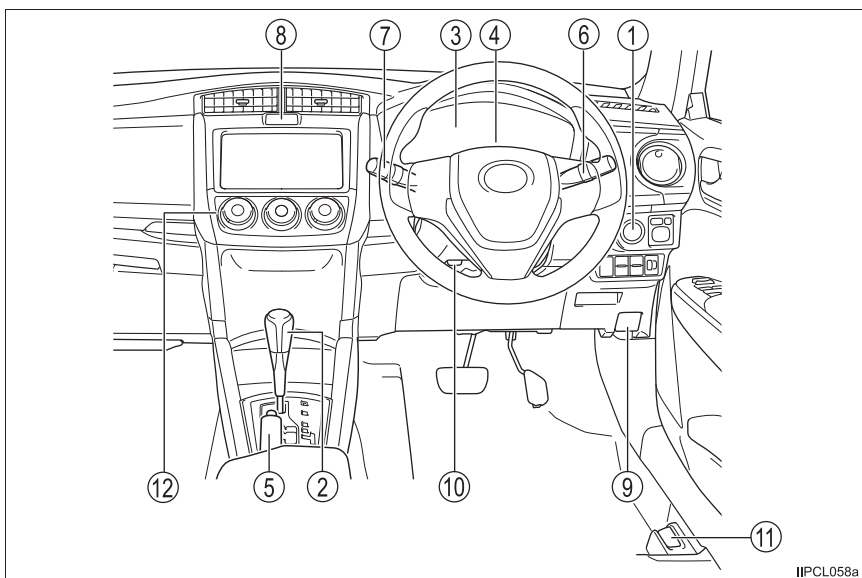
- ④ **ワイパー**.....P. 149, 151
 冬季の注意P. 222
 凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★P. 228
- ⑤ **給油口**.....P. 153
 給油方法P. 153
 燃料の種類・燃料タンク容量P. 153, 352
- ⑥ **タイヤ**.....P. 257
 サイズ・空気圧P. 359
 冬用タイヤ・タイヤチェーンP. 221
 点検・ローテーションP. 257
 パンク時の対処P. 313, 327
- ⑦ **ボンネット**P. 253
 開け方P. 253
 エンジンオイルP. 353
 オーバーヒート時の対処P. 346

走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P. 271, ワット数：P. 360）

- ⑧ **ヘッドランプ・車幅灯**.....P. 144
- ⑨ **尾灯**P. 144
- ⑩ **方向指示灯**P. 142
- ⑪ **後退灯**
 シフトポジションを R にするP. 138, 140
- ⑫ **番号灯**.....P. 144

■ インストルメントパネル

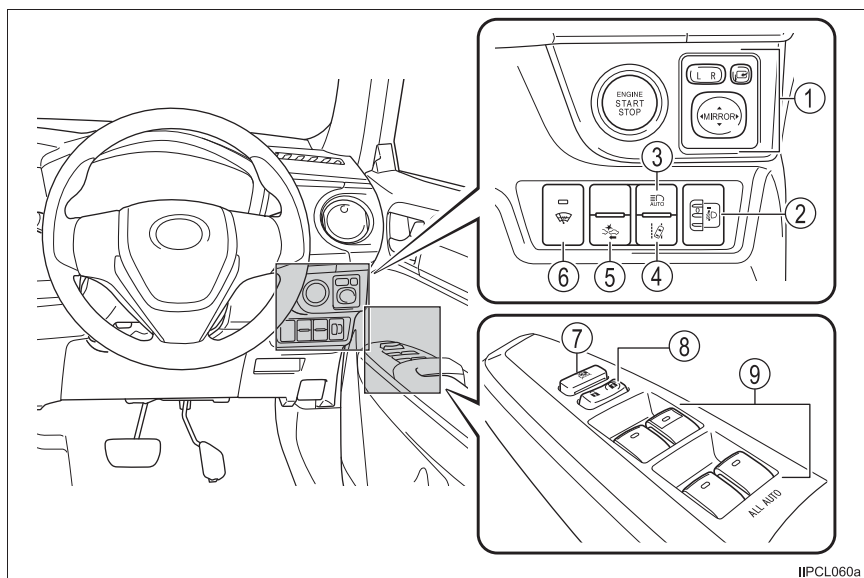


IIPCL058a

- ① エンジンスイッチP. 126
 - エンジンの始動・モード切りかえP. 126
 - エンジンの緊急停止P. 286
 - エンジンが始動できないときの対処.....P. 337
 - 警告灯..... P. 65, 299
- ② シフトレバーP. 138, 140
 - シフトポジションの切りかえ.....P. 138, 140
 - けん引時の注意.....P. 288
 - シフトレバーが動かないときの対処
(オートマチック車)P. 139
- ③ メーターP. 68
 - 見方・明るさの調整P. 68
 - 警告灯／表示灯.....P. 64
 - 警告灯点灯時の対処P. 294

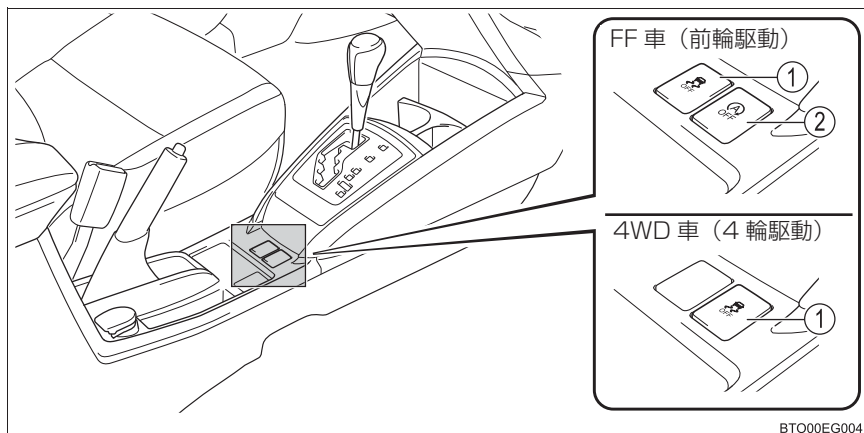
④	ドライブモニターディスプレイ★	P. 71
	マルチインフォメーションディスプレイ★	P. 77
	表示内容	P. 71, 77
	警告メッセージ表示時の対処★	P. 301
⑤	パーキングブレーキ	P. 143
	かける・解除する	P. 143
	冬季の注意	P. 222
	警告ブザー	P. 297
⑥	方向指示レバー	P. 142
	ランプスイッチ	P. 144
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P. 144
⑦	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 149, 151
	使い方	P. 149, 151
	ウォッシャー液の補充	P. 256
⑧	非常点滅灯スイッチ	P. 283
⑨	ボンネット解除レバー	P. 253
⑩	ハンドル位置調整レバー	P. 103
⑪	給油口オープナー	P. 155
⑫	マニュアルエアコン	P. 226
	操作方法	P. 226
	リヤウインドウの曇り取り (リヤウインドウデフォグガー)	P. 227

■ スイッチ類



IIPCL060a

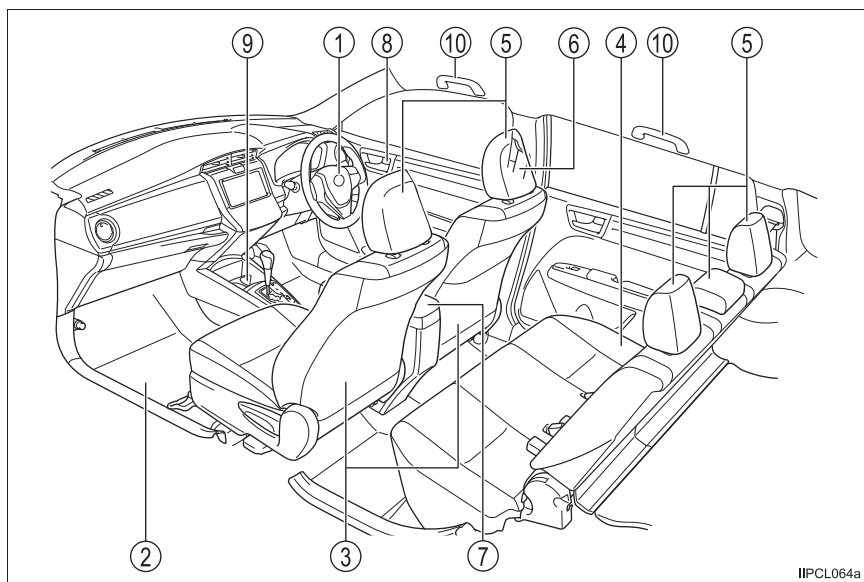
- ① ドアミラースイッチP. 106
- ② 手動光軸調整ダイヤル.....P. 146
- ③ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 181
- ④ LDA（レーンディパーチャーアラート）スイッチP. 177
- ⑤ PCS（プリクラッシュセーフティ）スイッチP. 166
- ⑥ ウインドシールドデアイサースイッチ★.....P. 228
- ⑦ ウインドウロックスイッチP. 108
- ⑧ ドアロックスイッチP. 91
- ⑨ パワーウインドウスイッチP. 108



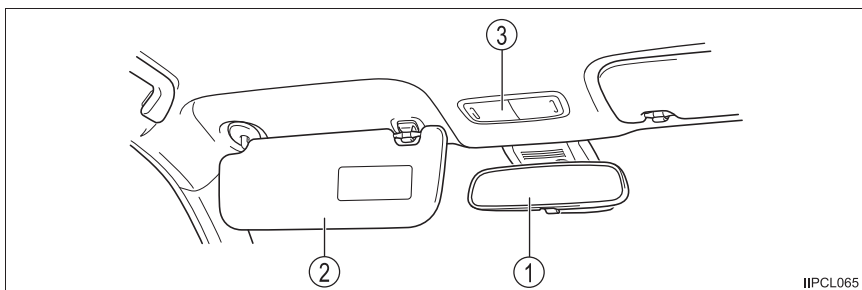
- ① VSC OFF スイッチP. 216
- ② Stop & Start キャンセルスイッチ★P. 189

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



- | | |
|-------------------|--------|
| ① SRS エアバッグ | P. 32 |
| ② フロアマット | P. 22 |
| ③ フロントシート | P. 97 |
| ④ リヤシート | P. 98 |
| ⑤ ヘッドレスト | P. 100 |
| ⑥ シートベルト | P. 26 |
| ⑦ コンソールボックス | P. 234 |
| ⑧ ロックレバー | P. 91 |
| ⑨ カップホルダー | P. 235 |
| ⑩ アシストグリップ | P. 243 |



IIPCL065

- ① インナーミラー.....P. 105
- ② サンバイザー ※.....P. 242
- ③ パーソナルランプ.....P. 232

※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→ P. 45)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に.....	22
安全なドライブのために	24
シートベルト.....	26
SRS エアバッグ.....	32
排気ガスに対する注意	40
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	41
チャイルドシート	42
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム.....	62

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

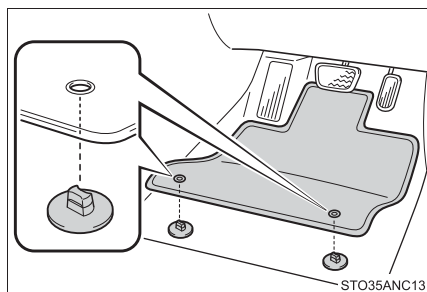
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

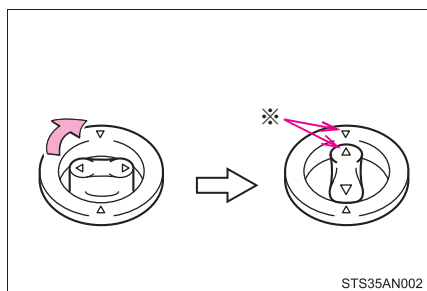
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

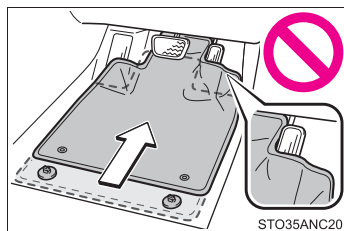
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがP（オートマチック車）または N（マニュアル車）の状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

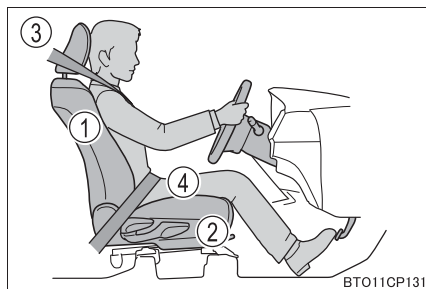


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 97）
- ② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 97）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 100）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 26）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 26）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 42）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 105, 106）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

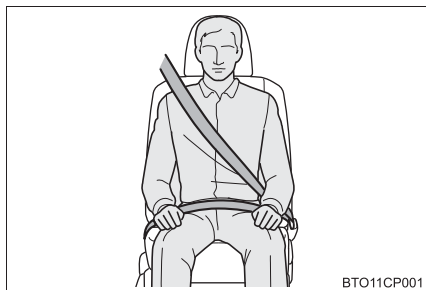
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

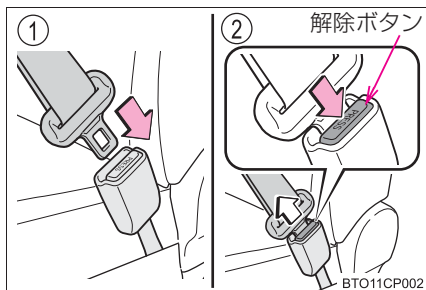
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



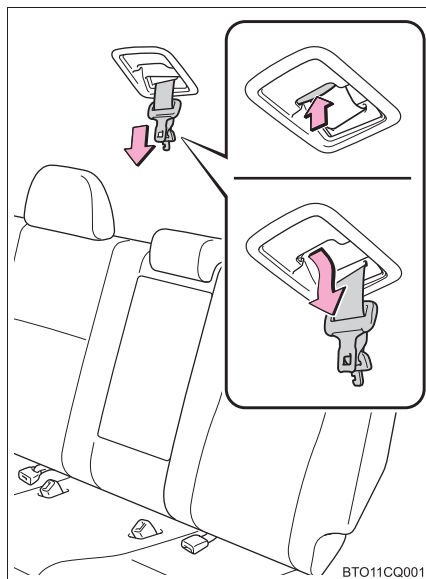
着け方・はずし方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す



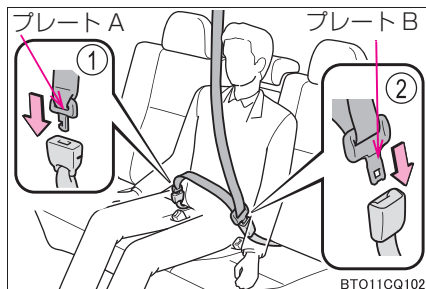
着け方（リヤ中央席）

- 1 シートベルトを上を押して固定をはずし、シートベルトを引き出す



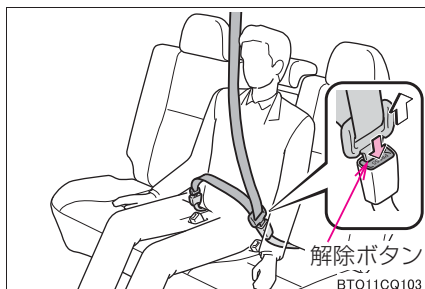
- 2 ベルトを固定するには、プレートA、プレートBの順に“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

- ① プレートA、バックルA
- ② プレートB、バックルB



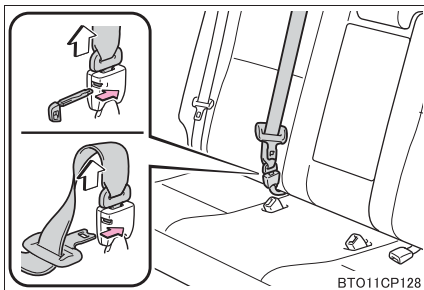
はずし方・格納の仕方（リヤ中央席）

- 1 バックル B の解除ボタンを押して、ベルトを解除する



- 2 キー、またはプレート B をバックル A に挿し込み、ベルトを分離する

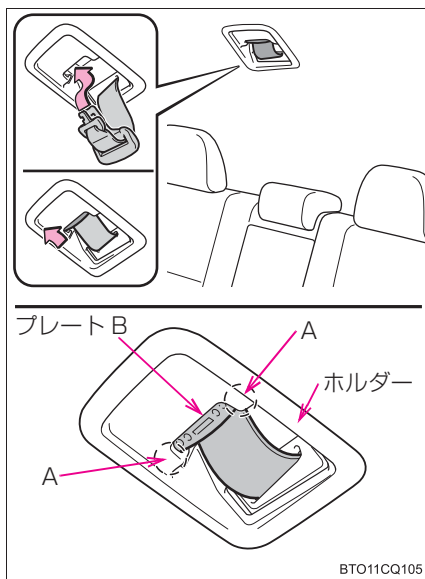
シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



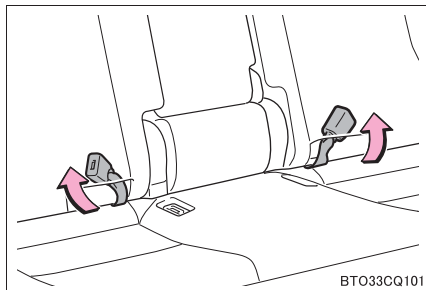
- 3 プレート A、B を図のようにし、もとにもどす

確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

プレート B の両端がホルダーの A 部に確実におさまっていることを確認します。



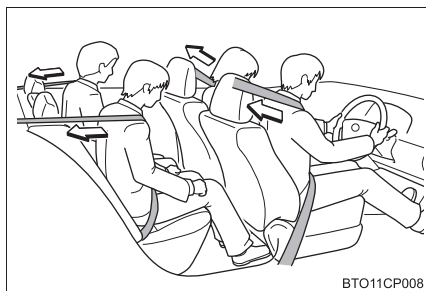
- 4 中央席シートベルトのバックルをポケットに格納する



シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。（→ P. 42）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→ P. 26）

■ シートベルトプリテンショナーについて

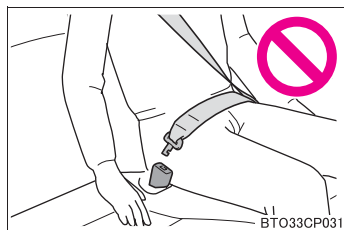
シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックル A および、プレート B とバックル B を結合する

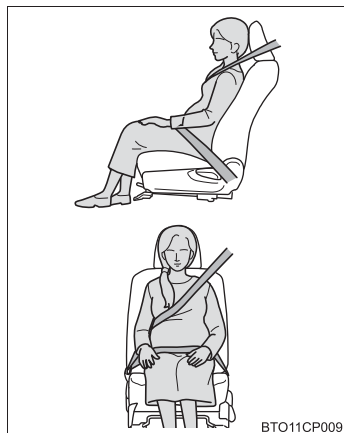


■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 26)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるといとお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



 警告**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→ P. 57

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

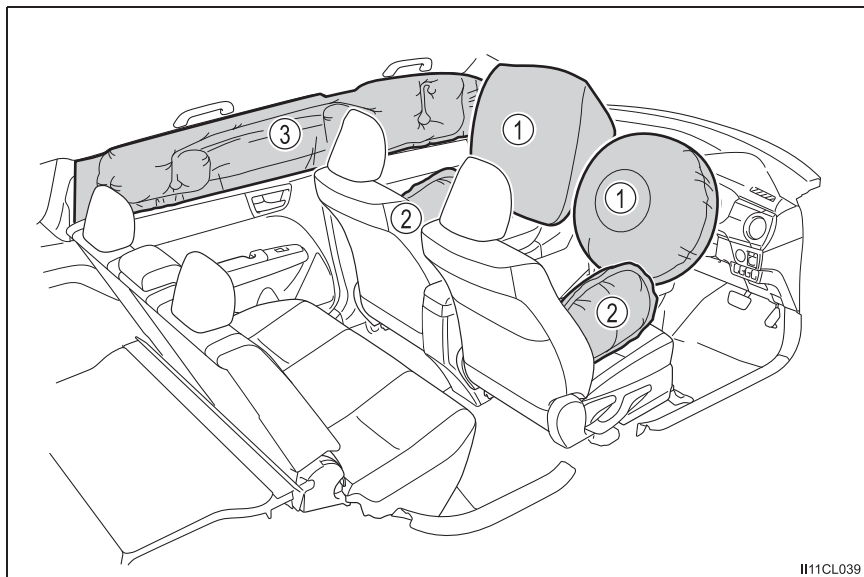
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



II11CL039

◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

- ② SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ③ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和)

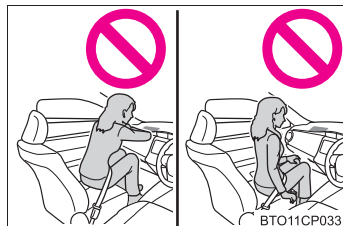
警告

■ SRS エアバッグについて

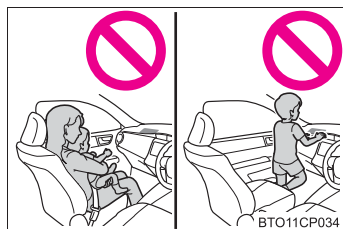
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

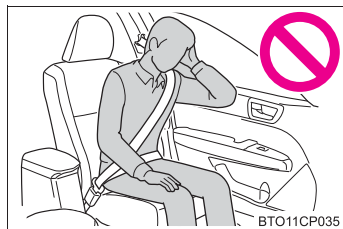
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に寄せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 42)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

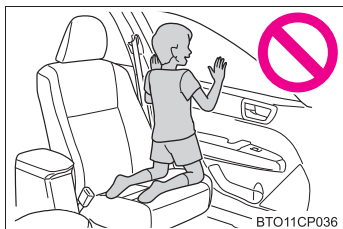


- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

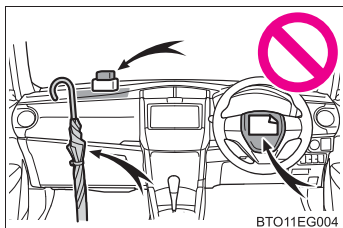


警告**■ SRS エアバッグについて**

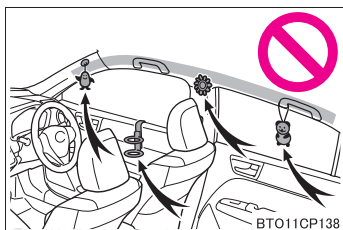
- 助手席・リヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・助手席アッパーボックスのフタの上・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウィンドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く：→ P. 320）



**警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたかなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールなど周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

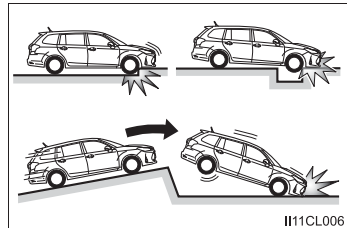
■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値(約 1.5t の車両が約 20～30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値) 以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

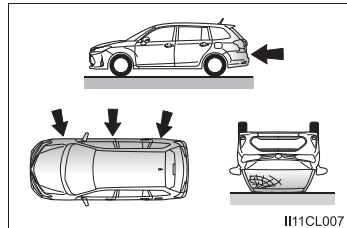
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ)

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

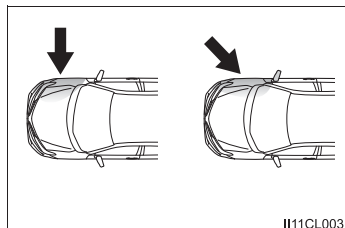
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ)

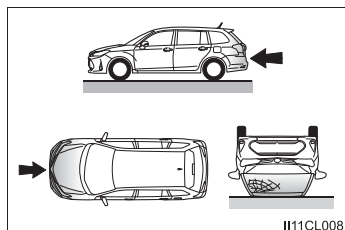
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



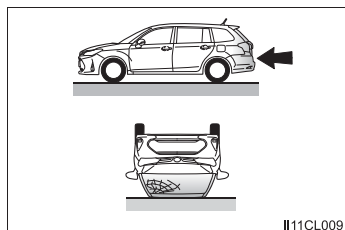
SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

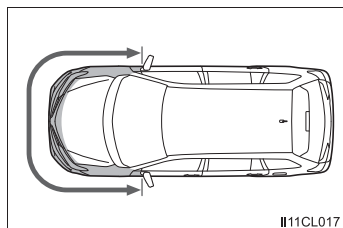
- 後方からの衝突
- 横転



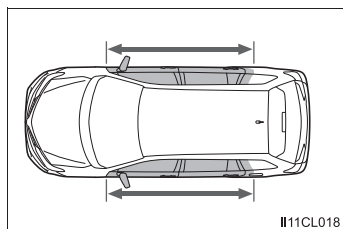
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、修理・点検等が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

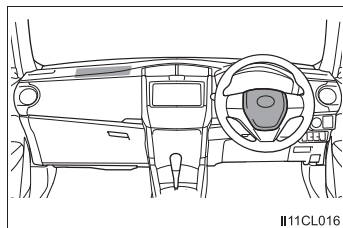
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



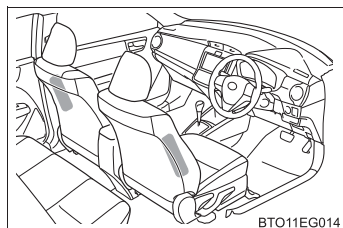
- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



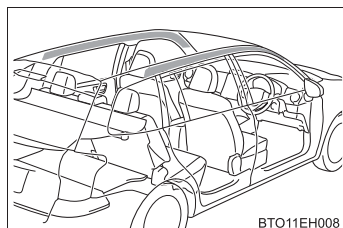
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。(→ P. 42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→ P. 92)・ウィンドウロックスイッチ(→ P. 108)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→ P. 42)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取り扱い説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと	P. 42
チャイルドシートを使用するときは	P. 44
シート位置別チャイルドシートの適合性について	P. 47
チャイルドシートの取り付け方法	P. 55
・ シートベルトで固定する	P. 56
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	P. 58
・ トップテザーアンカレッジを使用する	P. 60

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 47)

 警告**■ お子さまを乗せるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 47）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

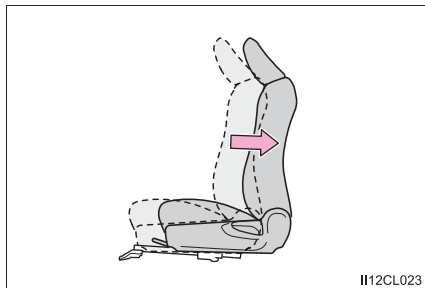
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

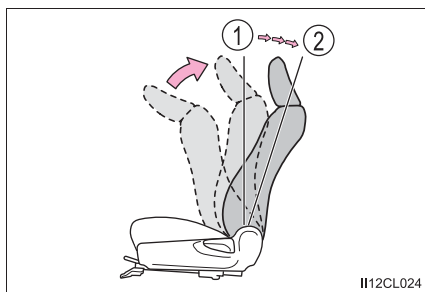
- シートをいちばんうしろに下げる



- 背もたれをいったん前に倒し、
1 段目の固定位置まで起こし、
4 段目の固定位置まで調整する

① 1 段目

② 4 段目



- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

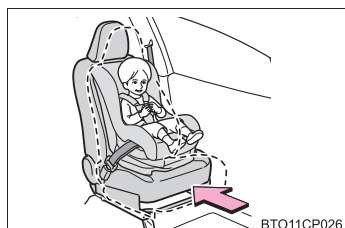
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



II12CL010a

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



BT011CP026

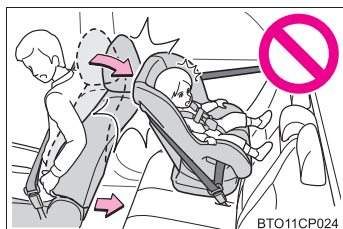
警告**■チャイルドシートを使用するとき**

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 49）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 53）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

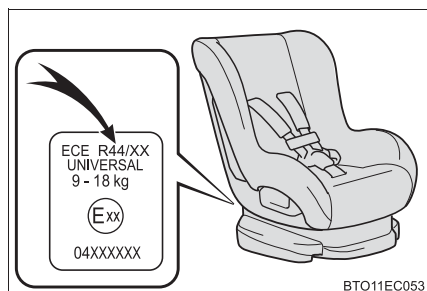
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

UN (ECE) R44 認可マーク
※²

対象となるお子さまの体重の
範囲が記載されています。



※¹ UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

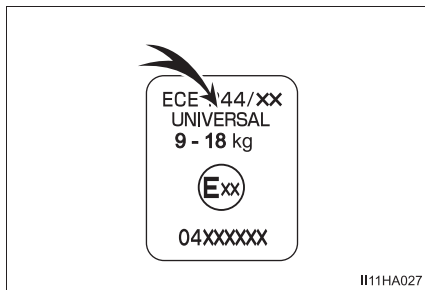
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

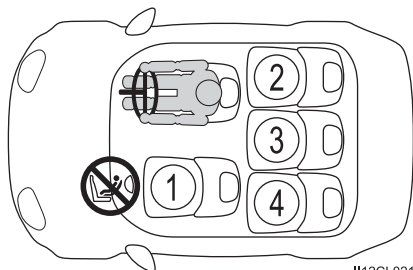
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リ ス ト リ ク テ ィ ッ ド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	L ※4
② ※3	U L  
③ ※3	L
④ ※3	U L  



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 53）に記載されたチャイルドシートに適しています。



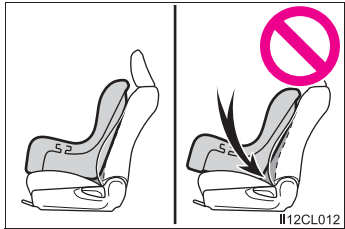
ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

- ※¹ シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
- ※² 背もたれをいったん前に倒し、1 段目の固定位置まで起こし、4 段目の固定位置まで調整してください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシート間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- 
- ※³ ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。
- ※⁴ チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	無	有	無	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 / L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	R1,R2, R3	×	R1,R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	×	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

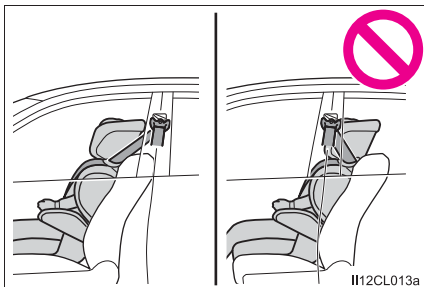
■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

質量 グループ	推奨チャイルドシート	着座位置			
		①	②	③	④
0、0+ (13kg まで)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	×	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
I (9 ～ 18kg)	トヨタ純正 NEO G-Child baby	○ 前向き のみ	○	○	○
	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	×	○
Ⅱ、Ⅲ (15 ～ 36kg)	トヨタ純正ジュニアシート	○	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

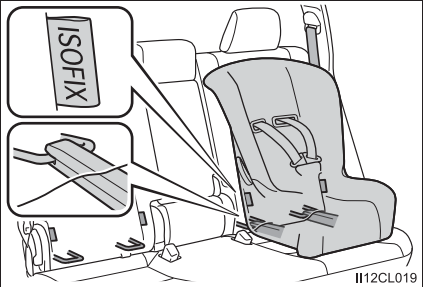
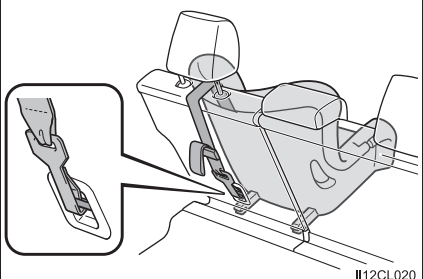
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取り扱い説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 56
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P. 58
テザーベルトを固定する		P. 60

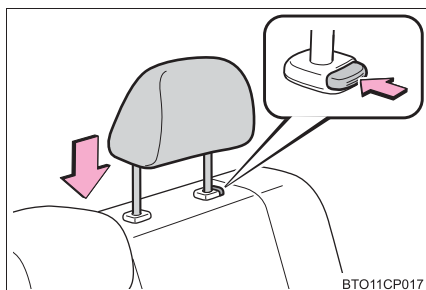
チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

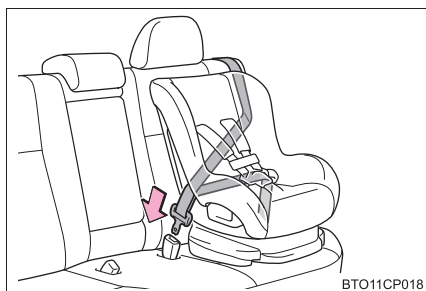
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 48, 49）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 44）
- 2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 100）

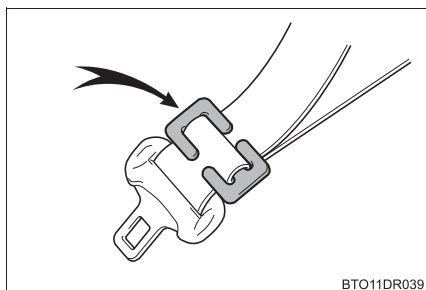


- 3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



- 5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 57）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。



警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

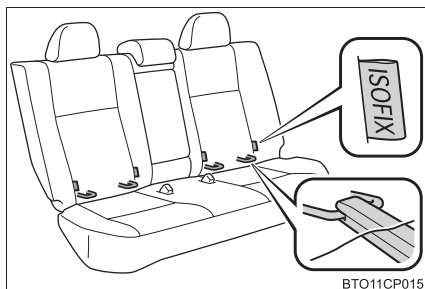
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

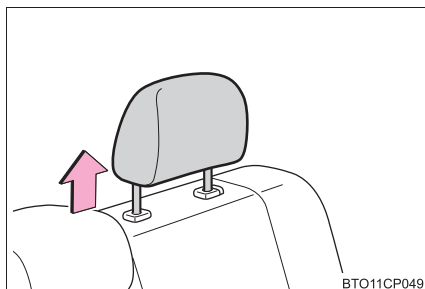


■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

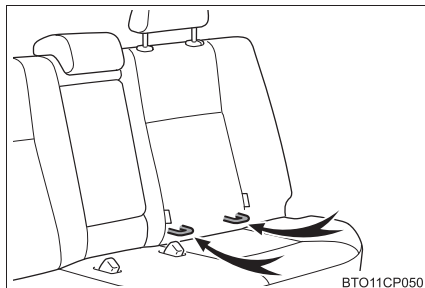
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→ P. 48, 49)

- 1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる (→ P. 100)



- 2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

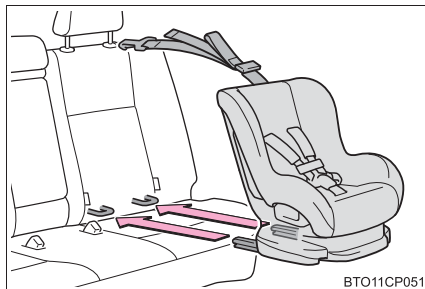
固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってください。



4 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 57）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

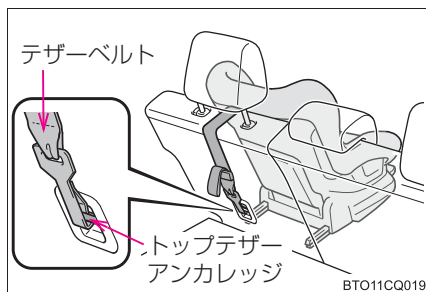
トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

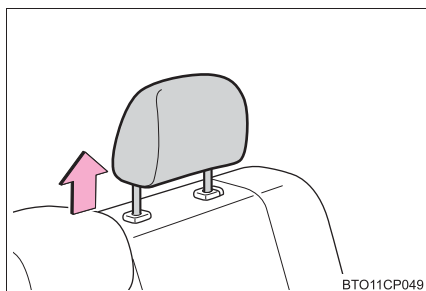
トップテザーアンカーはリヤ外側席に装備されています。



■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

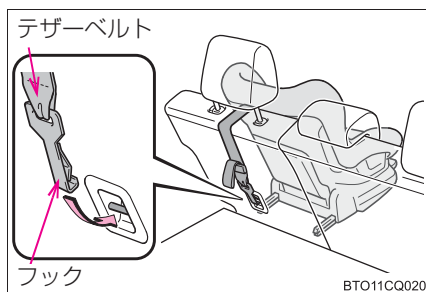
チャイルドシートに付属の取り扱い説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 ヘッドレストをいちばん上まで上げる (→ P. 100)



- 2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→ P. 57)



**警告****■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取り扱い説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

エンジンイモビライザーシステム

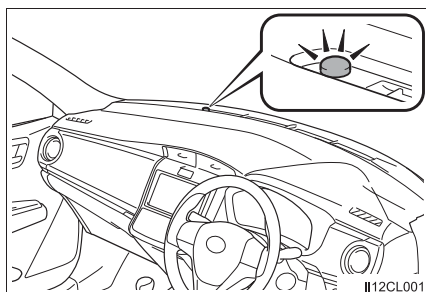
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチをOFFにすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

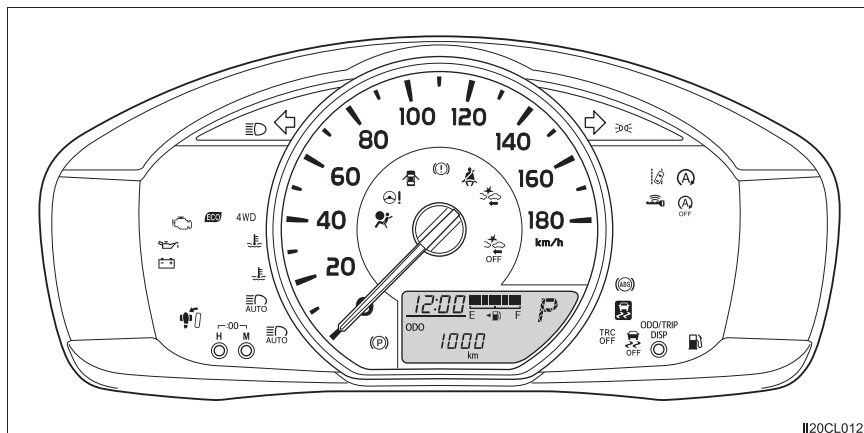
2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	64
計器類	68
ドライブモニター ディスプレイ	71
マルチインフォメーション ディスプレイ	77

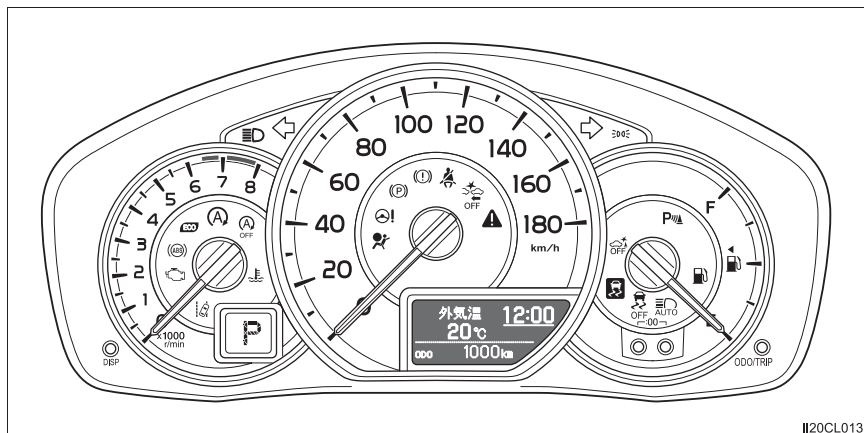
警告灯／表示灯

メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車



▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



警告灯

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯
(→ P. 294)



Stop & Start キャンセル
表示灯★ (→ P. 295)



充電警告灯 (→ P. 294)



半ドア警告灯 (→ P. 297)



油圧警告灯
(→ P. 294)



スリップ表示灯
(→ P. 295)



エンジン警告灯
(→ P. 294)



シートベルト非着用警告灯
(→ P. 297)



SRS エアバッグ/
プリテンショナー警告灯
(→ P. 294)



燃料残量警告灯
(→ P. 297)



ABS & ブレーキアシスト
警告灯 (→ P. 295)



4WD 警告灯★
(→ P. 295)



パワーステアリング警告灯
(→ P. 295)



パーキングブレーキ未解除
警告灯 (→ P. 297)



ペダル誤操作警告灯★
(→ P. 296)



PCS 警告灯 (→ P. 297)



(黄色)

オートマチックハイビーム
表示灯 (→ P. 296)



(黄色)

プッシュボタンスタート
システム表示灯
(→ P. 299)



(赤色点灯ま
たは点滅)

高水温警告灯
(→ P. 294)



マスターウォーニング★
(→ P. 298)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



LDA (レーンディパー
チャーアラート) 表示灯
(→ P. 297)



PKSB OFF 表示灯★
(→ P. 297)

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、マルチインフォメーションディスプレイ内に同内容のメッセージが表示されます。

※3 点灯した場合はシステムが一時的に使用不可であることを示します

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 142)



スリップ表示灯
(→ P. 216)



ハイビーム表示灯
(→ P. 145)



低水温表示灯



尾灯表示灯
(→ P. 144)



エコドライブ
インジケータランプ★
(→ P. 116)



LDA (レーンディパー
チャーアラート) 表示灯
(→ P. 177)



オートマチックハイビーム
表示灯 (→ P. 181)



VSC OFF 表示灯
(→ P. 217)



Stop & Start 表示灯★
(→ P. 187)



TRC OFF 表示灯
(→ P. 216)



PCS 作動表示灯★
(→ P. 162)



Stop & Start キャンセル
表示灯★ (→ P. 189)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



プッシュボタンスタート
システム表示灯
(→ P. 130)



PKSB OFF 表示灯★
(→ P. 205)



エンジンイモバイザー
システムインジケーター
(→ P. 62)



シフトポジション表示灯★
(→ P. 138)



PCS 警告灯 (→ P. 162)



クリアランスソナー表示灯★
(→ P. 196)

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッションONモードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。

※3 点灯を OFF に設定した場合は、作動確認のための点灯はしません。

※4 システムが OFF のときは点灯します。

知識

■エコドライブインジケーターランプの点灯を ON / OFF するには

ディスプレイの設定を変更することにより、エコドライブインジケーターランプの点灯を ON / OFF にできます。(→ P. 74, 81)

警告

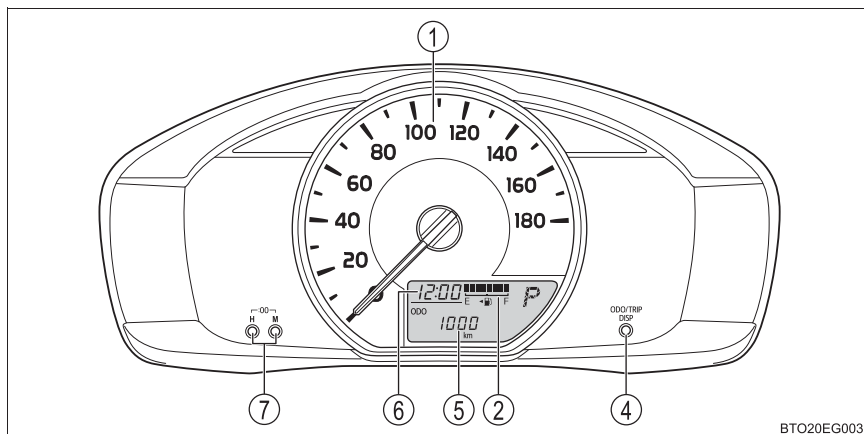
■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

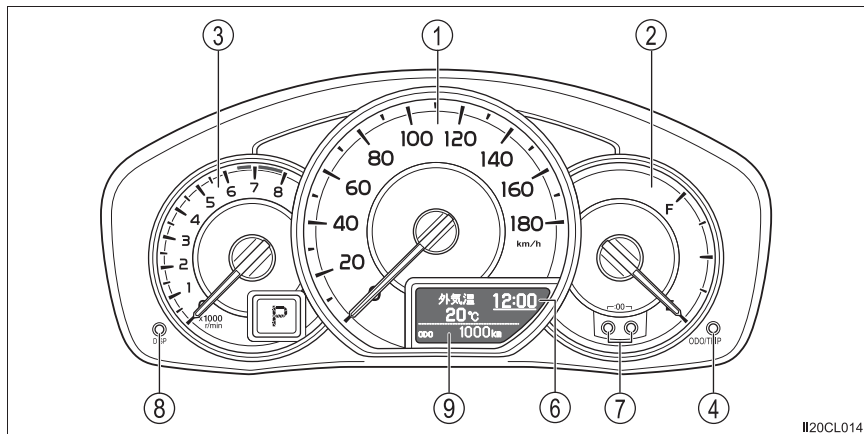
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車



▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



① スピードメーター

車両の走行速度を示します。

② 燃料計

燃料残量を表示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

③ タコメーター★

毎分のエンジン回転数を示します。

④ 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーターなどの切りかえができます。(→ P. 71, 78)

⑤ トリップインフォメーション★

オドメーター／トリップメーター／燃費表示などを表示します。(→ P. 72)

⑥ 時計表示

時刻を表示します。

⑦ 時計調整ボタン

時刻を調整できます。(→ P. 244)

⑧ DISP ボタン★

マルチインフォメーションディスプレイ表示の切りかえができます。(→ P. 79)

⑨ マルチインフォメーションディスプレイ表示★

- ・ 走行に関するさまざまな情報を表示します。(→ P. 77)
- ・ システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。(→ P. 301)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **燃料計と航続可能距離について**

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 表示切りかえボタンを押してトリップインフォメーションの表示をオドメーター表示に切りかえる
- 3 エンジンスイッチを OFF にする
- 4 表示切りかえボタンを押したまま、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手を離す

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ **時計・オドメーター表示について**

次の場合、時計とオドメーター表示が約 30 秒間表示されます。また、表示されているときにドアを閉め施錠すると消灯します。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- 運転席ドアを開けたとき

 注意■ **エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯（→ P. 294）が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 346）

ドライブモニターディスプレイ★

表示内容

ドライブモニターディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

- 時計表示 (→ P. 244)

時刻を表示します。

- トリップインフォメーション (→ P. 72)

オドメーターやトリップメーター、燃費表示などを表示します。

- シフトポジション表示★ (→ P. 138)

- カスタマイズモード (→ P. 73)

LDA (レーンディパーチャーアラート) や先行車発進告知機能の感度や、エコドライブインジケータランプの設定などを変更することができます。

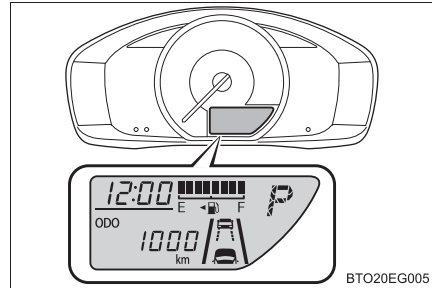
- Stop & Start システム★ (→ P. 187)

- LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 175)

- 先行車発進告知 (→ P. 185)

- PCS (プリクラッシュセーフティ) (→ P. 162)

プリクラッシュセーフティの警報タイミングを変更することができます。
(→ P. 166)



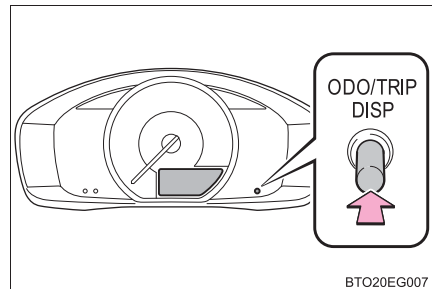
BTO20EG005

2

メーターの見方

表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押す



BTO20EG007

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーションの機能

■ オドメーター

画面内に **ODO** と表示されます。

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター

画面内に **TRIP A** / **TRIP B** と表示されます。

リセットしてからの走行距離を表示します。

- ・ 区間距離は、トリップA・トリップB の2 種類で使い分けることができます。
- ・ 表示切りかえボタンを約 1 秒以上押すと 0 にもどります。

■ アイドリングストップ時間 (Stop & Start システム装着車)

画面内に  と表示されます。

エンジンを始動してからエンジンスイッチをOFFにするまでのアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を表示します。

■ 総アイドリングストップ時間 (Stop & Start システム装着車)

画面内に **TRIP**  と表示されます。

リセットしてからのアイドリングストップ時間 (Stop & Start システムによるエンジン停止時間) を通算で表示します。

リセットするには、総アイドリングストップ時間の表示中に表示切りかえボタンを約 1 秒以上押します。

■ 外気温表示

外気温を -40℃～50℃のあいだで表示します。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

画面内に **AVG.** と表示されます。

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費の表示中に表示切りかえボタンを約 1 秒以上押します。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

画面内に **RANGE** と表示されます。

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象・渋滞など）や運転方法（急発進・エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- ・ 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 70）

■ メーター照度調整

車幅灯が点灯しているとき、メーター照度調整表示に切りかえることができます。

表示切りかえボタンを約 1 秒以上押すと照度を 4 段階に調整できます。

2

メーターの見方

カスタマイズモード

■ 設定変更のしかた

- 1 オドメーター表示中に表示切りかえボタンを約 1 秒以上押し、画面をカスタマイズモードに切りかえる
- 2 表示切りかえボタンを押し、設定を変更したい項目を表示させる
ボタンを押すごとに表示が切りかわります。
- 3 表示切りかえボタンを約 1 秒以上押し、設定を変更する
ボタンを押すごとに表示が切りかわります。

カスタマイズモードを終了するには、画面に **End** が表示されるまで表示切りかえボタンを押したあと、ボタンを約 1 秒以上押してください。

End が表示された状態で約 5 秒経過したときもカスタマイズモードが終了します。

■ 設定変更できる項目

表示	設定内容	
※ 01: 00 	高い 00	LDA（レーンディパーチャーアラート） 警報感度 車線逸脱時の警報ブザーが鳴る感度を 2段階から選択することができます。
	普通 0_	
※ 02: 0n 	ON	先行車発進告知機能 告知機能の作動・非作動を選択するこ とができます。
	OFF	
※ 03: 0_ _ 	遅い 0 _ _	先行車発進告知機能の告知タイミング タイミングを3段階から選択するこ とができます。
	普通 00 _	
	早い 000	
※ 04: 0n  (点滅)	ON	エコドライブインジケーターランプ★ ランプの作動・非作動を選択するこ とができます。
	OFF	
※ 05: 0n ^(A)	ON	アイドリングストップ時間 割り込み表示★ アイドリングストップ中の割り込み表 示の表示・非表示を選択することがで きます。
	OFF	

※ 装備の有無により、表示される番号は異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

- 平均燃費
- 航続可能距離
- 総アイドルストップ時間

■ カスタマイズの操作について

- 走行中はカスタマイズモードに切りかえることができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- カスタマイズ操作中に次の状況になるとオドメーター表示にもどります。
 - ・ 走行し始めたとき
 - ・ 約 30 秒間操作がされなかったとき

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

 警告**■ 設定を変更するとき**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

マルチインフォメーションディスプレイ★

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関するさまざまな情報を表示します。

- 時計表示 (→ P. 244)

時刻を表示します。

- トリップインフォメーション (→ P. 78)

オドメーターやトリップメーター、燃費表示などを表示します。

- 設定 (→ P. 81)

クリアランスソナーの設定や先行車発進告知機能の感度、エコドライブインジケータランプの設定などを変更することができます。

- Stop & Start システム★ (→ P. 187)

- LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 175)

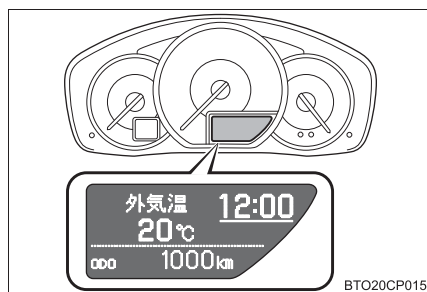
- 先行車発進告知 (→ P. 185)

- PCS (プリクラッシュセーフティ) (→ P. 162)

プリクラッシュセーフティの警報タイミングを変更することができます。(→ P. 166)

- クリアランスソナー★ (→ P. 196)

- パーキングサポートブレーキ★ (→ P. 204)

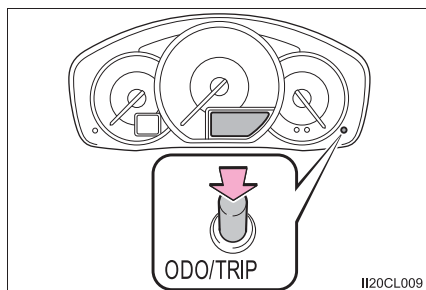


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーション／メーター照度調整**◆ 表示の切りかえ**

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押す

押すごとに表示される項目が切りかわります

**◆ 表示項目****■ オドメーター**

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A / トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に、表示切りかえボタンを長押しします。

■ メーター照度調整

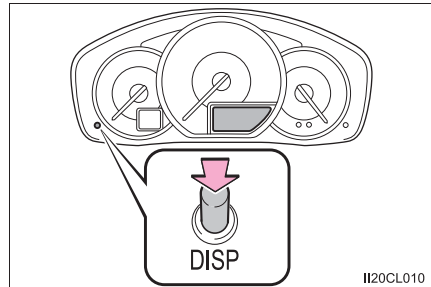
車幅灯が点灯しているとき、メーターの明るさを表示します。

明るさを調整するには、メーター照度調整表示中に、表示切りかえボタンを長押しします。

ドライブインフォメーション

◆ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、DISP ボタンを押す



II20CL010

◆ ドライブインフォメーション

■ 外気温表示

外気温を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを長押しします。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用条件（気象・渋滞など）や運転方法（急発進・エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- ・ 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。(→ P. 70)

■ 走行時間

エンジン始動後の走行時間を表示します。

■ アイドリングストップ時間★

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからのアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

■ 総アイドリングストップ時間★

リセットしてからのアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

リセットするには、総アイドリングストップ時間表示中に DISP ボタンを長押しします。

■ エコドライブインジケータ

→ P. 82

■ LDA 警報感度切りかえ

LDA の警報感度を 2 段階から選択することができます。

切りかえるには、LDA 警報感度切りかえ表示中に DISP ボタンを長押しします。

- ・ 現在の設定が表示されたあとに、再度 DISP ボタンを長押しして切りかえます。
- ・ 設定後 DISP ボタンを押すと、設定終了表示に切りかわり、DISP ボタンを長押しすると LDA 警報感度切りかえ表示にもどります。

■ 設定

→ P. 81

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定

各装備の機能の ON / OFF や設定変更などができます。

■ 設定変更のしかた

- 1 設定画面を表示し、DISP ボタンを長押しする
- 2 設定変更したい項目を DISP ボタンを押して選択する
- 3 DISP ボタンを長押しして設定を切りかえる

設定終了表示時に DISP ボタンを長押しすると、ドライブインフォメーションの表示にもどります。

項目		設定内容	設定結果
		ON	パーキングサポートブレーキを ON / OFF できます。(→ P. 205)
		OFF	
	設定	ON	クリアランスソナーを ON / OFF できます。(→ P. 196)
		OFF	
	ブザー音量	1	クリアランスソナーのブザー音量を調整できます。(→ P. 196)
		2	
		3	
先行車 発進	告知設定	ON	先行車発進告知の ON / OFF と告知タイミングを調整できます。
		OFF	
	告知 タイミング	早い	
		普通	
		遅い	
割込表示		 状態 通知★	選択した機能の割り込み表示 (→ P. 80) を ON / OFF できます。
		 時間 割込★	
 表示		ON	エコドライブインジケータランプ (→ P. 82) を ON / OFF できます。
		OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エコドライブインジケーター

① エコドライブインジケーターランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

② エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

③ 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。
このとき、エコドライブインジケーターランプは消灯します。

④ エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーがD以外にあるとき
- 車速が約100km/h以上のとき

■外気温表示について

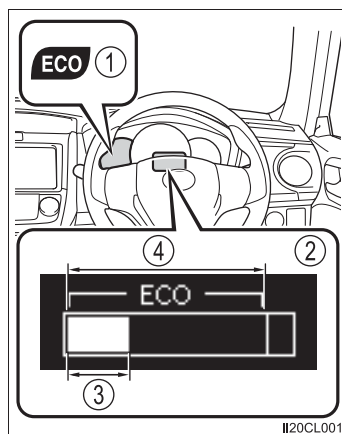
次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約20km/h以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “—”が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うとき、次のデータはリセットされます。

- 平均燃費
- 航続可能距離
- 総アイドルストップ時間



■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状況になるとオドメーター表示にもどります。

- 走行し始めたとき
- 約 30 秒間操作がされなかったとき

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。



警告

■ 設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

各部の操作**3**

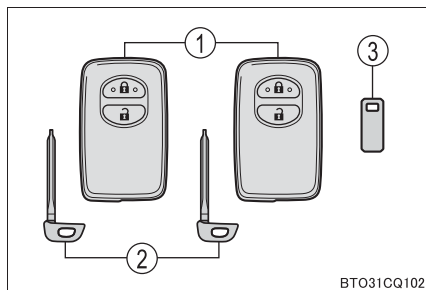
3-1. キー	
キー	86
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア（フロントドア、 リヤドア）	89
バックドア	93
3-3. シートの調整	
フロントシート	97
リヤシート	98
ヘッドレスト	100
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	103
インナーミラー	105
ドアミラー	106
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	108

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

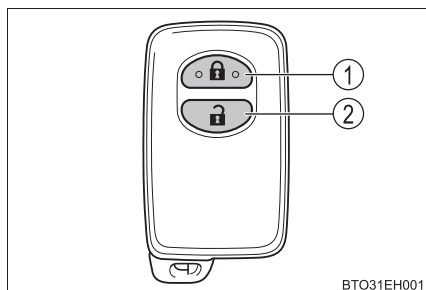
- ① 電子キー
 - ・ エンジンの始動・停止 (→ P. 126)
 - ・ ワイヤレス機能の作動
- ② メカニカルキー
- ③ キーナンバープレート



BT031CQ102

ワイヤレスリモコン

- ① 全ドアを施錠する (→ P. 89)
- ② 全ドアを解錠する (→ P. 89)

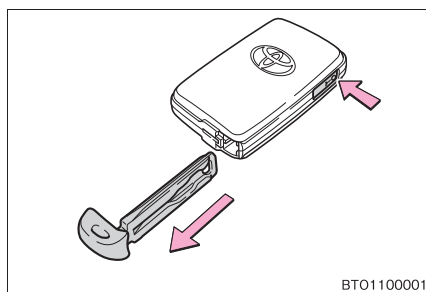


BT031EH001

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→ P. 339)



BT01100001

 知識

■ メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 299）
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ ワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ エンジンを始動することができない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→ P. 265

■ 長期間運転しないとき

あらかじめプッシュボタンスタートシステムを非作動にすることができます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けたりしない

■キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

- ・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- ・必ず日本国内でご使用下さい。

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■プッシュボタンスタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

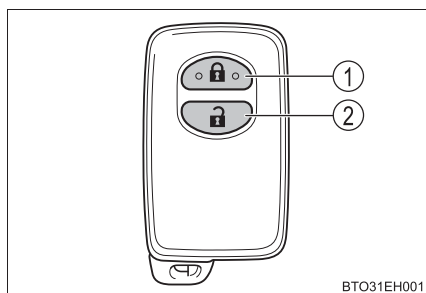
■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

ドア（フロントドア、リヤドア）

車外からの解錠／施錠

- ① 全ドアを施錠する
必ず施錠されたことを確認してください。
- ② 全ドアを解錠する



知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■ 解錠後のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

ワイヤレスリモコンは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、ワイヤレスリモコンやエンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 339）

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。

ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

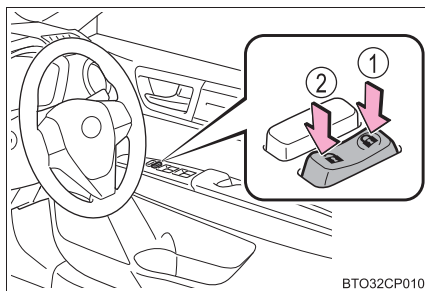
メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 339）

電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 265）

車内からの解錠／施錠

◆ ドアロックスイッチ

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する

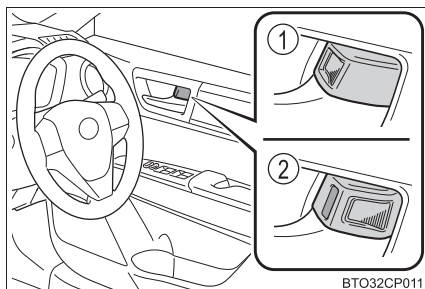


BTO32CP010

◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



BTO32CP011

キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

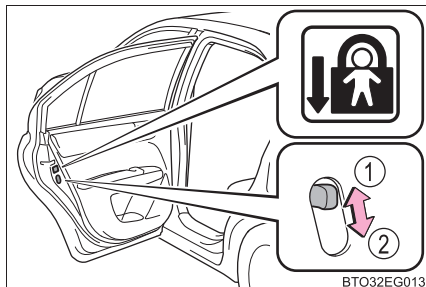
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



BTO32EG013

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■カスタマイズ機能

施錠・解錠時のブザー音量などを変更できます。(カスタマイズ一覧: → P. 361)

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアレバーを引かない

ドアが開き車外に放り出されるおそれがあります。

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

◆ ワイヤレスリモコン

→ P. 89

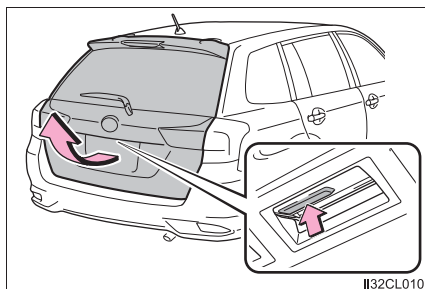
◆ ドアロックスイッチ

→ P. 91

バックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

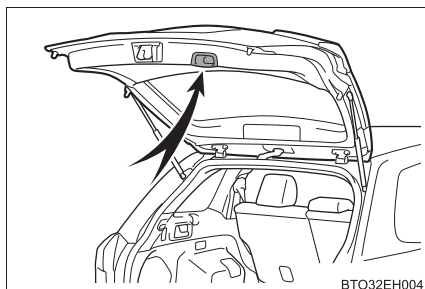
バックドアオープンスイッチを押したあと、約 1 秒間はバックドアを閉めることができません。



II32CL010

バックドアを閉めるとき

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



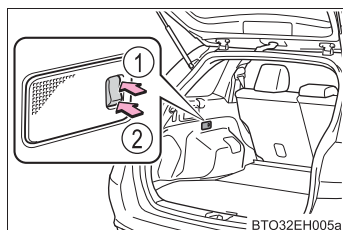
BTO32EH004

知識

■ ラゲージルームランプ

スイッチを ON にしておくとバックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

- ① ON
- ② OFF



警告

■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

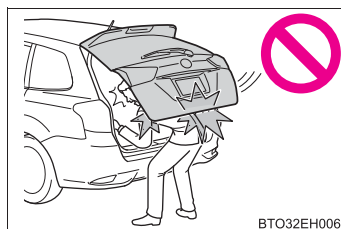
■ バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。

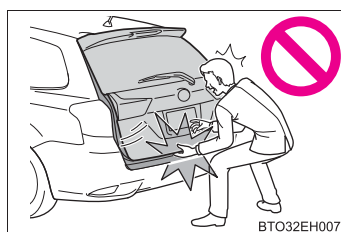
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

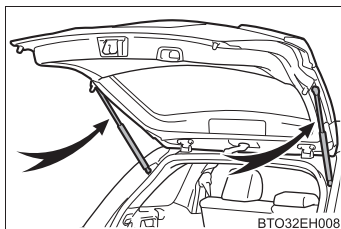


- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

 注意**■ ダンパーステアについて**

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着剤などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリを付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



フロントシート

調整のしかた



- ① 前後位置調整 ③ シート全体の上下調整
② リクライニング調整 (運転席のみ)

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

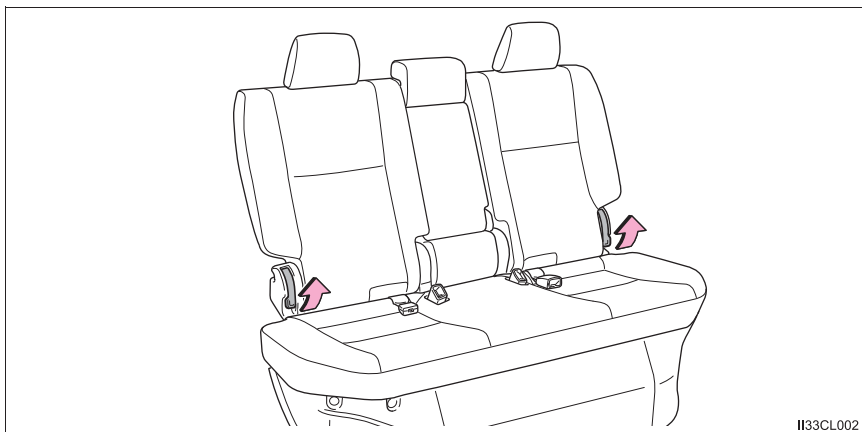
- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

- 走行中は背もたれを必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害および、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

リヤシート

調整のしかた

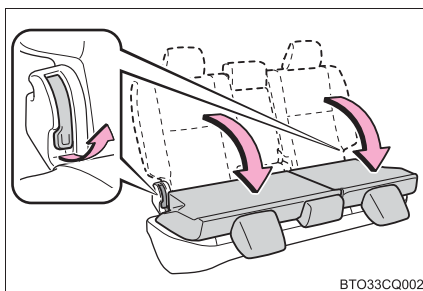


リクライニング調整

前倒しのしかた

- 1 中央席シートベルトを分離し、格納する (→ P. 28)
- 2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 100)
- 3 背もたれを倒す

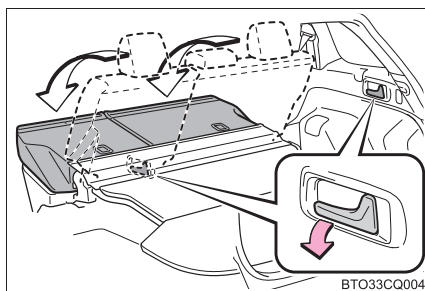
▶ リクライニングレバー



リクライニングレバーを引き、背もたれを前方に倒す

もどすときは背もたれを起こし、固定してください

▶ ラゲージルームハンドル



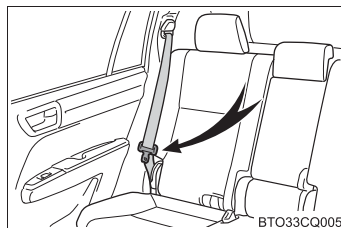
ラゲージルームデッキサイドのハンドルを引き、背もたれを前方に倒す

もどすときは背もたれを起こし、固定してください

 知識

■ 背もたれをもとにもどしたときは

シートベルトのプレートがシートの前側にあることを確認してください

 警告

■ 背もたれを前倒しするとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、オートマチック車ではシフトレバーを P、マニュアル車ではシフトレバーを R にする
- 操作するときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。
- シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷付くおそれがあります。

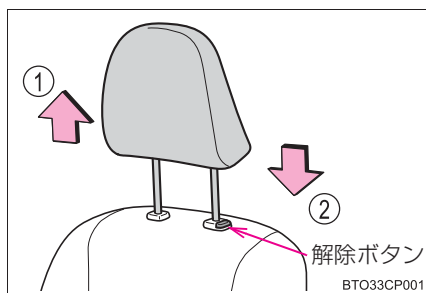
ヘッドレスト

フロントシート／リヤシート（左右席）

上下調整

- ① 上げる
- ② 下げる

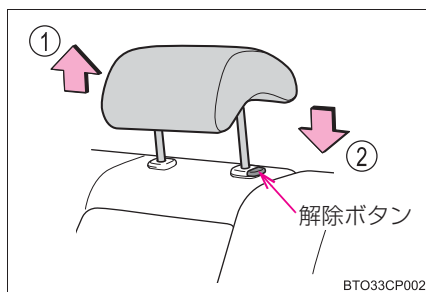
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



リヤシート中央席

- ① 上げる
- ② 下げる

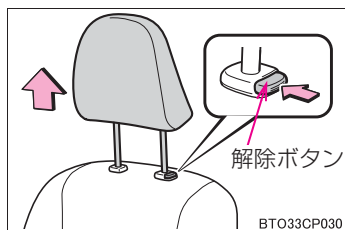
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



 知識

■ ヘッドレストを取りはずすとき

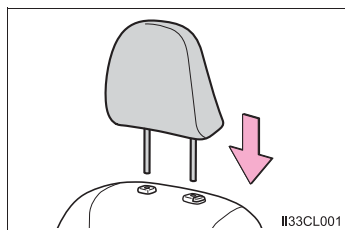
解除ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ ヘッドレストを取り付けるとき

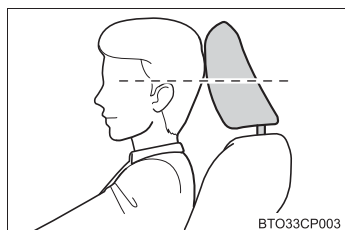
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください



■ ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■ リヤシート中央席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

**警告****■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

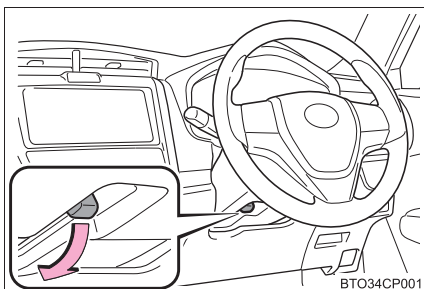
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

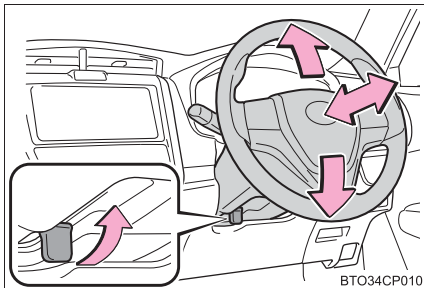
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



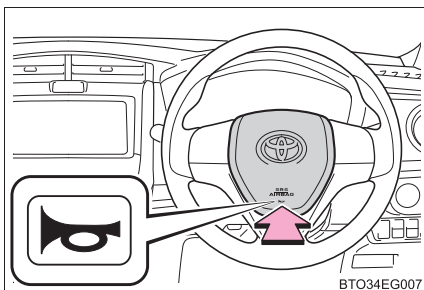
- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



**警告****■ 走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

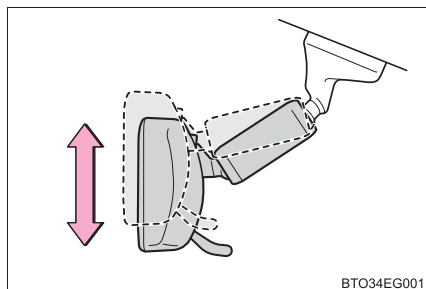
ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

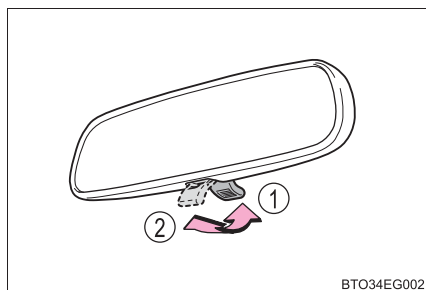
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

- ① 通常使用時
- ② 防眩時



⚠ 警告

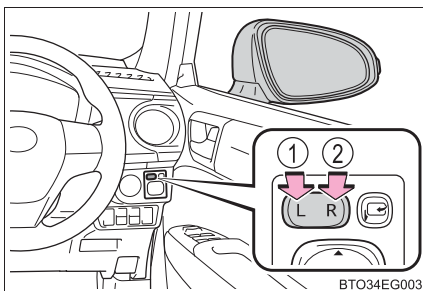
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた

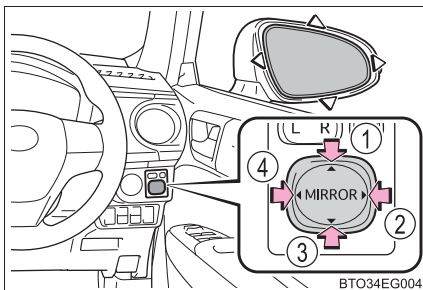
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

- ① 左
- ② 右



- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

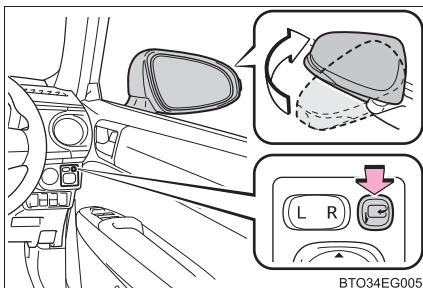
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する

ボタンを押す

もう一度押すと、もとの位置にもどります



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッションONモードのとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 227）

 警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウィンドウ

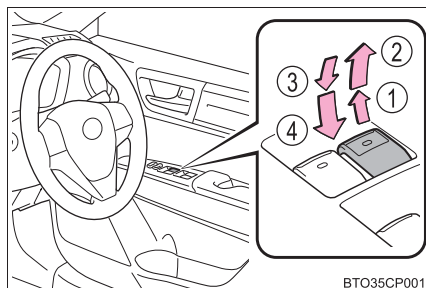
開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

- ① 閉める
- ② 自動全閉 ※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

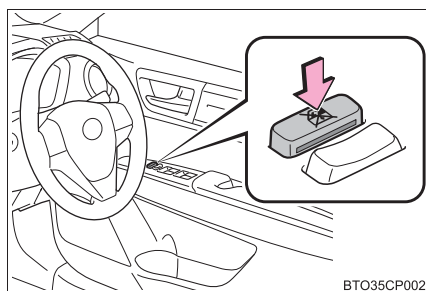


BTO35CP001

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



BTO35CP002

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■パワーウィンドウを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチをイグニッションONモードの状態です挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が作動した後 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない。または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

！ 警告

次のことを必ずお守りください。

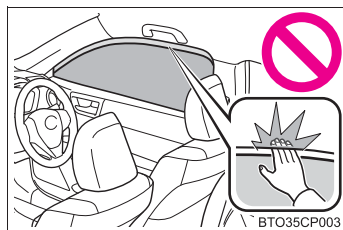
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 108)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- 車から離れるときはエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	112
荷物を積むときの注意	124

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	126
オートマチック トランスミッション	138
マニュアル トランスミッション	140
方向指示レバー	142
パーキングブレーキ	143

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	144
ワイパー&ウォッシャー （フロント）	149
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	151

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	153
---------------	-----

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense	156
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	162
LDA（レーンディパーチャー アラート／車線逸脱警報）	175
オートマチックハイビーム	181
先行車発進告知機能	185

4-6. 運転支援装置について

Stop & Start System	187
クリアランスソナー	196
パーキングサポートブレーキ （静止物）	204
運転を補助する装置	215

4-7. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	221
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 126

発進する

▶ オートマチック車

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 138)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 143)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルとブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする (→ P. 140)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 143)
- 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 138)

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏み込んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを N にします。(→ P. 140)

駐車する

▶ オートマチック車

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 143)、シフトレバーを P にする (→ P. 138)
- 3 エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

▶ マニュアル車

- 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 シフトレバーを N にする (→ P. 140)
- 3 パーキングブレーキをかける
- 4 エンジンスイッチを OFF にしてエンジンを停止する
- 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じてシフトレバーを 1 速または R にし、輪止め※を使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

▶ オートマチック車

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶ マニュアル車

- 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを 1 速にする
- 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから徐々に足を離す
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

急発進の抑制（ドライブスタートコントロール）（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、エンジン出力を抑制することがあります。

- ・ R に切りかえたとき ※
- ・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

※ 状況によっては操作できない場合があります。

知識

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について（オートマチック車）

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告灯が点灯※します。
（→ P. 296）

※ マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 306）

■ ドライブスタートコントロールについて（オートマチック車）

TRC の作動を停止（→ P. 217）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→ P. 217）

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂部分（バンパーやバックドア）やアルミ部分に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

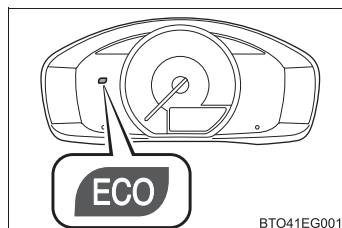
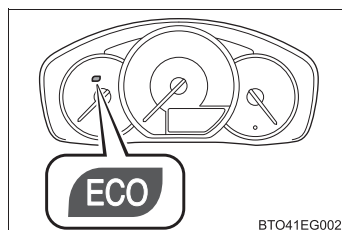
■環境に配慮した運転（オートマチック車）

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケータランプは作動しません。

- シフトレバーがD以外のとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

エコドライブインジケータランプの表示／非表示を設定できます。（→ P. 74, 81）

▶ドライブモニターディスプレイ装着車**▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車**

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

オートマチック車では、エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

● 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

● 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 286を参照してください。

● 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 138, 140)

● 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。

運転を誤るおそれがあります。

● すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- オートマチック車では、車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがP（オートマチック車）またはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。

シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- オートマチック車では、車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
- ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
- ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- ウィンドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウィンドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P（オートマチック車）に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P（オートマチック車）にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

脱出できないときは、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

 注意**■運転しているとき（オートマチック車）**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

 注意**■ 運転しているとき（マニュアル車）**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。
- クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
 - ・ 1 速以外での発進は避ける
 - ・ 坂道発進など、必要以上に半クラッチのままで走行しない
- 車がまだ動いているときに R に入れないでください。
クラッチ・トランスミッション・ギヤに損傷を受けるおそれがあります。

■ 駐車するとき（オートマチック車）

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

 注意**■ 走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 313, 327 を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー (4WD 車)・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト (4WD 車)・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ルーフレール★には直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ルーフレール★を使用するときは

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するとき、2 つ以上のトヨタ純正キャリアを装着してください。トヨタ純正品以外を装着される場合は、トヨタ純正品に相当するものを装着してください。

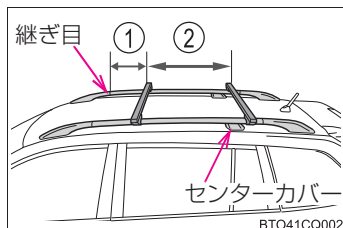
ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

- 次の取り付け位置に荷重が均等になるように積んでください。

① 継ぎ目から 165mm

② 800mm

- うしろ側のキャリアは、必ずセンターカバーの後方に装着してください。



- 車両の大きさ（全長、全幅）をこえる荷物を積まないでください。
- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- 荷物がバックドアやアンテナにあたらないことを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行・急加速・急旋回・急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 60kg 以上の荷物を積まないでください。

■ キャリアの調整について

キャリアを前後にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。急ブレーキや衝突時などに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーをポケットなどに携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。（必ず運転者が携帯してください）

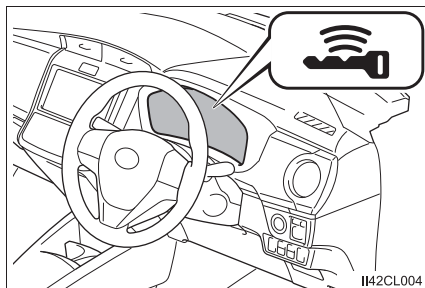
エンジンのかけ方

▶ オートマチック車（ドライブモニターディスプレイ装着車）

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏む

プッシュボタンスタートシステム表示灯が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

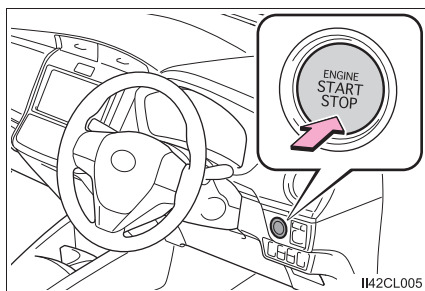


- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



エンジンスイッチのどのモード（→ P. 130）からでもエンジンを始動できます。

▶ オートマチック車（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

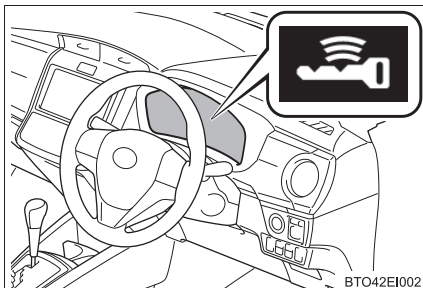
- 1 正しい運転姿勢（→ P. 24）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏む

マルチインフォメーションディスプレイに

が表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません

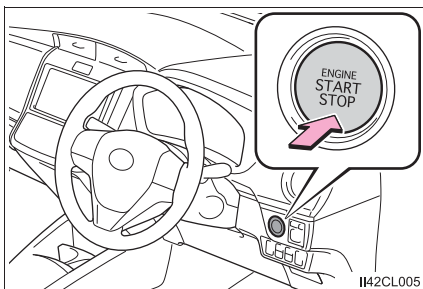


- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



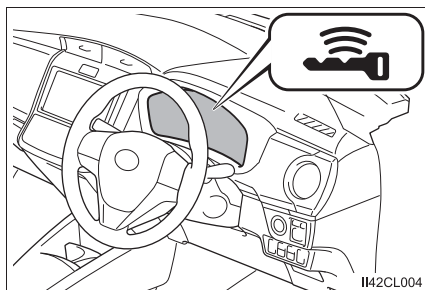
エンジンスイッチのどのモード（→ P. 130）からでもエンジンを始動できます。

▶ マニュアル車

- 1 正しい運転姿勢 (→ P. 24) がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーが N の位置にあることを確認する
- 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

プッシュボタンスタートシステム表示灯が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

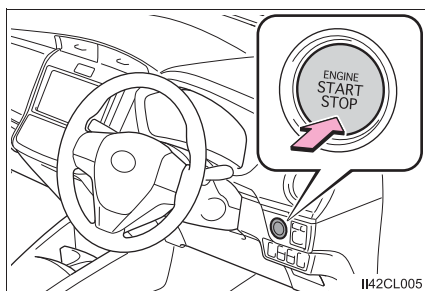


- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまで各ペダルを踏み続けてください。



エンジンスイッチのどのモード (→ P. 130) からでもエンジンを始動できます。

エンジンの停止のしかた

▶ オートマチック車

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 143)、シフトレバーを P の位置にする
- 3 エンジンスイッチを押す
- 4 ドライブモニターディスプレイ装着車：
ブレーキペダルから足を離した状態にして、プッシュボタンスタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

マルチインフォメーションディスプレイ装着車：
ブレーキペダルから足を離した状態にして、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していることを確認する

▶ マニュアル車

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーを N の位置にする
- 3 パーキングブレーキをかける (→ P. 143)
- 4 エンジンスイッチを押す
- 5 クラッチペダルとブレーキペダルから足を離した状態にして、プッシュボタンスタートシステム表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

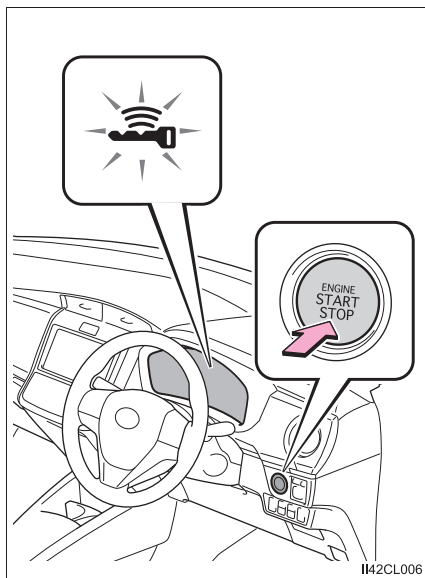
プッシュボタンスタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

プッシュボタンスタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

※ シフトレバーがP以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。（オートマチック車）



▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

OFF ※

非常点滅灯が使用できます

アクセサリモード

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」が表示されます。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリモードになり、OFF になりません



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき（オートマチック車）

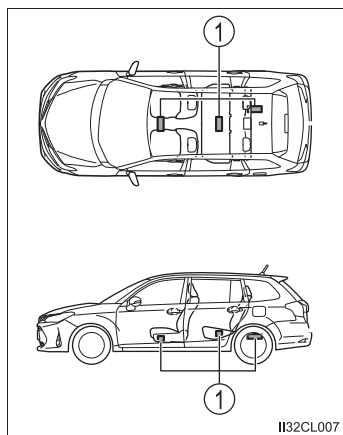
シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 ドライブモニターディスプレイ装着車：
 プッシュボタンスタートシステム表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
 マルチインフォメーションディスプレイ装着車：
 マルチインフォメーションディスプレイに「電源 ON」と表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
- 4 ドライブモニターディスプレイ装着車：
 プッシュボタンスタートシステム表示灯が消灯していることを確認する
 マルチインフォメーションディスプレイ装着車：
 マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していることを確認する

 知識

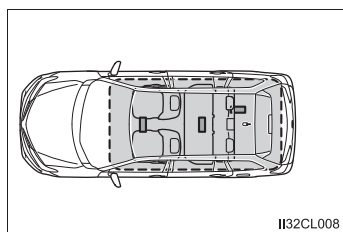
■ アンテナの位置

① 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

車内で電子キーを携帯している場合に、エンジンの始動、またはエンジンスイッチのモードの切りかえ操作が可能になります。



■警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、警告灯が点灯※することがあります。警告灯が点灯※したときは、状況に応じて適切に対処してください。(→P. 299)

※ マルチインフォメーションディスプレイ装着車では、警告メッセージが表示されます。ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 310)
警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のとおりです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と鳴り続ける	シフトレバーをP以外※の状態、エンジンスイッチをOFFにせず運転席ドアを開いた	・ シフトレバーをPにする ・ エンジンスイッチをOFFにする
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

※ オートマチック車

■自動電源 OFF 機能

▶ オートマチック車

シフトレバーがPにあるとき20分以上アクセサリーモードか1時間以上イグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態)にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

▶ マニュアル車

20分以上アクセサリーモードか1時間以上イグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態)にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源OFF機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンが始動していないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 87

■電子キーが正常に働かないおそれのある状況

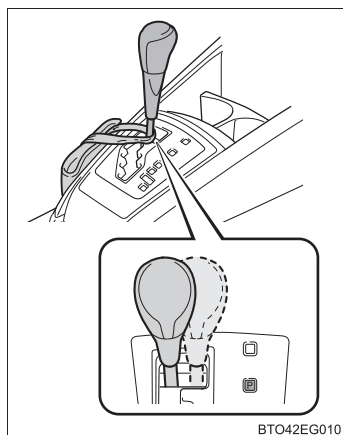
→ P. 89

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のようなときは正しく作動しないことがあります。
 - ・エンジン始動時やエンジンスイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている
- インストルメントパネル上面に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

■エンジンが始動しないとき

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→ P. 62)
トヨタ販売店へご連絡ください。
- 次の状況では、ステアリングロックが解除されていない可能性があります。
 - ・シフトレバー（オートマチック車）に袋などをかけている
 - ・エンジンスイッチを押す前にシフトレバー（オートマチック車）を傾けた



BTO42EG010

■ステアリングロックについて

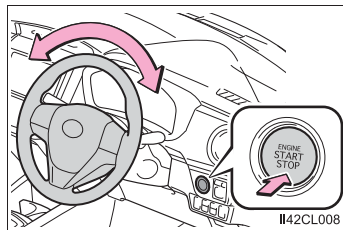
エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

ドライブモニターディスプレイ装着車：
プッシュボタンスタートシステム表示灯が
15 秒間緑色に速く点滅します。

マルチインフォメーションディスプレイ装
着車：

マルチインフォメーションディスプレイに
「ステアリングロック未解除」が表示されま
す。



シフトレバーが P（オートマチック車）の位置にあることを確認して、ハンドル
を左右にまわしながら再操作してください。

■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止の
ために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。
2 秒～ 10 秒程度でもとの状態にもどります。

■プッシュボタンスタートシステム表示灯が黄色に点滅したとき（ドライブモニターディスプレイ装着車）

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けて
ください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 265

■エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切り替えやエンジンの始
動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場
合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作して
ください。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、シ
ステムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ
込み防止機能が働かないこともあります：→ P. 133, 299）

■電子キーが正常に働かないとき

→ P. 339

■カスタマイズ機能

プッシュボタンスタートシステムを非作動にすることができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 361）

■販売店でプッシュボタンスタートシステムを非作動にしたとき

- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切りかえ：→ P. 339
- エンジンの停止：→ P. 129

⚠ 警告**■エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 286)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

■電波がおよぼす影響について（プッシュボタンスタートシステムアンテナ）

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 132）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

プッシュボタンスタートシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- ドライブモニターディスプレイ装着車：
エンジンがかかっていないときに、プッシュボタンスタートシステム表示灯が消灯していないときはエンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- マルチインフォメーションディスプレイ装着車：
エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「電源 ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。
- オートマチック車はシフトレバーが P 以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

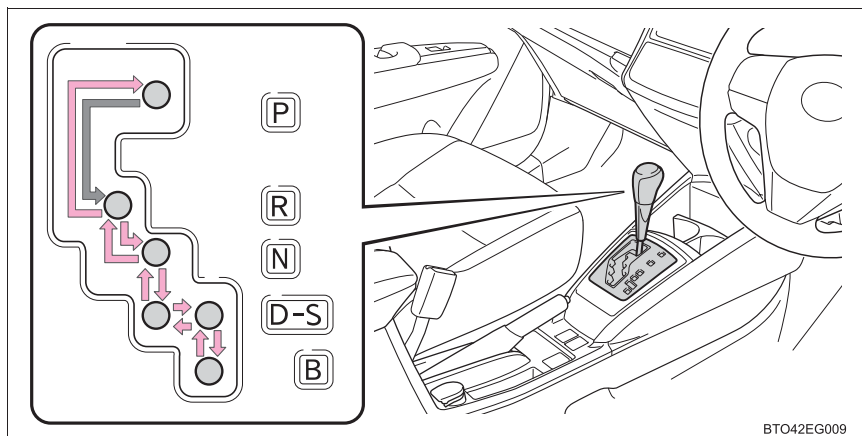
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション★

シフトレバーの動かし方



← エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態です。ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチがイグニッションONモードでブレーキペダルを踏んだ状態であれば、シフトレバーをPからシフトできません。

■ シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

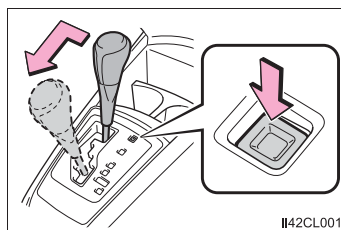
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

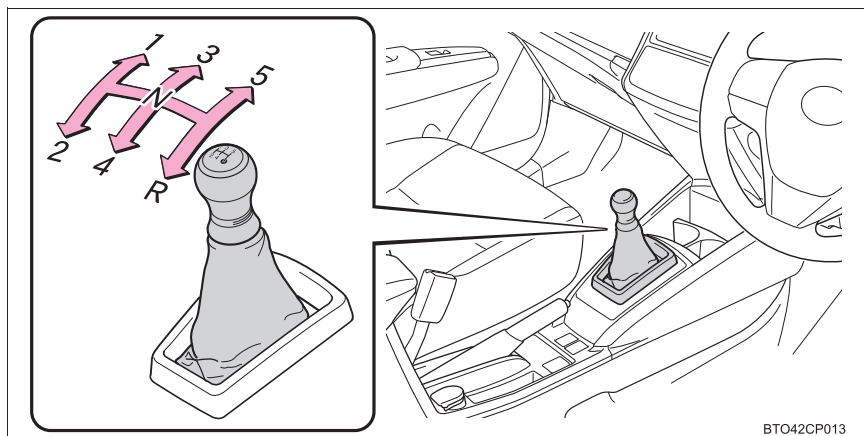
■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション★

シフトレバーの動かし方



BTO42CP013

クラッチペダルをしっかりと踏み、シフトレバーをゆっくり操作します。誤操作を防ぐため、5 から R へは直接入れることができません。いったん N に入れてから R に入れます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が次に記載してある数値をこえないようにしてください。

(km/h)

シフト位置	最高速度
1	46
2	87
3	134
4	180

警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

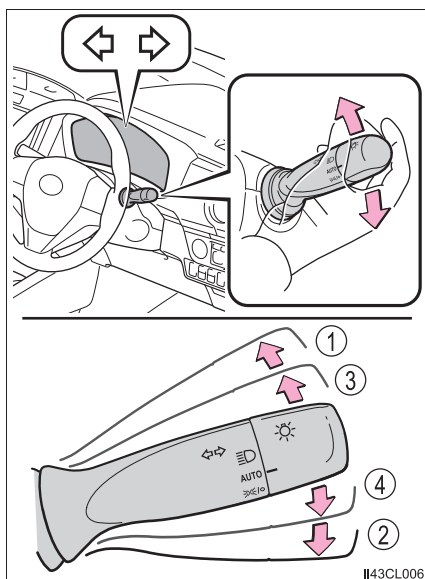
操作のしかた

- ① 左折
- ② 右折
- ③ 左側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

- ④ 右側へ車線変更
(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

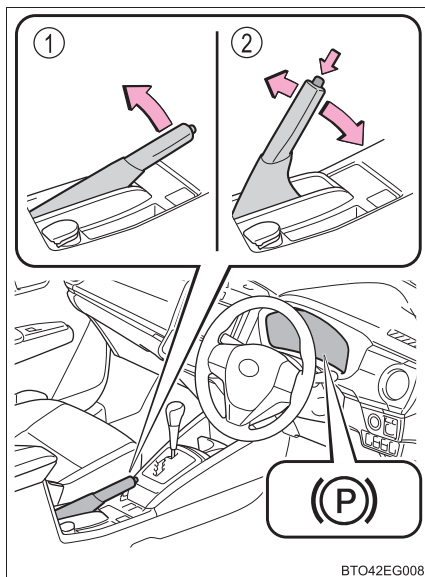
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

- ① パーキングブレーキをかけるにはブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- ② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす



知識

■ 駐車するとき

→ P. 113

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 222

■ パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→ P. 297

注意

■ 走行前の注意

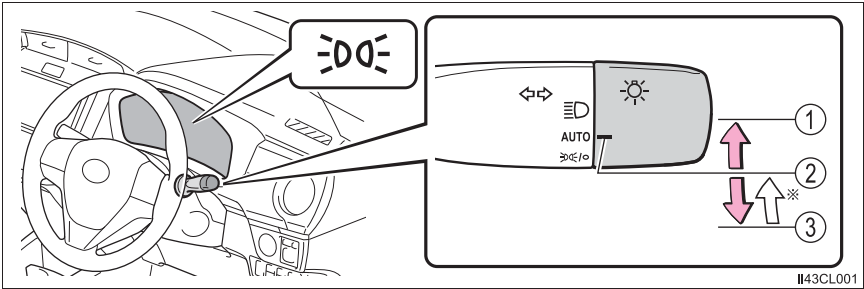
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
① 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO ※ ¹	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③  ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを意味します。

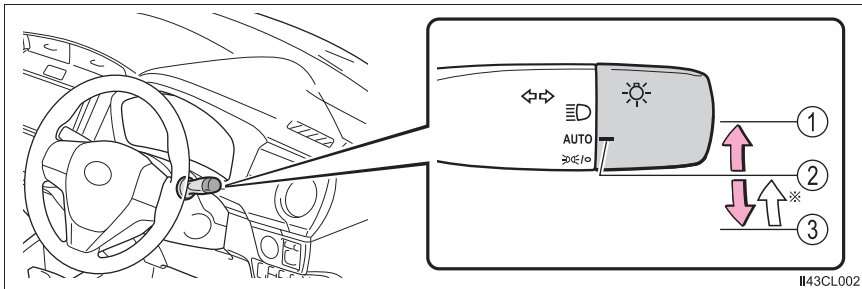
※¹ 操作するたびに、② AUTO による点灯状態と③  による点灯状態が切りかわります。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② AUTO による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

☼ スイッチを③  の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に①  か③  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に②  AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ 	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

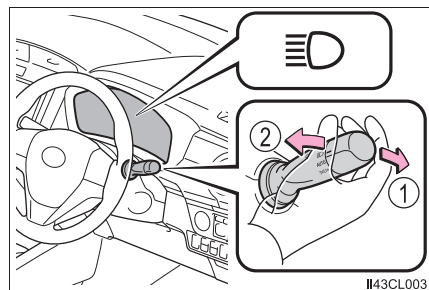
ハイビームにする

- ① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

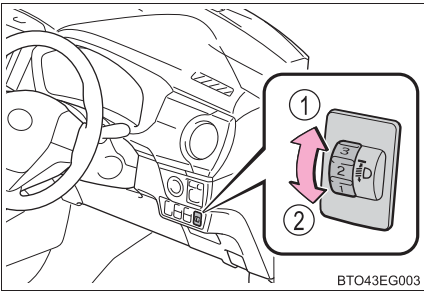
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	FF 車 (前輪駆動)	4WD 車 (4 輪駆動)
運転者	なし	0	0
運転者と助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	2	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4.5	5

 知識

■ AUTO モードの作動条件

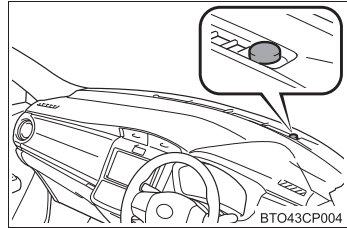
イグニッション ON モードのとき

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから  または  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチがアクセサリモードまたは OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。

次のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

- エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 361)

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

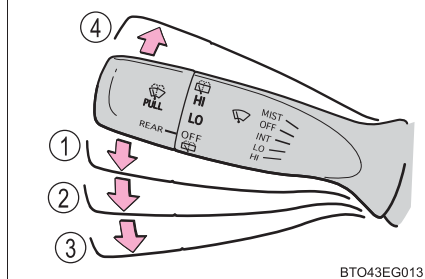
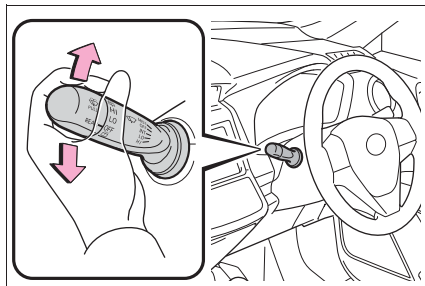
エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

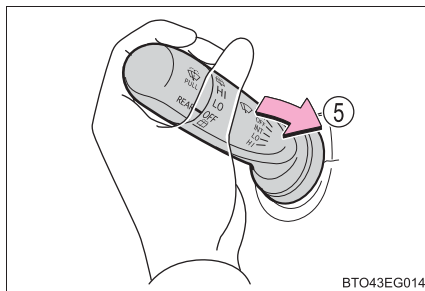
次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

- ① 間欠作動（INT）
- ② 低速作動（LO）
- ③ 高速作動（HI）
- ④ 一時作動（MIST）



BTO43EG013

- ⑤  ウォッシャー液を出す
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



BTO43EG014

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

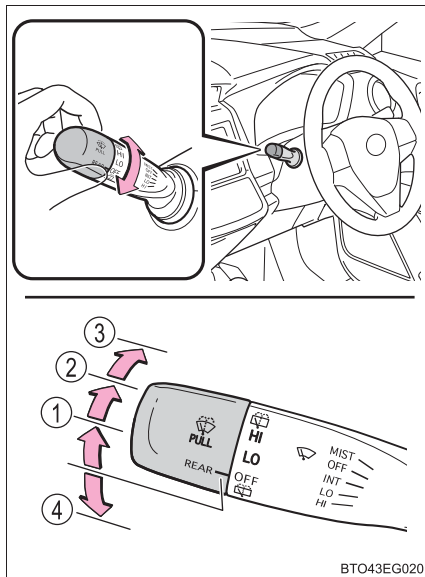
ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）

操作のしかた

次のように **REAR** スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

- ① 間欠作動（LO）
- ② 通常作動（HI）
- ③  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- ④  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 注意**■ リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉めて、エンジンスイッチをOFFにしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

 警告**■ 給油するときは**

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- ふきこぼれを防ぐため次の点に注意してください。
 - ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
 - ・ 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意**■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

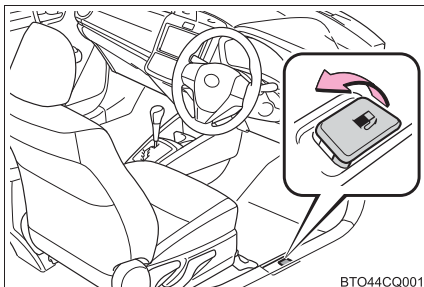
次のような状態になるおそれがあります。

- ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジンの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

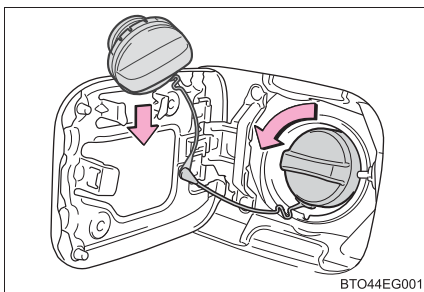
※エタノール混合率10%をこえるもの、またはETBE混合率22%をこえるもの

給油口の開け方

- 1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



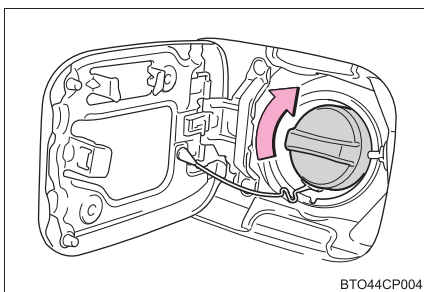
- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



給油口を閉める

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
→ P. 162
- LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）
→ P. 175
- オートマチックハイビーム
→ P. 181
- その他の運転支援機能
先行車発進告知機能
→ P. 185

警告

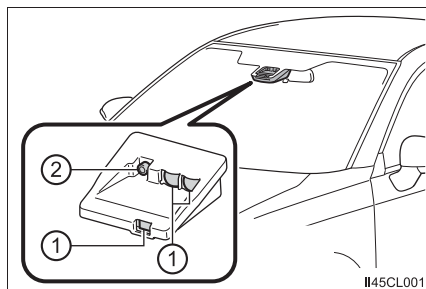
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムの認識性能・制御性能には限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

- ① レーザーレーダー
- ② 前方カメラ



警告

■ 前方センサーについて

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目には障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞき込まないでください。

レーザー等級ラベル

**INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT**

レーザー説明ラベル

**Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm**

IEC 60825-1:2007

Complies with FDA performance standards for laser products
except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）：45 mW

パルス持続時間：33 ns

波長：905 nm

発散角（水平 × 垂直）：28° × 12°

警告

■ 前方センサーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

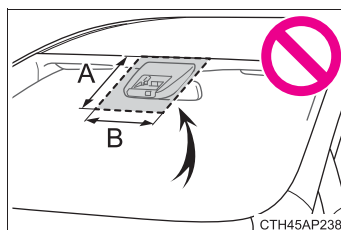
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

● フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで

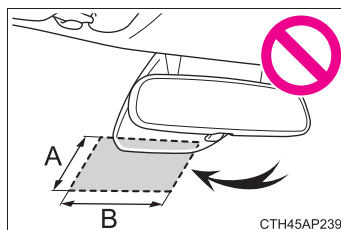
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



● フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない

A：前方センサー下端から下約 10cm まで

B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



● 冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点灯します。その場合は、エアコンの除湿機能で曇りなどを取り除いてください。（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 227）

● 前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る 水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。

 警告

- 前方センサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- インナーミラーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

■ フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇りやすい状況のときには、ヒーターにより前方センサー周辺のフロントウインドウガラスが熱くなっていることがあり、ふれるとやけどをするおそれがあります。

 知識

■ PCS 警告灯が点滅または点灯、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

- 次の状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が消え、作動可能状態になります。

対処を行っても PCS 警告灯が点滅または点灯したままのとき、および警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・ 汚れや付着物を取り除く。 ・ 前方センサー周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 227）
炎天下や極寒の環境など、前方センサー周囲の温度などが作動条件外るとき	炎天下での駐車時など、前方センサーが高温のときは、エアコンでセンサー周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方センサーが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方センサーが低温のときは、エアコンで前方センサー周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方センサーの視界がさえぎられないようにする

- 周囲の環境（暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できない状況）が改善されたり、しばらく走行したりしても PCS 警告灯や警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 162）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON / OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 166）

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 歩行者

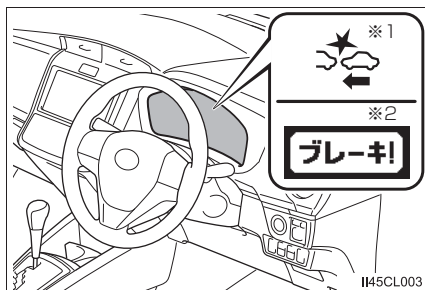
機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 作動表示灯が点滅 ※¹、またはマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示 ※²し、回避操作をうながします。

※¹ ドライブモニターディスプレイ装着車

※² マルチインフォメーションディスプレイ装着車



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴ってブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき：
→ P. 169
 - ・ システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 172
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告**■プリクラッシュブレーキについて**

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。
- 走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保してください。
 - ・ 車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
 - ・ 減速中にアクセルペダルを深く踏み込む (→ P. 169)
 - ・ プリクラッシュセーフティを OFF にする (→ P. 166)

 警告**■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、
最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引してもらうとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき（→ P. 257, 262）
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティを OFF にする

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す

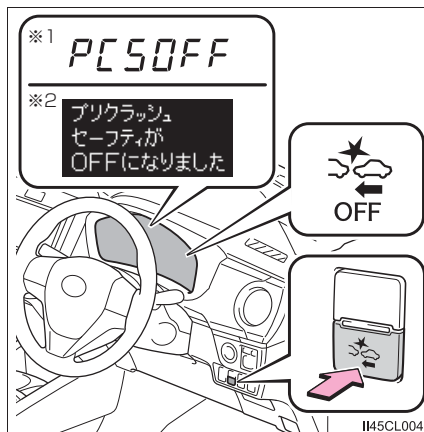
システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、メーター※¹ またはマルチインフォメーションディスプレイ※²にメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

エンジンを始動するたび、プリクラッシュセーフティは ON になります。

※¹ ドライブモニターディスプレイ装着車

※² マルチインフォメーションディスプレイ装着車



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

PCS スイッチを押すと PCS 作動表示灯 ※¹ が点灯し、メーター ※¹、またはマルチインフォメーションディスプレイ ※² に現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF の状態から ON にすると「中間」に戻ります。

① 早い

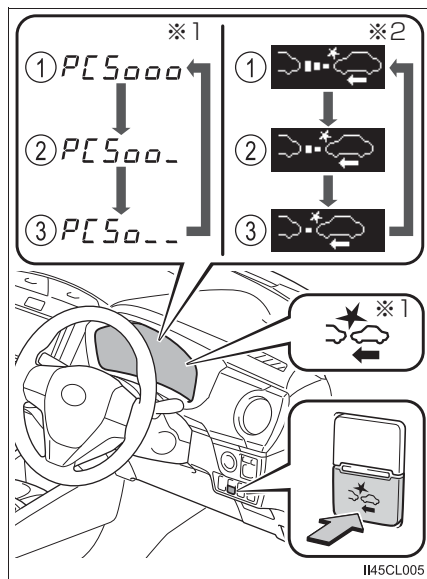
② 中間

初期設定

③ 遅い

※¹ ドライブモニターディスプレイ装着車

※² マルチインフォメーションディスプレイ装着車



知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 15 ～ 140km/h	約 15km/h 以上
歩行者	約 15 ～ 65km/h	約 15km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 80km/h	約 30km/h 以上
歩行者	約 30 ～ 65km/h	約 30km/h 以上

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 80km/h	約 10km/h 以上
歩行者	約 10 ～ 65km/h	約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

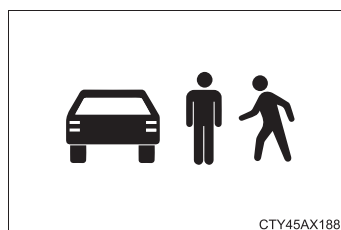
- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 172）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

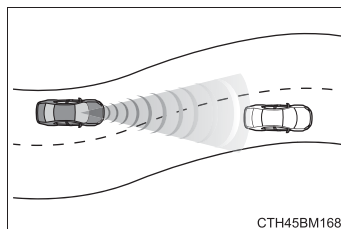
- アクセルペダルを強く踏み込む※
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

※ 車速が約 15km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

■衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

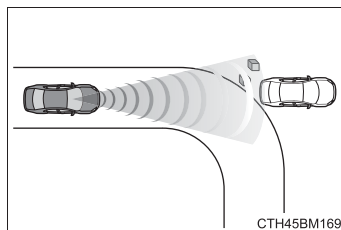
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



CTH45BM168

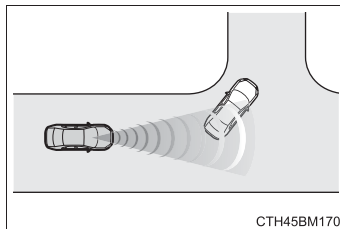
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



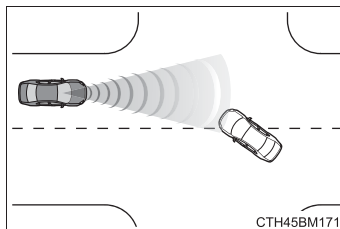
CTH45BM169

- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

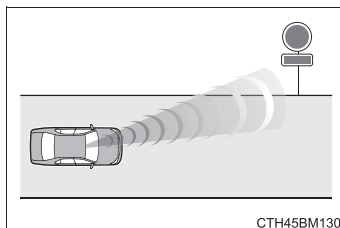
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



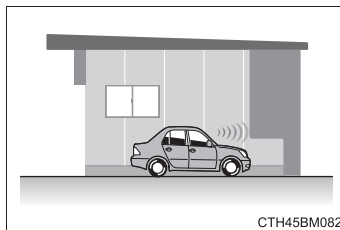
- ・ 右左折時に作動対象とすれ違ったとき
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



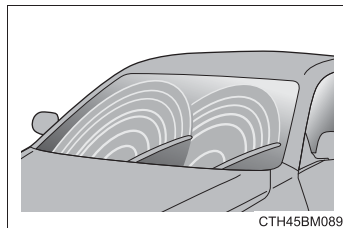
- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に光を反射する物（マンホール・反射材など）・段差・突起物があるとき
- ・ センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき



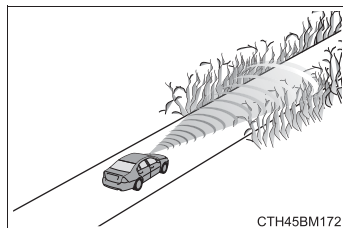
- ・ 前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき



- ・ フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

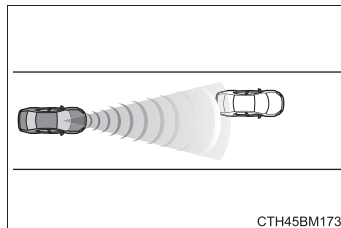


- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

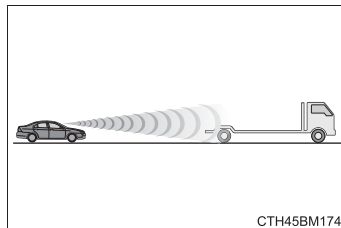
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

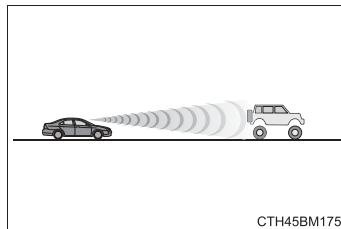
- ・ 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



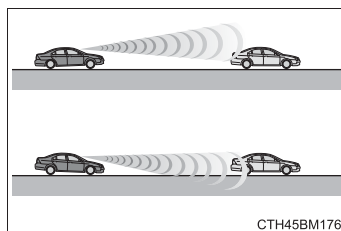
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両が自転車・オートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 歩行者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- ・ 歩行者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
- ・ 作動対象がレーザー波を反射しにくい状態のとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき

- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
 - ・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合(ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど)
 - ・車両の整備状態(ブレーキ部品・タイヤの磨耗や空気圧など)が良好でないとき
 - ・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

- VSC の作動を停止(→P. 217)したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイ※に「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

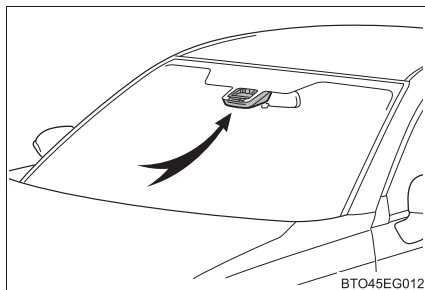
※ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

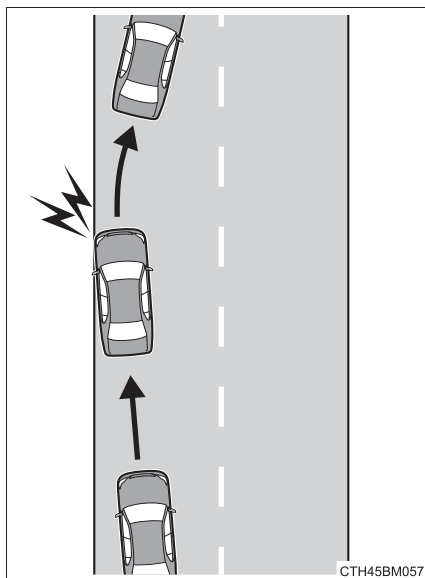
LDA は、フロントウィンドウガラス上部の前方センサーで、白（黄）線を認識します。



車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、ディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



 警告**■ LDA をお使いになる前に**

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

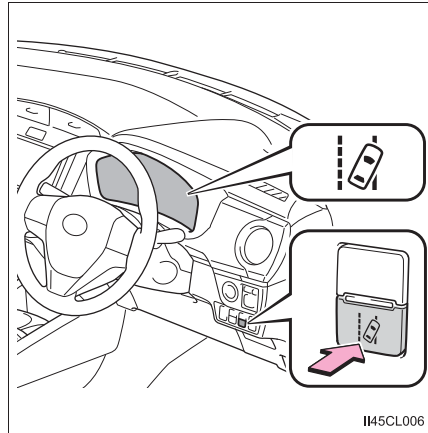
設定のしかた

LDAを使用するにはLDAスイッチを押す

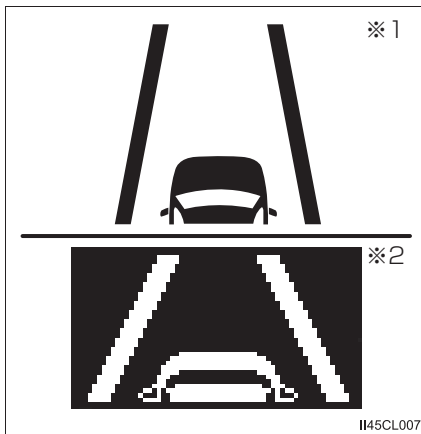
メーター内のLDA表示灯が緑色で点灯します。

OFFにするには再度LDAスイッチを押します。

いったんLDAをON/OFFすると、次回エンジンを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



ディスプレイ表示

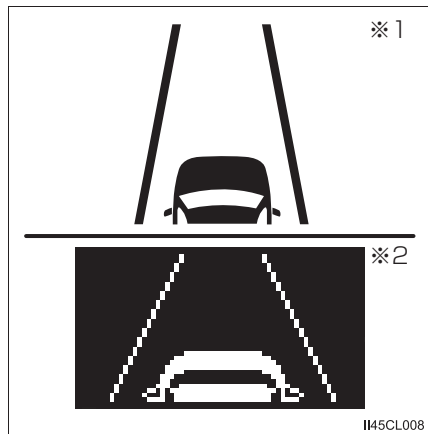


白線表示が太いとき：

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が点滅します。

※1 ドライブモニターディスプレイ装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車



白線表示が細いとき：

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※1 ドライブモニターディスプレイ装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車

 知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LDA を ON にしているとき
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- システムの異常が検知されていないとき（→ P. 297, 301）

■ 機能の一時解除

作動条件（→ P. 178）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、再び作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオ★の音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■ 白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■ 炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、PCS 警告灯が点灯 ※¹（→ P. 297）、またはマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示 ※²（→ P. 301）されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 157）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

※¹ ドライブモニターディスプレイ装着車

※² マルチインフォメーションディスプレイ装着車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないおそれがあります。

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路びょう）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき
- 分岐・合流路などを走行しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 急カーブを走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■ LDA 表示灯が黄色で点灯したとき（ドライブモニターディスプレイ装着車）

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ LDA の警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

走行に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→ P. 301）

■ カスタマイズ機能

次の設定を変更できます。

機能	設定内容
車線逸脱警報	警報感度

設定変更のしかたは、P. 73, 80 を参照してください。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

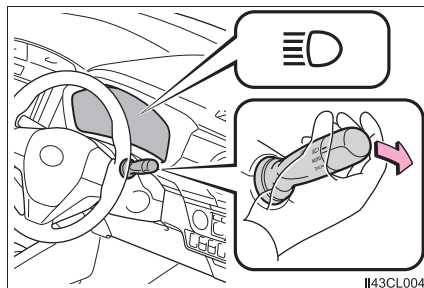
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

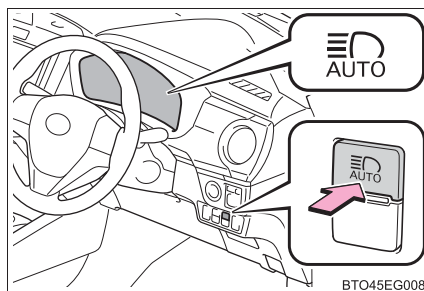
オートマチックハイビームの使い方

- 1 ランプスイッチを  にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



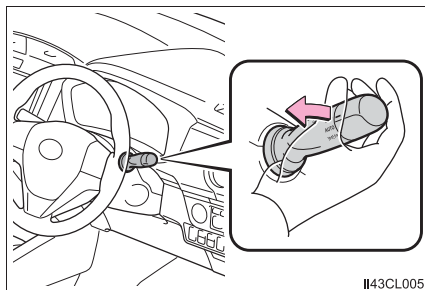
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯します。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度レバーを前方に押します。

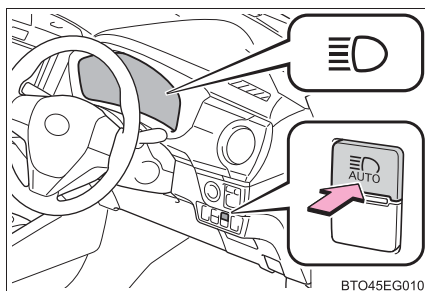


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームス
イッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が
消灯し、ハイビーム表示灯が点灯し
ます。

オートマチックハイビームにもどす
には、再度スイッチを押します。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・ 車速が約 30km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がない
- ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

● 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・ 車速が約 25km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両がランプを点灯している
- ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■ 前方センサーの検知について

● 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- ・ 他車が前方を横切ったとき
- ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・ 前方車両が無灯火のとき

● 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

● 街路灯や信号機・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

● 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・ 前方車両のランプの明るさ
- ・ 前方車両の動きや向き
- ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・ 前方車両が二輪車のとき
- ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・ 乗車人数や荷物の量

- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ 前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ 前方センサーの温度が非常に高いとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があるとき、または光軸がずれているとき
 - ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
 - ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
 - ・ カーブが多い道路を走行しているとき
 - ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
 - ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
 - ・ 自車のヘッドランプが破損しているときや、汚れているとき
 - ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■ オートマチックハイビーム表示灯が黄色で点灯したとき（ドライブモニターディスプレイ装着車）

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P. 306）

先行車発進告知機能

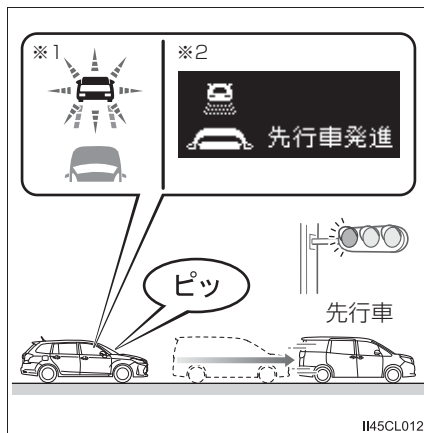
先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとドライブモニターディスプレイ、またはマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。

※¹ ドライブモニターディスプレイ装着車

※² マルチインフォメーションディスプレイ装着車



II45CL012

知識

■ 作動条件

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき（オートマチック車）
- シフトレバーが R 以外で、ブレーキペダルを踏んで停止しているとき（マニュアル車）

■ 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検出できず、システムは正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停車位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ブリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障により PCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■ 先行車が発進していなくても先行車発進告知機能が作動するおそれがあるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車と認識したとき
- 自車と先行車のあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したとき

■ 先行車発進告知機能の設定を変更するには

ドライブモニターディスプレイのカスタマイズモード（→ P. 74）や、マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 81）で、先行車発進告知機能に関する次の設定を変更することができます。

- 先行車発進告知機能の ON / OFF
- 先行車発進告知機能の告知タイミング

Stop & Start System ★

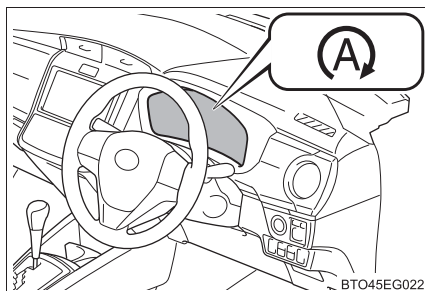
赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルまたはシフトレバーの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

Stop & Start システムの操作 (D・S・B レンジアイドリングストップ)

■ エンジンが停止する

シフトレバーをD・S・Bで走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

Stop & Start 表示灯が消灯します。

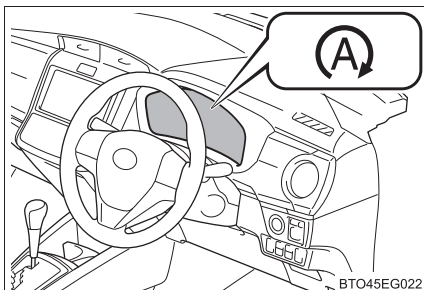
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Stop & Start システムの操作 (P・Nレンジアイドリングストップ)**■ エンジンが停止する**

- 1 ブレーキペダルを踏み、車両を完全に停止させる
- 2 シフトレバーを P または N にすると、エンジンが自動的に停止します。

Stop & Start 表示灯が点灯します。

D・S・Bレンジアイドリングストップ状態で、シフトレバーを P または N にしても、エンジンの停止状態は継続されます。

**■ エンジンが再始動する**

シフトレバーを D・S・B・R のいずれかにすると、エンジンが再始動します。

シフトレバーの操作はブレーキペダルを踏んで行ってください。

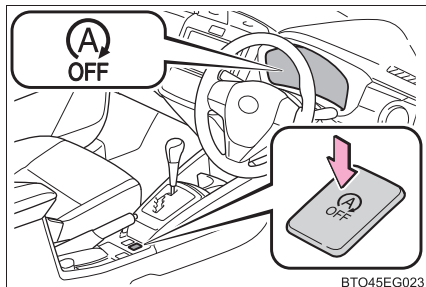
Stop & Start 表示灯が消灯します。

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押す

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。
- Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますがエンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに、Stop & Start システムによってエンジンが停止します。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、エンジンが再始動し駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ力を一時的に保持し坂道での車両後退を抑制します。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ力を自動的に解除します。

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- ブレーキペダルの踏み応えがかわったり、振動が発生したりすることがありますが異常ではありません。

 知識

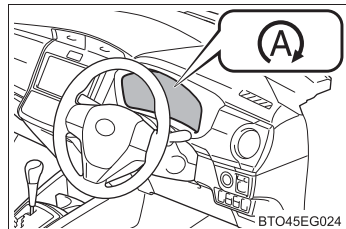
■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ 外気温が -5°C 以上のとき
 - ・ シフトレバーが R 以外のとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき (→ P. 253)
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ 外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
 - ・ 定期的な充電中のとき
 - ・ バッテリーが十分に充電されていないとき (例: 長時間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化)
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ハンドル操作をしているとき
 - ・ 渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・ 標高が高いとき
 - ・ エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ バッテリー液温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだ

- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動します。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ エアコンを ON にしたとき
 - ・ ハンドル操作したとき
 - ・ P・Nレンジアイドリングストップ中にシフトレバーをD・S・B・Rにしたとき
 - ・ 運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・ 運転席ドアを開けたとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
 - ・ 坂道などで車両が動き出したとき
- Stop & Start システムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。(Stop & Start システムによるエンジン停止を再度行うには、一度走行してください)
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む、またはポンピングブレーキをしたとき
 - ・ エアコンを使用しているとき
 - ・ バッテリーの充電量が低下しているとき

■ Stop & Start 表示灯について

走行中に Stop & Start システムの作動条件が満たされると、Stop & Start 表示灯が点灯し、停止時に Stop & Start システムが作動可能状態であることをお知らせします。



■ ボンネットを開けたときは (D・S・B レンジアイドリングストップ)

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作 (→ P. 126) でエンジンを始動させてください。
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを閉めても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムについて

- 長時間停車する場合には、エンジンスイッチを OFF にし、エンジンを停止してください。
- Stop & Start システムが作動できないときやキャンセルされたとき、または Stop & Start システムに異常が発生したときには、Stop & Start キャンセル表示灯の点滅・警告ブザーで注意をうながします。(→ P. 295)
- アイドリングストップ中にエンジンスイッチを操作してもエンジンは自動で再始動しません。シフトレバーを P にして通常のエンジン始動操作でエンジンを始動してください。
- Stop & Start システムの作動によりエンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリソケットなどが使用できないことがあります。が異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性がありますので、トヨタ販売店にご相談ください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコン作動について

空調の効きを優先したいときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- フロントウインドウガラスが曇ったとき

エアコンの  を  に合わせ、 を押してください(→ P. 227)。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

- エアコン吹き出し口から臭いが発生したとき
アイドリングストップ時間の設定で「長い (Long)」を選択している場合は、「標準」を選択してください (→ P. 193)。「標準」を選択して臭いが発生した場合は、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■アイドリングストップ時間の切りかえについて

Stop & Start キャンセルスイッチの操作により、 が ON のときの Stop & Start システムによるエンジン停止時間を切りかえることができます。

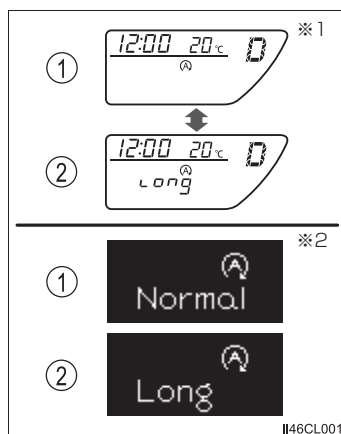
Stop & Start キャンセルスイッチを 3 秒以上押し続ける

① 標準

② 長い (Long)

※1 ドライブモニターディスプレイ装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車



■Stop & Start システム保護機能

- 大音量でオーディオを使用しているとき、バッテリーの消費を抑えるためにオーディオを自動的にオフにする場合があります。この場合、エンジンスイッチをOFFにして3秒以上経過してからアクセサリモードまたはイグニッションONモードにし、オーディオを再開させてください。
- バッテリーの端子をはずして再接続したときに、オーディオが作動しないことがあります。この場合、エンジンスイッチをOFFにし、次の操作を2回くり返すことでオーディオが作動します。
 - ・エンジンスイッチイグニッションONモードにし、再度エンジンスイッチをOFFにする

■アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→ P. 72, 80

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 344

■ アイドリングストップ時間の割り込み表示について

→ P. 72, 80

■ システムに異常があるおそれについて

次のときはシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ドライブモニターディスプレイ装着車：
Stop & Start キャンセル表示灯が点滅している
- マルチインフォメーションディスプレイ装着車：
「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示されている

⚠ 警告**■ Stop & Start システムが作動しているとき**

- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中（Stop & Start 表示灯が点灯しているあいだ）は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。
エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ Stop & Start システムを正常に作動させるために**

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

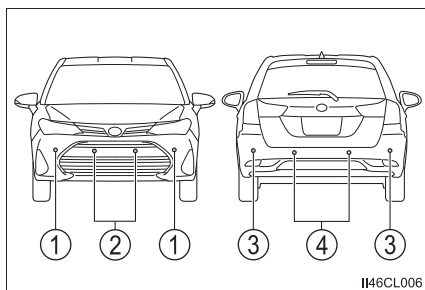
- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

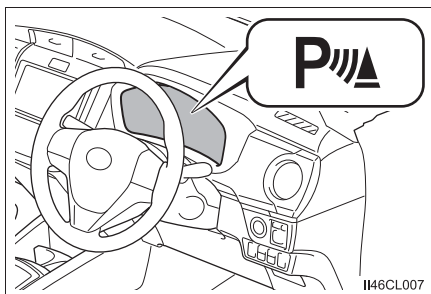
- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ リヤセンターセンサー



クリアランスソナーの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面（→ P. 81）から、クリアランスソナーの ON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

ON（作動）を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。



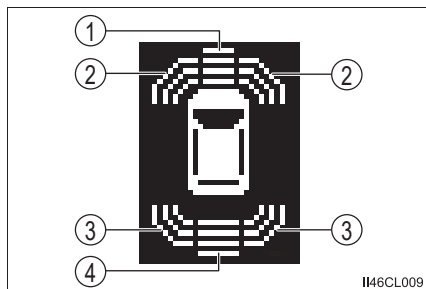
OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーの表示のしかた

- ① フロントセンターセンサー作動表示
- ② フロントコーナーセンサー作動表示
- ③ リヤコーナーセンサー作動表示
- ④ リヤセンターセンサー作動表示



距離表示の見方

表示※	静止物までのおおよその距離		
	—	フロントコーナー& フロントセンターセンサー	リヤコーナー& リヤセンターセンサー
 (点灯)	遠い 	フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm	リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm
 (点灯)		コーナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm フロントセンターセンサー： 約 60cm ～ 45cm	コーナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm リヤセンターセンサー： 約 60cm ～ 45cm
 (点灯)		コーナーセンサー： 約 45cm ～ 35cm フロントセンターセンサー： 約 45cm ～ 35cm	コーナーセンサー： 約 45cm ～ 35cm リヤセンターセンサー： 約 45cm ～ 35cm
 (点滅)		コーナーセンサー： 約 35cm 以下 フロントセンターセンサー： 約 35cm 以下	コーナーセンサー： 約 35cm 以下 リヤセンターセンサー： 約 35cm 以下
	近い		

※ イラストは説明のための例であり、センサーの検知状態により表示は異なります。(→ P. 197)

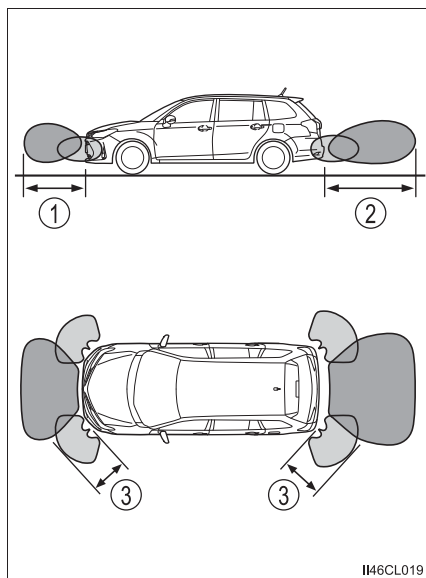
ブザーについて

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
 - ・ フロントコーナーセンサーが検知した静止物との距離が約 35cm 以下
 - ・ フロントセンターセンサーが検知した静止物との距離が約 35cm 以下
 - ・ リヤコーナーセンサーが検知した静止物との距離が約 35cm 以下
 - ・ リヤセンターセンサーが検知した静止物との距離が約 35cm 以下
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、最も近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

静止物を検知できる範囲

- ① 約 100cm (約 1.0m)
 - ② 約 150cm (約 1.5m)
 - ③ 約 60cm (約 0.6m)
- ・ 検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。
 - ・ 静止物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



II46CL019

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ シフトポジションが P 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき
- フロントセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが P・R 以外にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー／リヤセンターセンサー：
 - ・ シフトポジションが R にあるとき
 - ・ 車速が約 10km/h 以下のとき

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると感知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも、表示やブザーが出る前に静止物まで、約 35cm 以内に接近するおそれがあります。
- センサーより低い物体や細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知なくなることがあります。
- オーディオ（装着車のみ）・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません
ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。

この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません」
が表示されたときは

大雨などでセンサー表面に水が断続的に流れている可能性があります。

システムが正常と判断したときに復帰します。

■ ブザーの一時消音について

静止物を検知してブザー音が鳴っているときに、DISP ボタン（→ P. 79）を押すとブザー音を一時消音することができます。

■ カスタマイズ機能

センサーの検知可能距離を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 361）

警告

■ クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するとき
は、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー検知範囲外の安全を確認し、
ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが検知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けしないでくだ
さい

 警告**■ センサーについて**

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが付近にいたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水が被ったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール・無線機アンテナ・フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- バンパー真下付近は検知しません。
センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

上記に加えて静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

 警告**■ 正確に検知できないことがある静止物**

次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの
- 人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

 注意**■ クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 静止物を検知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

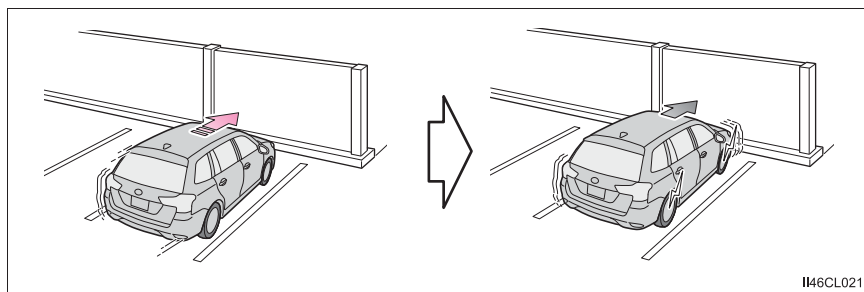
パーキングサポートブレーキ（静止物）※★

駐車時や低速走行時における静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の壁などの静止物を検知するとシステムが作動し、壁などの静止物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

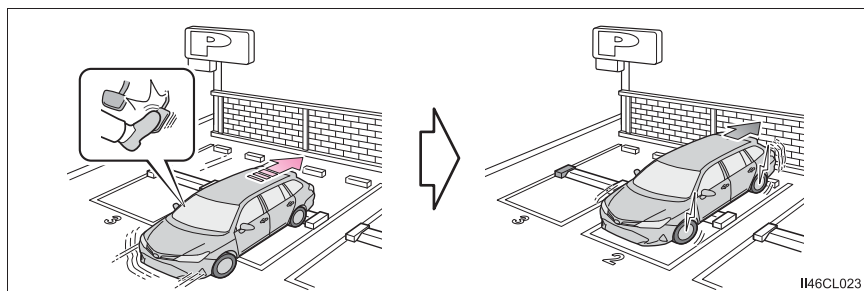
システム作動例

次のようなときに進行方向の壁などの静止物を検知してシステムが作動します。

- ◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき



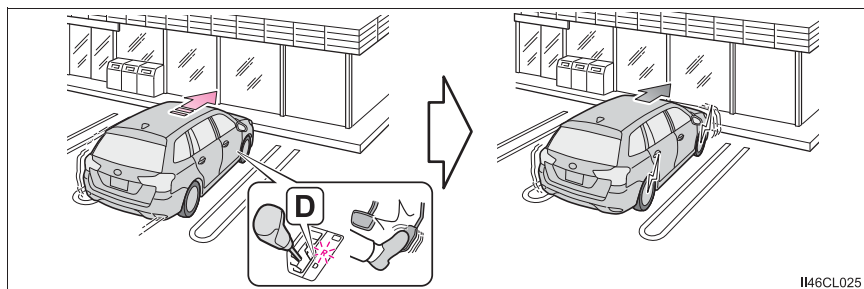
- ◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



※：従来のICS（インテリジェントクリアランスソナー）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

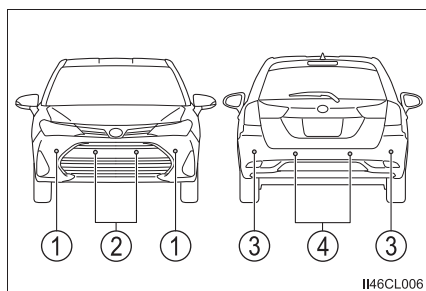
◆ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



II46CL025

センサーの種類

- ① フロントコーナーセンサー
- ② フロントセンターセンサー
- ③ リヤコーナーセンサー
- ④ リヤセンターセンサー

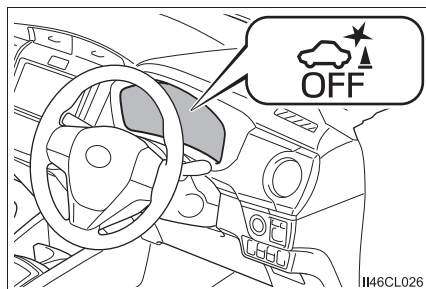


II46CL006

パーキングサポートブレーキ（静止物）の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面（→ P. 81）から、パーキングサポートブレーキ（静止物）の ON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

パーキングサポートブレーキ（静止物）が OFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。



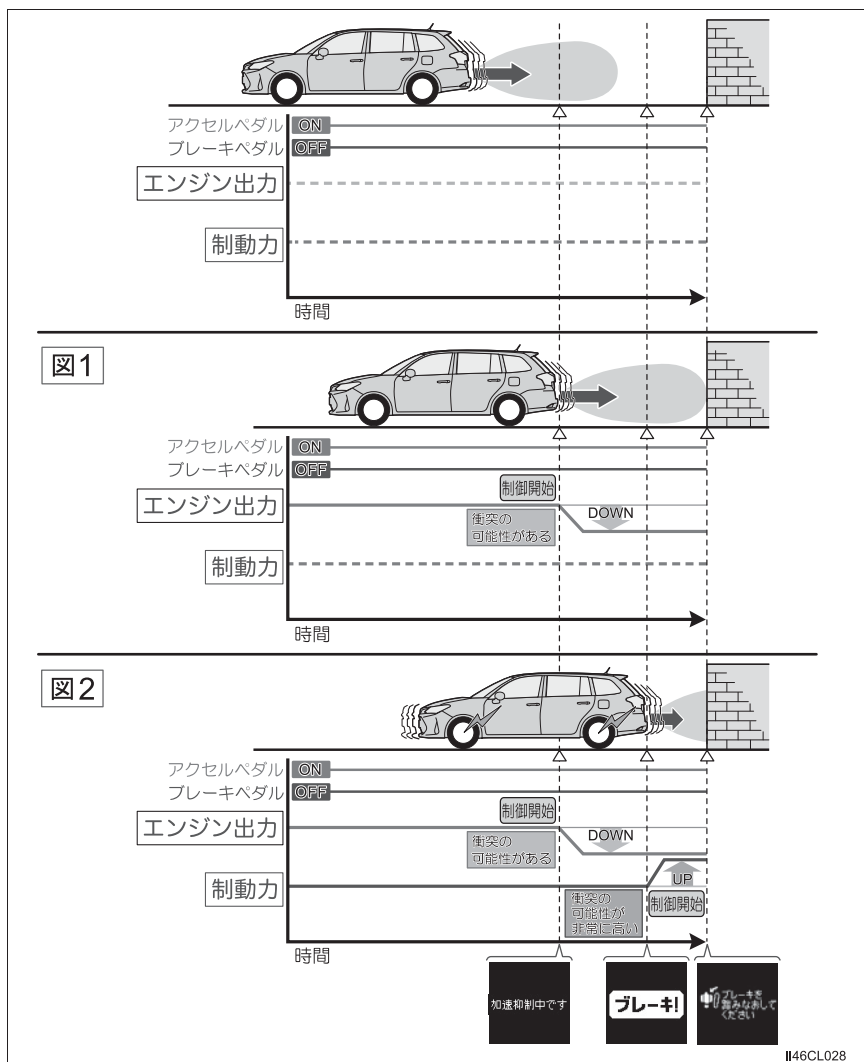
II46CL026

OFF（非作動）に切りかえて、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）

作動について

パーキングサポートブレーキ（静止物）は、衝突の可能性がある壁などの静止物を検知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（エンジン出力抑制制御：下記図 1）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



作動条件について

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 205, 212）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ▶ エンジン出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に壁などの静止物がある（2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ エンジン出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

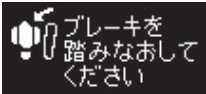
次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ▶ エンジン出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
 - ・ 車両進行方向の壁などの静止物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）
- ▶ ブレーキ制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
 - ・ 車両進行方向の壁などの静止物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチ インフォメーション ディスプレイ表示	PKSB OFF 表示灯	ブザー
エンジン出力 抑制制御作動中 (加速制限 制御)	一定以上の加速 ができない状況		消灯の まま	吹鳴なし
エンジン出力 抑制制御作動中 (出力最大抑制 制御)	通常よりやや強 めのブレーキ操 作が必要な状況		消灯の まま	“ポーン” (単発音)
ブレーキ制御 作動中	急ブレーキが 必要な状況			
システム作動 により車両停止	ブレーキ制御作 動後に車両が 停止した状況		点灯	

 知識**■ センサーの検知範囲について**

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 199）とは異なります。

そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ システムが作動したとき

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキ（静止物）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏めば発進できます。

■ システムの復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキ（静止物）が停止したときに、パーキングサポートブレーキ（静止物）を復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON にし停止を解除（→ P. 205）するか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、イグニッション ON モードにしてください。

また、進行方向の静止物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■ センサーが検知しない静止物について

次のような静止物は、センサーが検知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
（特に人は衣類の種類によっても検知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの
- 静止していない対象物

■ クリアランスソナーのブザーについて

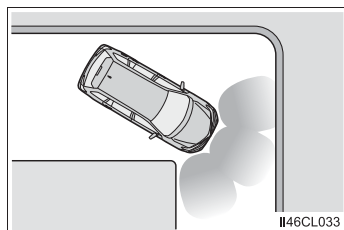
クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく（→ P. 196）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→ P. 205）、前側センサーまたはうしろ側センサーが静止物を検知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、静止物とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

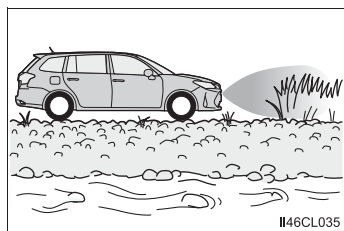
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

- ・狭い道路を走行するとき



- ・砂利道・草むらなどを走行するとき



- ・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- ・道路脇に静止物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
- ・縦列駐車時
- ・地面にわだちや穴がある場合
- ・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- ・急な登坂路を走行するとき
- ・冠水している道路でセンサーに水が被ったとき

●天候の影響

- ・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

- ・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したとき

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

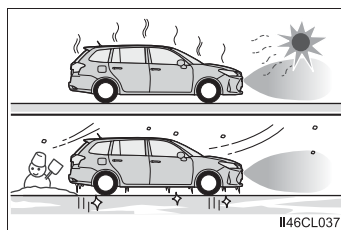
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●周辺環境の影響

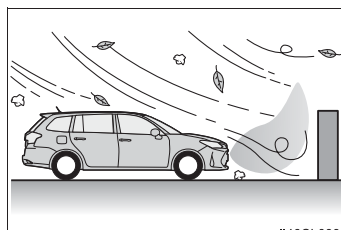
- ・ 検知できる対象物と車両のあいだに、検知できない対象物がある場合
- ・ 車・二輪車・自転車・歩行者などの対象物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●天候の影響

- ・ 炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合



- ・ 風が強いとき



- ・ センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・ 霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

- ・ 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき
- ・ シフトレバーが N にあるとき

■バッテリーを脱着したとき

システムを初期化する必要があります。

約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」と「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅している場合は

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合は氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- センサーが凍結している可能性があります。
氷が解ければ、正常に復帰します。
- 大雨などでセンサー表面に水が断続的に流れている可能性があります。
システムが正常と判断したときに復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったとき

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検してください。

 警告**■安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキ（静止物）は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- パーキングサポートブレーキ（静止物）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■システムを正しく作動させるために

センサー（→ P. 205）について、次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 改造・分解・塗装などをしない
- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが静止物を正しく検知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

 注意**■ センサーの故障を防ぐために**

- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 不要な作動を防ぐために

次のときは、パーキングサポートブレーキを OFF にしてください。
衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- けん引フックを取り付けた場合
- 自走式洗車機を使用する場合

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

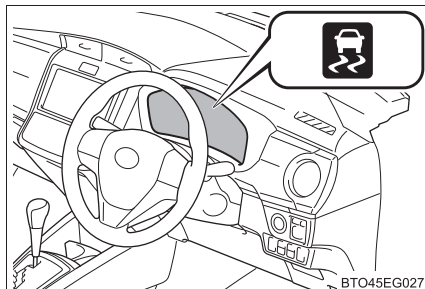
◆ アクティブトルクコントロール 4WD★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF（前輪駆動）走行状態から 4WD（4 輪駆動）走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・安定性の確保に貢献します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難

な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車

TRC を停止するには  を押す

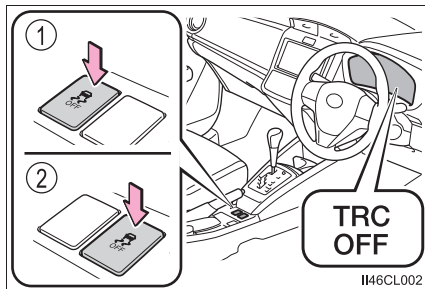
① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

TRC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度  を押すと、システム作

動可能状態にもどります。



▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

TRC を停止するには  を押す

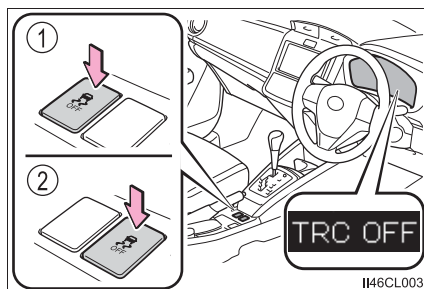
① FF 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作

動可能状態にもどります。



知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する

ドライブモニターディスプレイ装着車：TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。※

マルチインフォメーションディスプレイ装着車：VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS 警告灯が点灯し、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。（→ P. 168）

■ VSC OFF スイッチを押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき（ドライブモニターディスプレイ装着車）

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ VSC OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示されたとき（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- オートマチック車：シフトレバーの位置がPまたはN以外（前進または後退での上り坂発進時）
- マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置がR以外のとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置がRのとき
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- オートマチック車：シフトレバーをPまたはNの位置にした
- マニュアル車：前進での上り坂発進時にシフトレバーの位置をRにしたとき、または後退での上り坂発進時にシフトレバーの位置がR以外にしたとき
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約2秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときは作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチをOFFにしたとき
- （TRCのみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにし、前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

 警告**■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするとき

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 359）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC・アクティブトルクコントロール 4WD ★など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ アクティブトルクコントロール 4WD ★について

- ラリー走行などが目的ではなく、一般道での走行安定性の確保を目的とした 4WD です。無理な走行はしないでください。
- すべりやすい路面での走行は慎重に行ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

（タイヤについて：→ P. 257）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R、上り坂では 1 速に入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。
(オートマチック車)

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■ 冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能**5****5-1. エアコンの使い方**

マニュアルエアコン 226

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 231

・ パーソナルランプ 232

・ ルームランプ 232

5-3. 収納装備

収納装備一覧 233

・ グローブボックス 234

・ 助手席アッパーボックス
..... 234

・ コンソールボックス 234

・ カップホルダー／
ボトルホルダー 235

ラゲージルーム内装備 237

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 242

・ サンバイザー 242

・ アクセサリーソケット 242

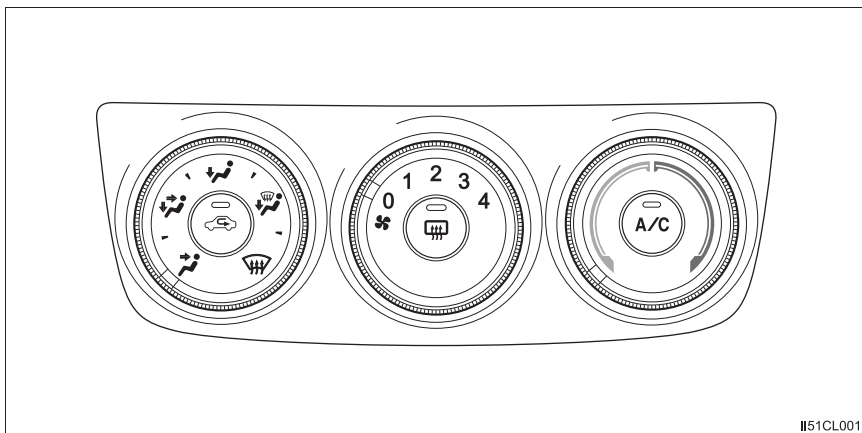
・ アシストグリップ 243

・ 時計 244

・ リヤアームレスト 244

マニュアルエアコン

基本操作



■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  を右に、下げるときは左にまわす

 が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  を右に、減らすときは左にまわす

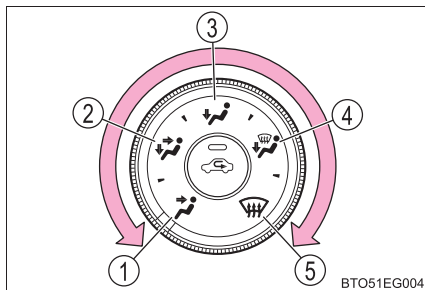
送風を止めるときは、ダイヤルを 0 の位置に合わせます。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえダイヤルをまわす

ダイヤルの位置を各吹き出し口のあいだにすると、吹き出し口を細かく選択できます。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る
- ⑤ フロントウィンドウガラスの曇りを取る



BTO51EG004

その他の機能

■ 外気導入／内気循環を切りかえる



を押す

ボタンを押すたびに外気導入／内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、の表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには



を  に合わせる

 を押してエアコン(冷房・除湿機能)を ON にすると曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときにご使用ください。



を押す

- ・ 押すごとに作動が切りかわり、作動中は表示灯が点灯します。
- ・ ミラーヒーター装着車では、リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

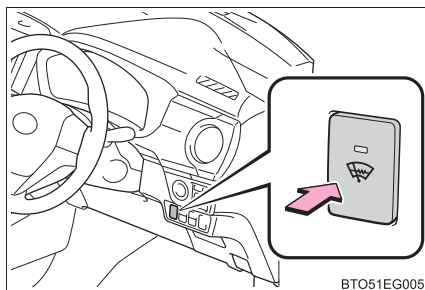
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにご使用ください。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



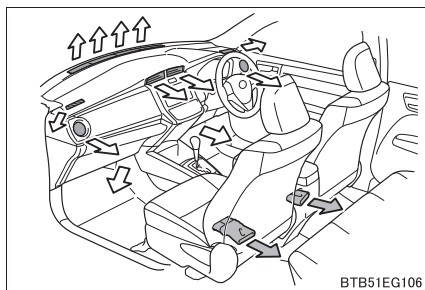
BTO51EG005

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

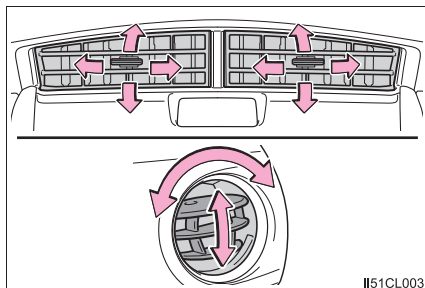
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。

←：寒冷地仕様車のみ



BTB51EQ106

■ 風向きの調整

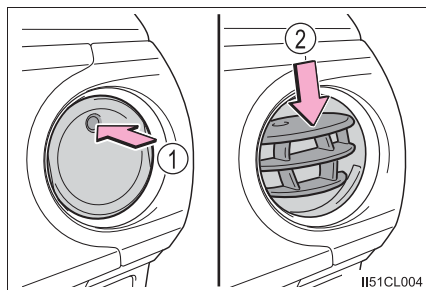


H51CL003

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口の開閉

- ① 開ける
- ② 閉じる



□ 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

-  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入／内気循環について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■ 吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調節ダイヤルの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より温められて送風されます。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

-  を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

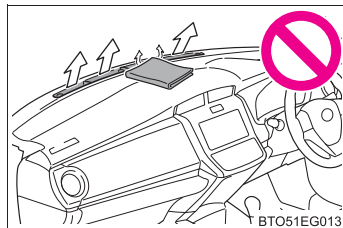
- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 263

警告**■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り換えダイヤルを  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**■リアウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告**

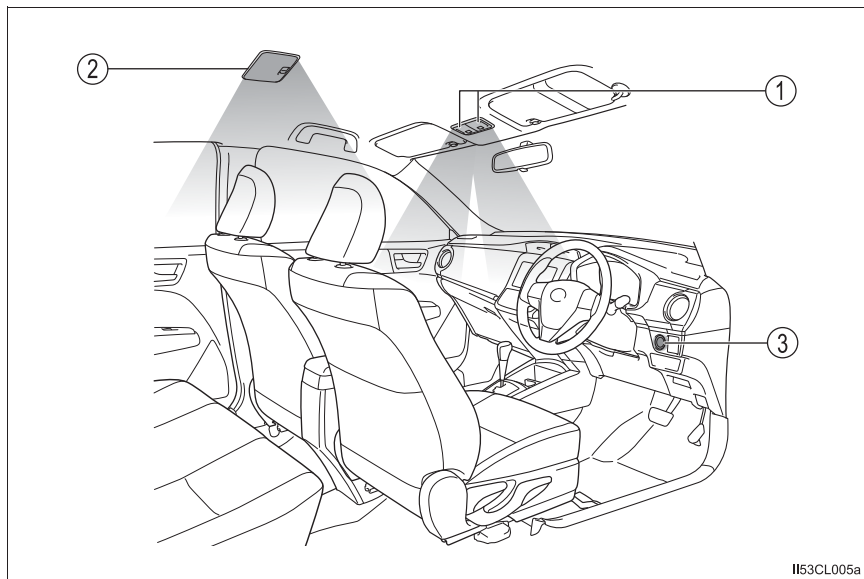
- ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。
- フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意**■バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

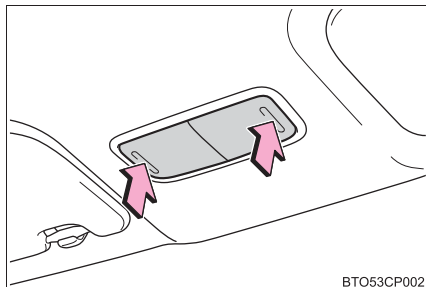
室内灯一覧



- ① パーソナルランプ (→ P. 232)
- ② ルームランプ (→ P. 232)
- ③ エンジンスイッチ照明

パーソナルランプ

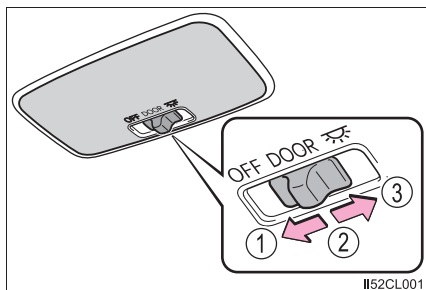
ランプを点灯・消灯する



BT053CP002

ルームランプ

- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）
- ③ ランプを点灯する



II52CL001

知識

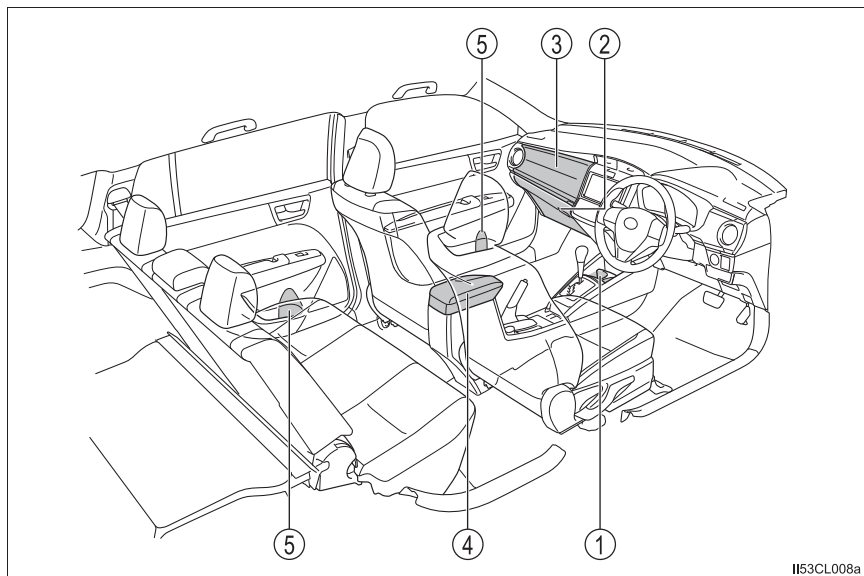
- ルームランプのスイッチがドアポジションのとき、ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）
- エンジンスイッチが OFF で室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。
- 室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 362）

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧



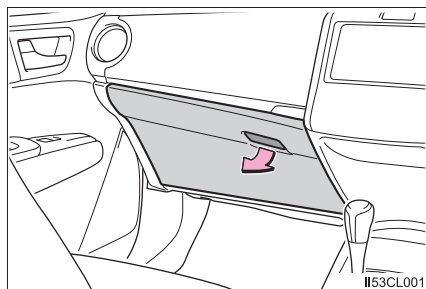
- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ① カップホルダー (→ P. 235) | ④ コンソールボックス (→ P. 234) |
| ② グローブボックス (→ P. 234) | ⑤ ボトルホルダー (→ P. 235) |
| ③ 助手席アッパーボックス (→ P. 234) | |

⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

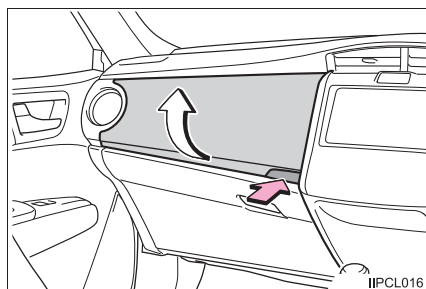
グローブボックス

レバーを引いて開ける



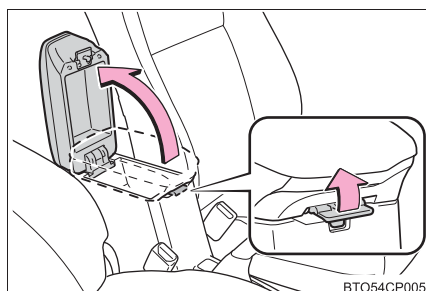
助手席アッパーボックス

ボタンを押して開ける



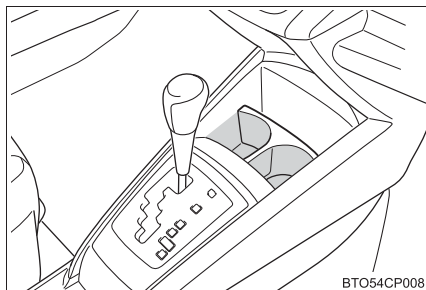
コンソールボックス

レバーを引いてフタを持ち上げる

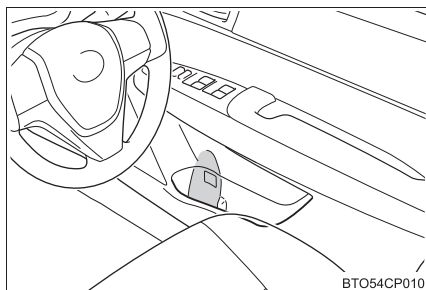


カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー



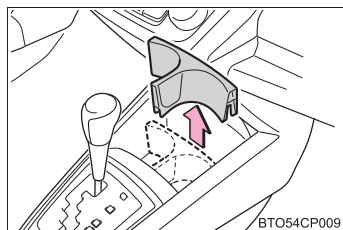
■ ボトルホルダー



知識

■ カップホルダーの仕切りについて

カップホルダー内を清掃するために、仕切りを取りはずすことができます。



■ ボトルホルダーとして使用するとき

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めておいてください。

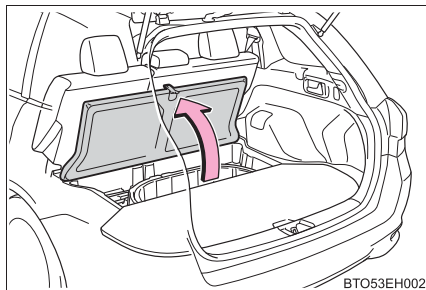
 注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

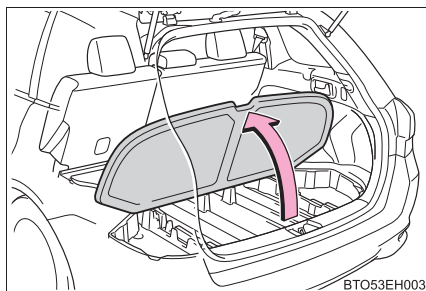
ラゲージルーム内装備

デッキボード

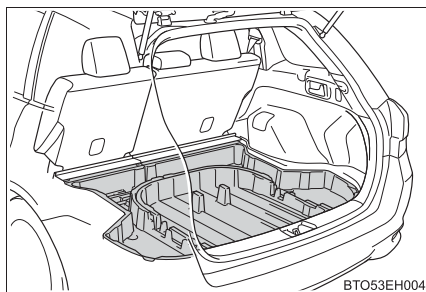
■ 前側デッキボード



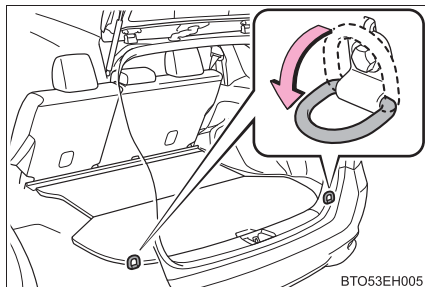
■ うしろ側デッキボード



デッキアンダートレイ

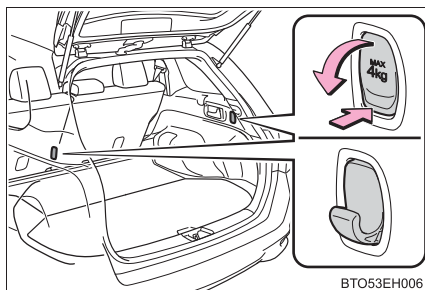


デッキフック



コンビニフック

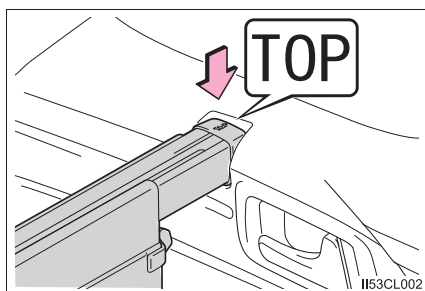
使用するとき、フックを押します。



トノカバー（販売店オプション）

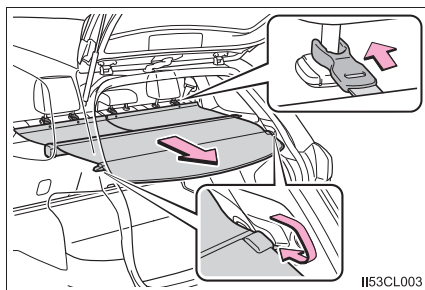
■ 取り付け方

「TOP」の文字が上になるように
取り付け用の溝にはめる



■ 使い方

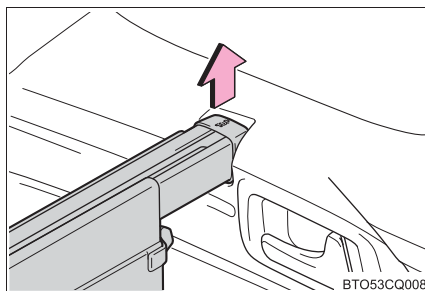
リヤヘッドレストを上げて、サブカバーのクリップを付け、カバーを引き出して、ツメを左右のホルダーにかける



II53CL003

■ 取りはずし方

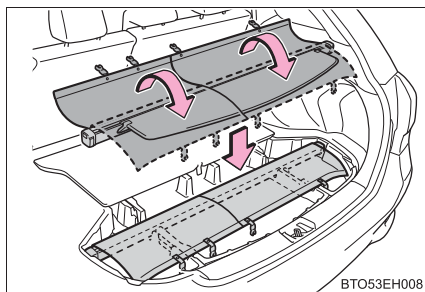
本体を持ち上げて、取り付け用の溝からはずす



BT053CQ008

■ 収納のしかた

サブカバーを裏返してデッキアンダーカバートレイに収納する

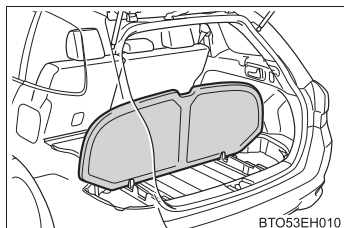


BTO53EH008

 知識

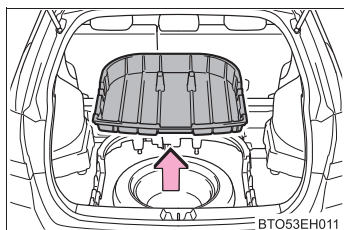
■ うしろ側デッキボードについて

デッキアンダートレイの溝に立てて使用することができます。



■ デッキアンダートレイについて

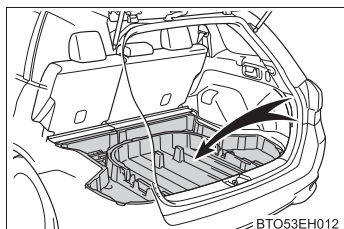
センタートレイ★を取りはずすことができます。



■ 停止表示板収納について

デッキアンダートレイに、停止表示板を収納することができます。

ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ デッキフック、コンビニフックを使用しないときは**

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

 注意**■ コンビニフックの破損を防ぐために**

4kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

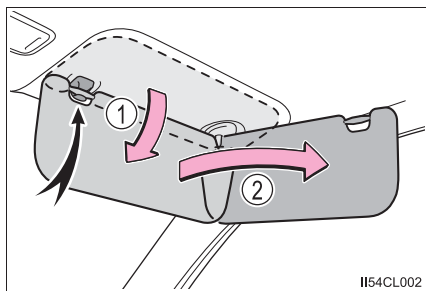
■ うしろ側デッキボードについて

デッキアンダートレイの溝に立てたまま走行しないでください。思わぬ事故や急停車によりけがをするおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

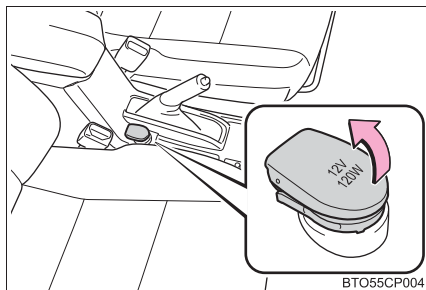


II54CL002

アクセサリースOCKET

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



BTO55CP004

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

■ Stop & Start システムによるエンジン再始動時について★

エンジン停止状態から再始動するとき、一時的に使用できないことがあります
が、異常ではありません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エンジンスイッチを OFF にするとき

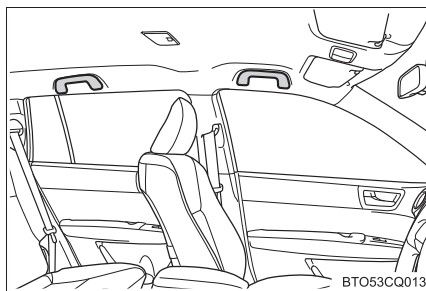
モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF にすることができなくなる場合があります。

⚠ 注意

- 異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。
- バッテリーあがりを防止するために、エンジンが停止した状態で、アクセサリソケットを長時間使用しないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

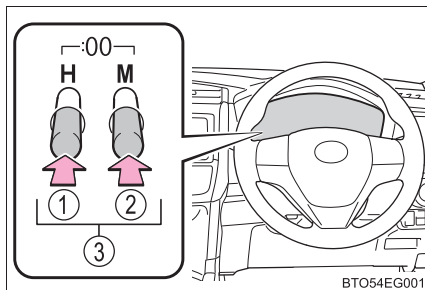
時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する (H)
- ② “分” を調整する (M)
- ③ “分” を 00 にする ※

時計調整ボタンを同時に 1 秒以上押します。

※ (例) 1 : 00 ~ 1 : 29 → 1 : 00
1 : 30 ~ 1 : 59 → 2 : 00



知識

■時刻が表示されるとき

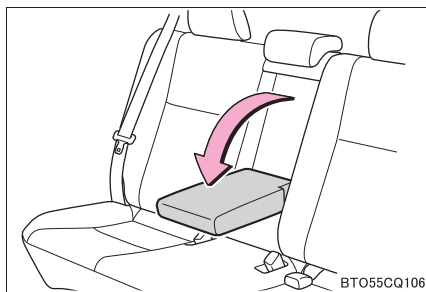
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。



⚠ 注意

破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....	246
内装の手入れ.....	250

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	253
ガレージジャッキ	255
ウォッシャー液の補充	256
タイヤについて	257
タイヤ空気圧について	261
エアコンフィルターの交換 ...	263
キーの電池交換	265
ヒューズの点検・交換	268
電球（バルブ）の交換	271

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

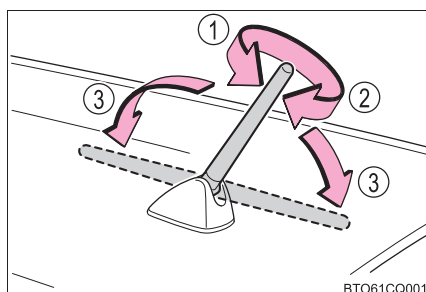
なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

- ① 取りはずす
- ② 取り付ける
- ③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



 知識

■ 自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■ バンパー・バックドアについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ ドアガラスの撥水コーティング★について

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

- フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
- 汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
- コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
- 金属製の道具で霜取りをしない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約 5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について：→ P. 160

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・海岸地帯を走行したあと
 - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・コールトール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

 注意**■ ランプの清掃**

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■ アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおりに取り付けてください。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 警告**■車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 32)
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などにあたり、けがをするおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

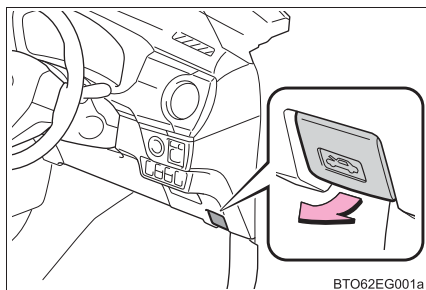
■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

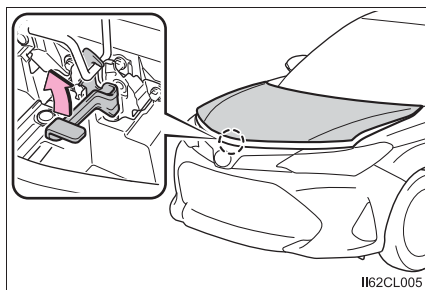
ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

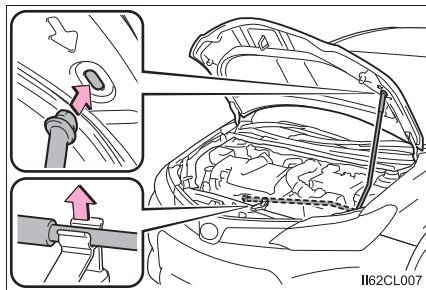
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む



警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

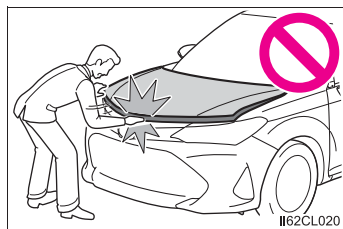
走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**注意****■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。
ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

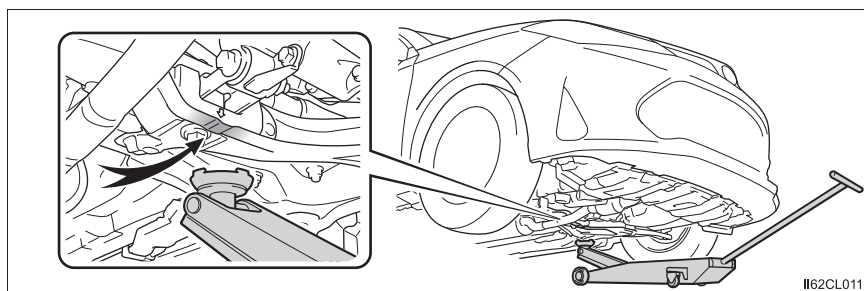
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

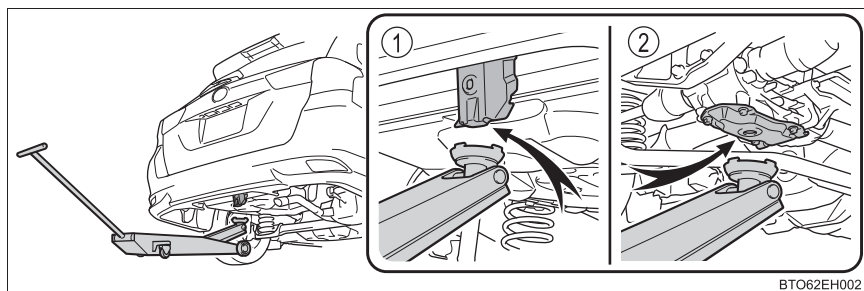
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側



◆ リヤ側

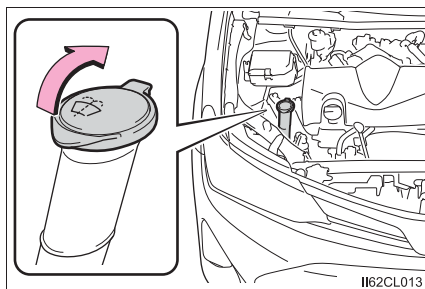


- ① FF 車（前輪駆動）
- ② 4WD 車（4 輪駆動）

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無

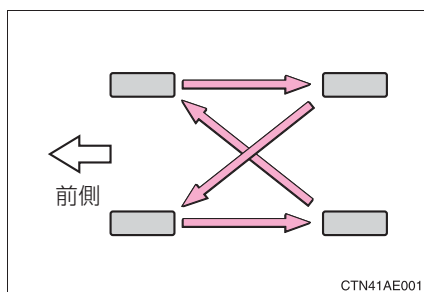
- タイヤの溝の深さ

- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



 知識

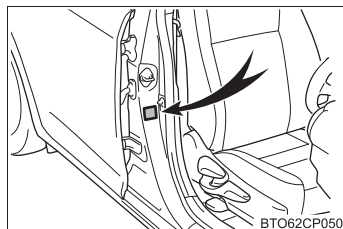
■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	空気圧※ kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
175/65R15 84H (FF 車)	230 (2.3)	
175/65R15 84H (4WD 車)	220 (2.2)	
185/60R15 84H	230 (2.3)	

応急用タイヤ★：420kPa (4.2kg/cm²) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- ほかの車両で使用していたタイヤを使用しない
- 以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。（→ P. 334）
テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

 注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 359)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

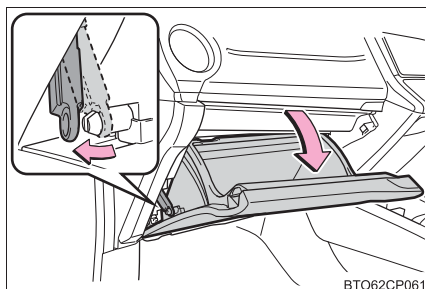
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

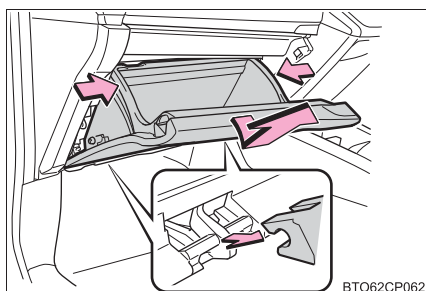
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

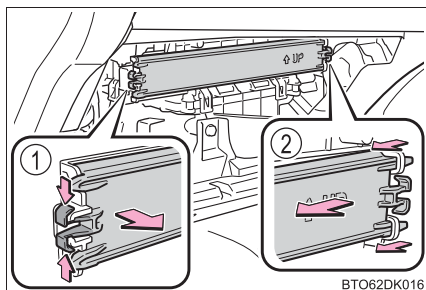
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずす



- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

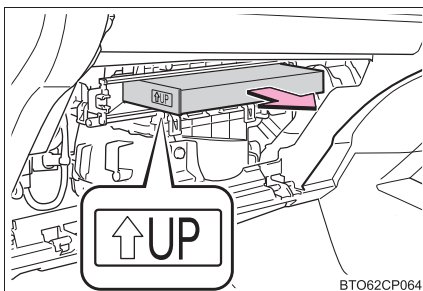


- 4 フィルターカバーを取りはずす
 - ① フィルターカバーの固定を解除する
 - ② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



- 5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



BTO62CP064

- 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km[10,000km※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

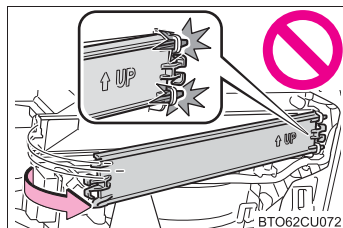
■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するとき、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。

ツメが破損するおそれがあります。



BTO62CU072

キーの電池交換

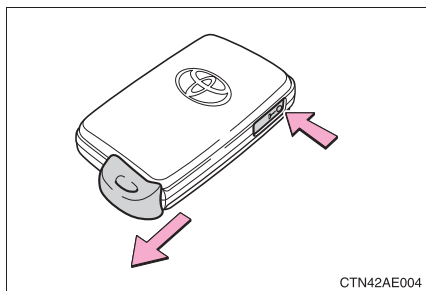
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

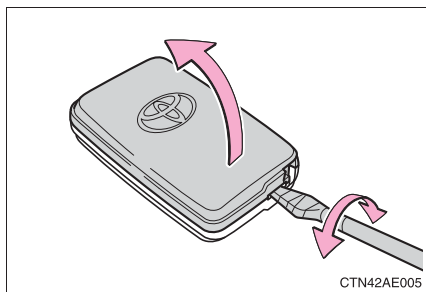
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



2 カバーをはずす

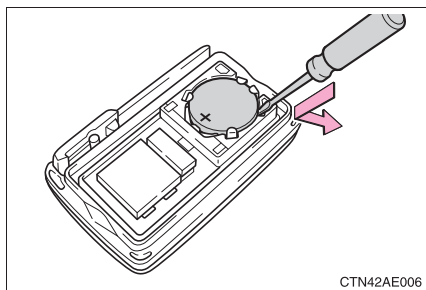
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

 知識

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- ワイヤレス機能が作動しない・エンジンを始動できない
- ワイヤレスリモコンの作動距離が短くなる

 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

 注意**■交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

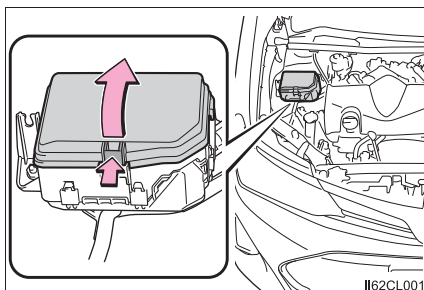
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム (1)

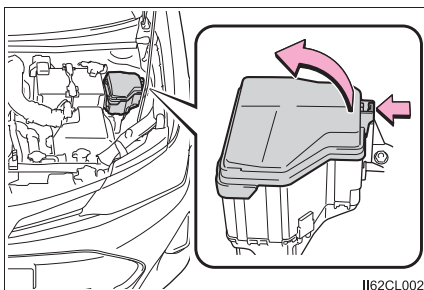


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

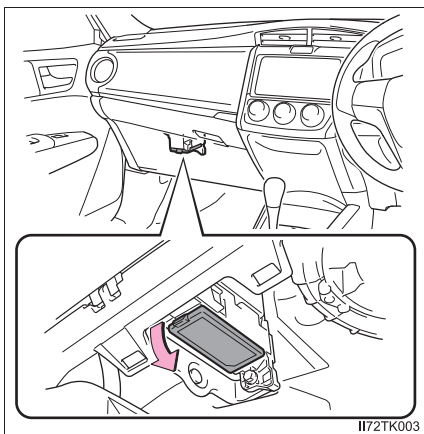
▶ 助手席足元

ヒューズボックスのカバーを取りはずす

▶ エンジンルーム (2)

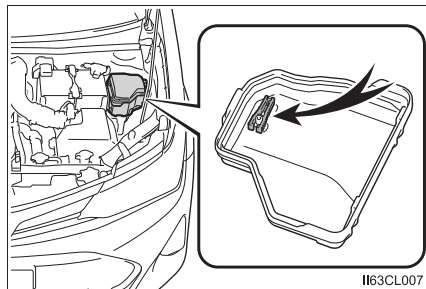


ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



3 ヒューズを引き抜く

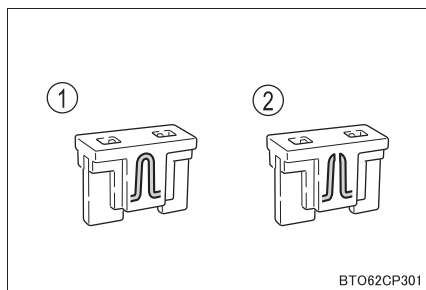
ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

**4** ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

**知識****■ ヒューズを交換したあとは**

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 271)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告**■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

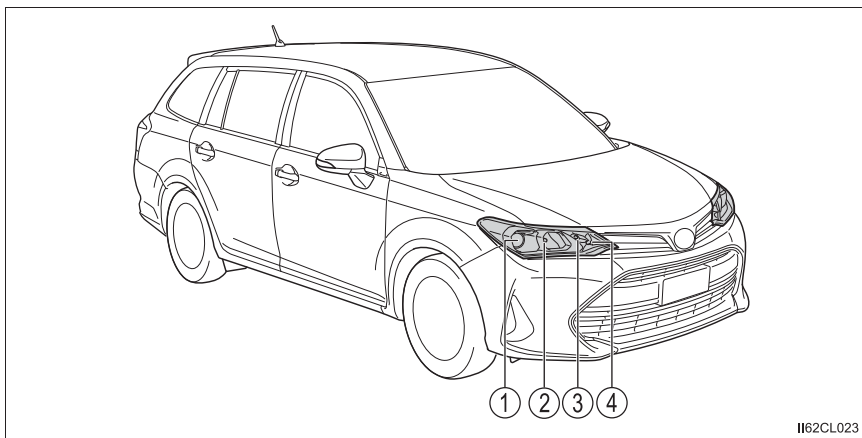
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 360）

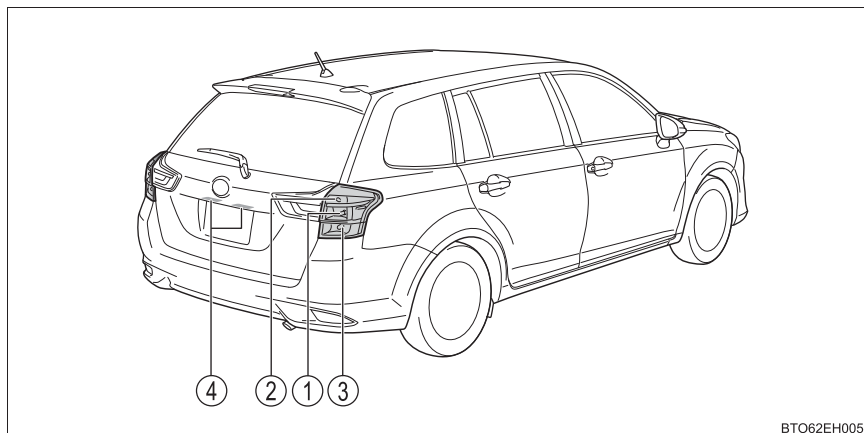
バルブ位置

■ フロント



- ① ヘッドランプロービーム
- ② ヘッドランプハイビーム
- ③ 車幅灯
- ④ フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ



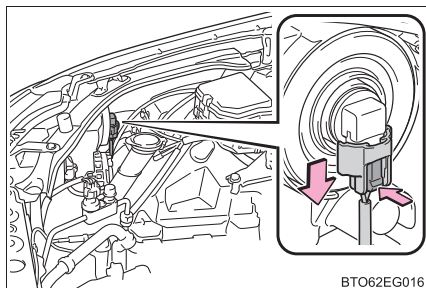
BTO62EH005

- ① 制動灯／尾灯
- ② 後退灯
- ③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ④ 番号灯

電球交換のしかた

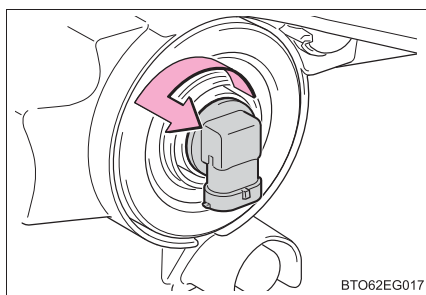
■ ヘッドランプロービーム

- 1 ツメを押し、コネクターを取りはずす



BTO62EG016

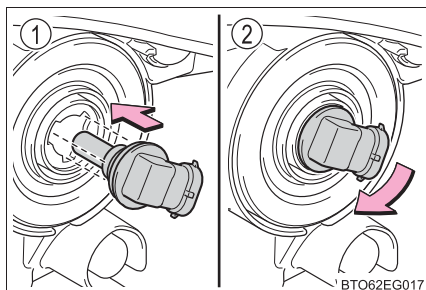
- 2 電球を取りはずす



BTO62EG017

- 3 新しい電球を取り付ける

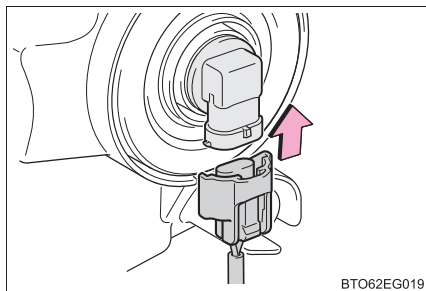
- ① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45° 傾けながら挿し込みます。
- ② 電球を右にまわして固定します。



BTO62EG017

- 4 コネクターを取り付ける

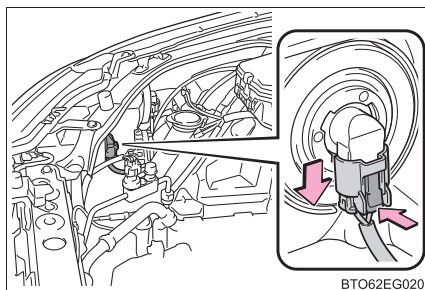
ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプロービームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



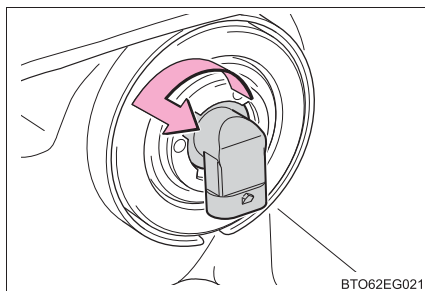
BTO62EG019

■ ヘッドランプハイビーム

- 1 ツメを押し、コネクターを取りはずす

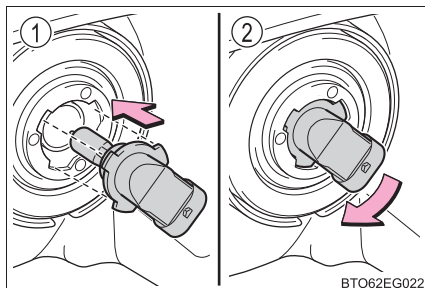


- 2 電球を取りはずす



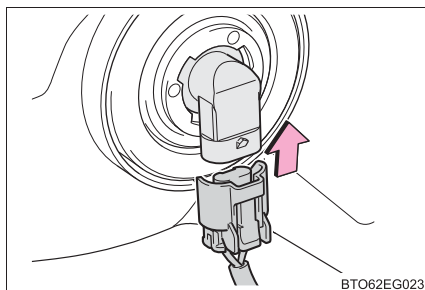
- 3 新しい電球を取り付ける

- ① 取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）が合うように、電球を図のように約45° 傾けながら挿し込みます。
- ② 電球を右にまわして固定します。



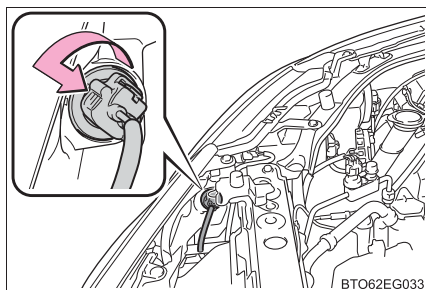
- 4 コネクターを取り付ける

ソケットを取り付けたあとは、いったんヘッドランプハイビームを点灯させ、バルブの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

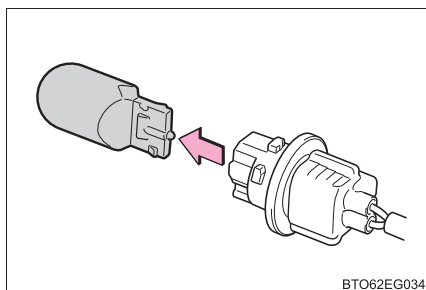


■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

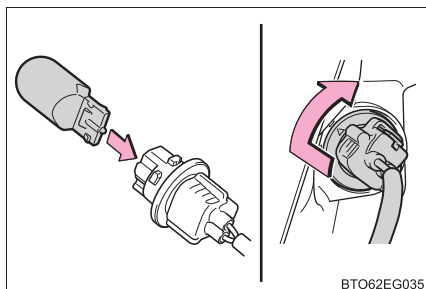
- 1 ボンネットを開けて、ソケットを
まわして取りはずす



- 2 電球を取りはずす

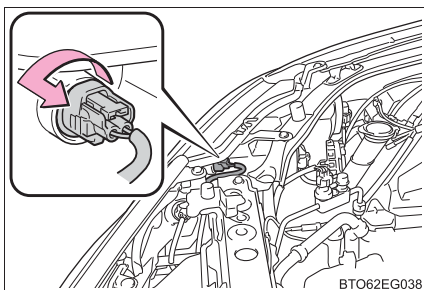


- 3 新しい電球を取り付け、ソケット
をまわして取り付ける

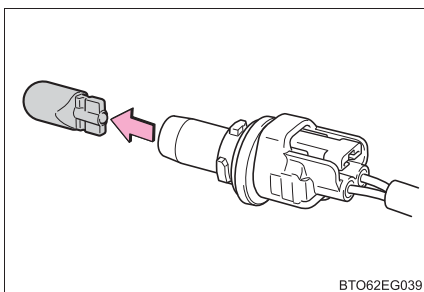


■ 車幅灯

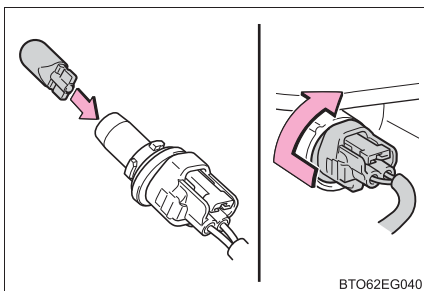
- 1 ボンネットを開けて、ソケットを
まわして取りはずす



- 2 電球を取りはずす

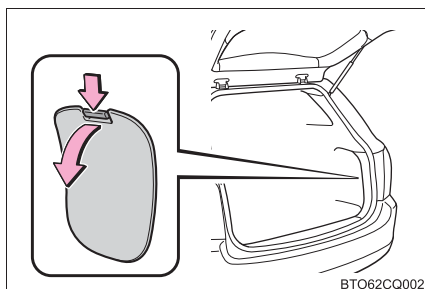


- 3 新しい電球を取り付け、ソケット
をまわして取り付ける



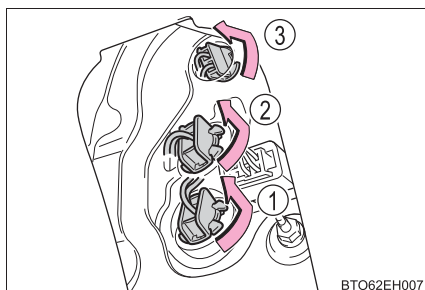
■ 制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯

- 1** バックドアを開けて、カバーを取りはずす



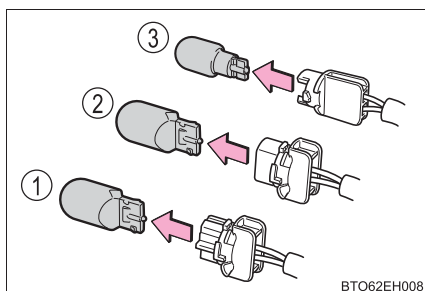
- 2** ソケットをまわして取りはずす

- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ② 制動灯／尾灯
- ③ 後退灯



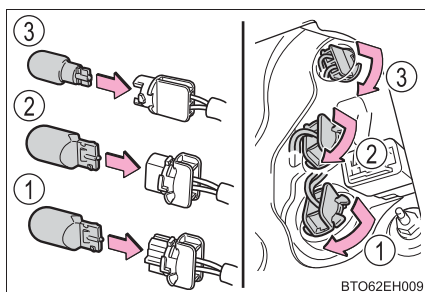
- 3** 電球を取りはずす

- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ② 制動灯／尾灯
- ③ 後退灯



- 4** 新しい電球を取り付け、ソケットをまわして取り付ける

- ① リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ② 制動灯／尾灯
- ③ 後退灯

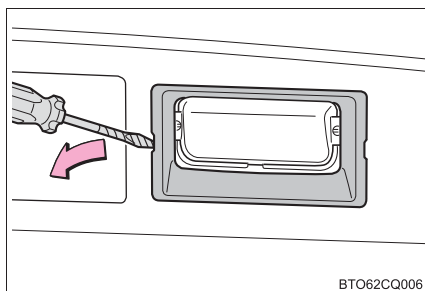


- 5** カバーを取り付ける

■ 番号灯

1 カバーを取りはずす

カバー横の切り込みに小さいマイナスドライバーを挿し込み、図のように取りはずします。

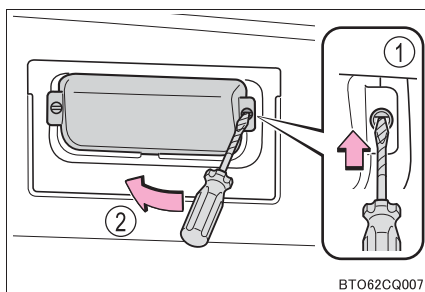


2 レンズを取りはずす

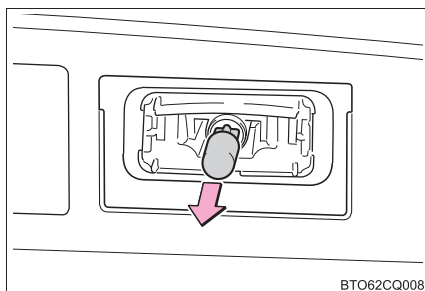
① 小さいドライバーなどをレンズ横の穴に挿し込みます。

② 図のように取りはずします。

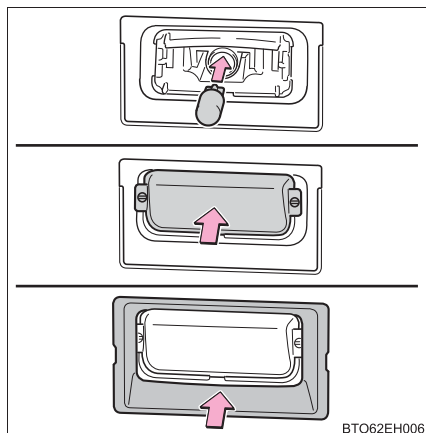
傷が付くのを防ぐために、マイナスドライバーなどの先端に、布などを巻いて保護してください。



3 電球を取りはずす



- 4 新しい電球を取り付け、レンズとカバーを取り付ける



■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- ハイマウントストップランプ

 知識

■ LED ランプについて

ハイマウントストップランプは、数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球（バルブ）を交換するとき

→ P. 269

 警告

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは.....	282
非常点滅灯 （ハザードランプ）.....	283
発炎筒.....	284
車両を緊急停止するには.....	286
水没・冠水したときは.....	287

7-2. 緊急時の対処法

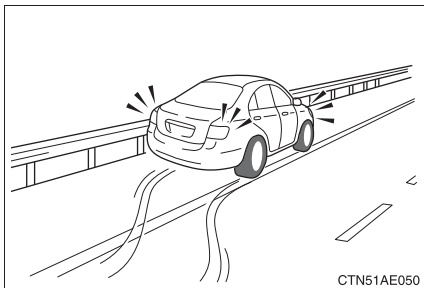
けん引について.....	288
警告灯がついたときは.....	294
警告メッセージが表示された ときは（マルチインフォ メーションディスプレイ 装着車）.....	301
パンクしたときは （タイヤパンク応急 修理キット装着車）.....	313
パンクしたときは （応急用タイヤ装着車）.....	327
エンジンが かからないときは.....	337
電子キーが正常に働かない ときは.....	339
バッテリーが あがったときは.....	342
オーバーヒートしたときは...	346
スタックしたときは.....	349

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

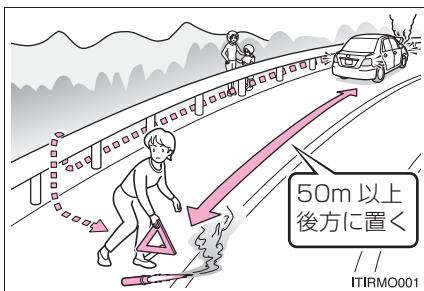
非常点滅灯（→ P. 283）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

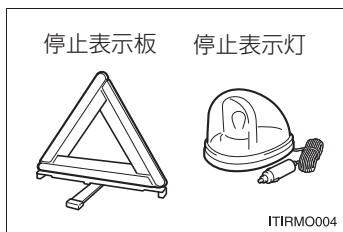
- 同乗者を避難させる
- 車両の50m 以上後方に発炎筒（→ P. 284）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

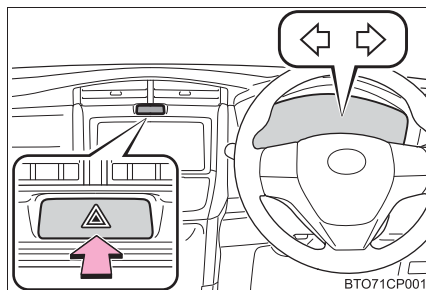


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

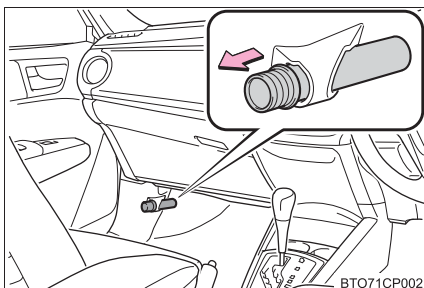
■ 非常点滅灯について

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

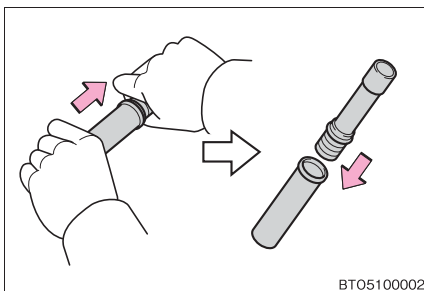
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す

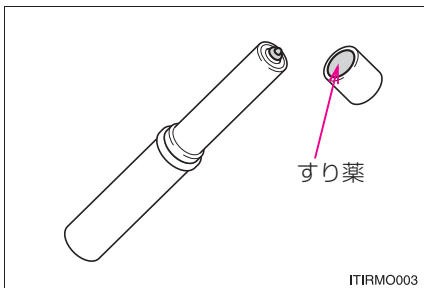


- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

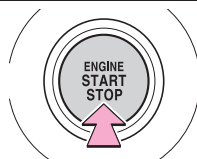
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



2 秒以上押す、または 3 回以上連続で押す

CTY52AD212

5 車を安全な道路脇に停める



警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。

車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

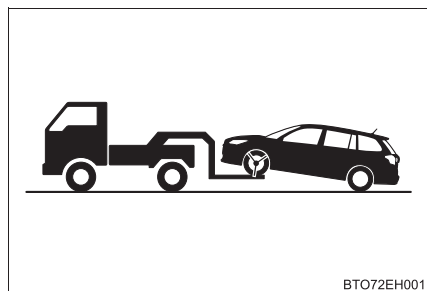
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

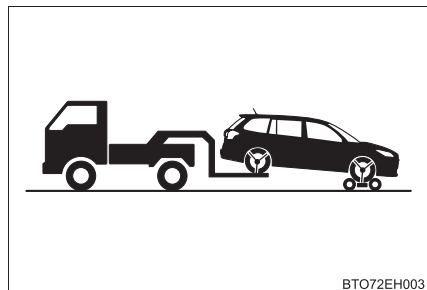
レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは
(FF 車)



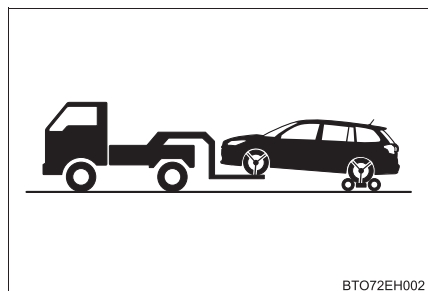
パーキングブレーキを解除する

- ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

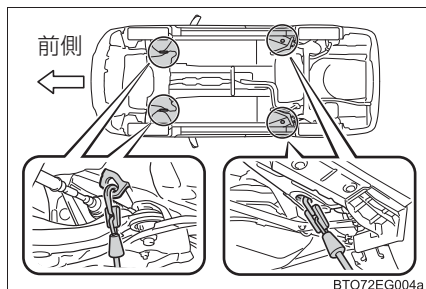
- ▶ 前向きにけん引するときは
(4WD 車)



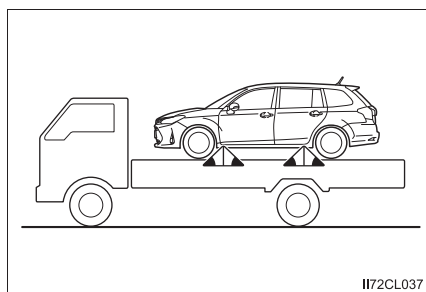
台車を使用して後輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の
場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両
を固縛する場合は図に黒く示す角
度が 45° になるように固縛する



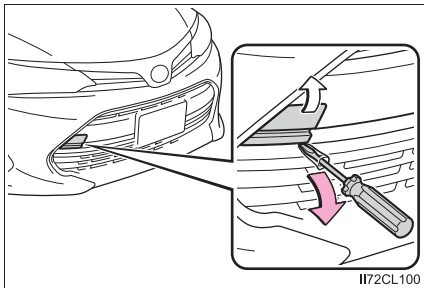
他車にけん引してもらおうとき

1 けん引フックを取り出す (→ P. 315, 328)

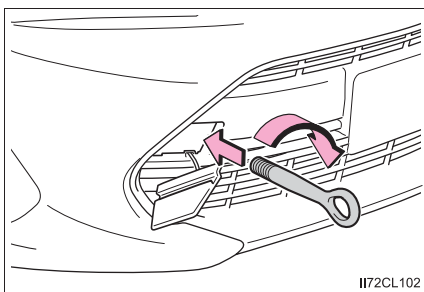
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、ドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

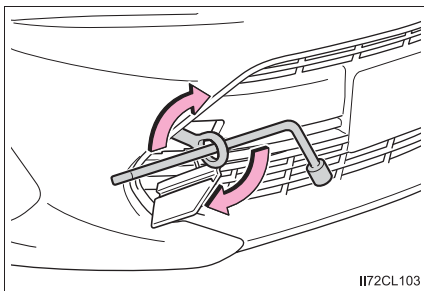
また、バンパー側にも保護テープなどを貼って、傷が付くのを防いでください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



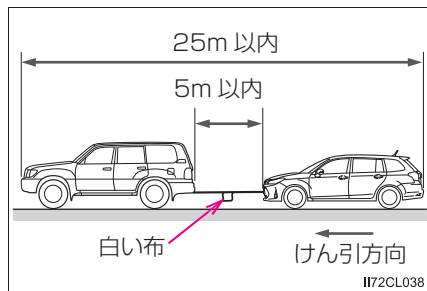
4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける



5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける
 布の大きさ：
 0.3 m 平方 (30 cm×30 cm) 以上



- 7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

- ・ Stop & Start システム装着車：けん引される前に、いったんエンジンスイッチを OFF にしたあと、エンジンをかけてください。

- 8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 139

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

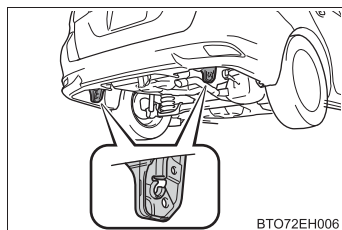
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルーム内に搭載されています。(→ P. 315, 328)

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張りだしてもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



警告

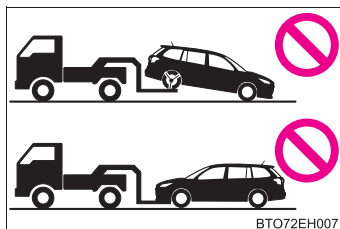
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

レッカー車でけん引されるとき

▶ FF 車

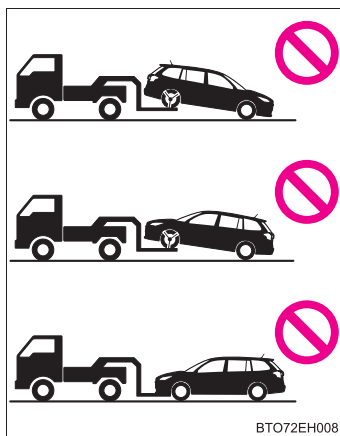
必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



BTO72EH007

▶ 4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



BTO72EH008

他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります

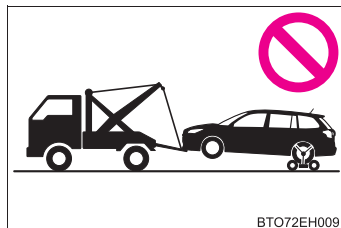
けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■ レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■ 車両運搬車に車を固縛するとき**

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

■ Stop & Start システム装着車をけん引するときは

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 ※¹ 充電系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。
	油圧警告灯（警告ブザー） ※¹ エンジンオイルの圧力異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。
 (赤色)	高水温警告灯（警告ブザー） エンジン冷却水温の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。
	エンジン警告灯 ・ エンジンの異常 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 電子制御スロットルの異常 ・ トランスミッション電子制御システム★の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC システムの作動時は点滅します。 （→ P. 216） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 （15 秒間 黄色点滅）	プッシュボタンスタートシステム表示灯 ※¹ （警告ブザー） ・ プッシュボタンスタートシステムの異常 ・ ステアリングロックシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 （点滅）	Stop & Start キャンセル表示灯★ ※¹ Stop & Start システムの異常 （Stop & Start システム非作動時は点灯します。：→ P. 189） → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
4WD （点灯）	4WD 警告灯★ ※¹ 4WD システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
4WD （点滅）	4WD 警告灯★ ※¹ 駆動系の発熱 → スピードを落として低速走行するか、またはエンジンをかけたまま停車してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
※1	ペダル誤操作警告灯（警告ブザー）★※1 ▶ドライブモニターディスプレイ装着車 警告灯が点灯した場合： ・アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 → ただちにアクセルペダルを離してください。 ・アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。 警告灯が点滅した場合： ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車 ブザーが鳴った場合： ・ブレーキオーバーライドシステムの異常 ・ドライブスタートコントロールの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ・アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロールが作動 → ただちにアクセルペダルを離してください。 ブザーが鳴らなかった場合： ・アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。
(黄色)	オートマチックハイビーム表示灯※1 オートマチックハイビームの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	PCS 警告灯 ・ 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ・ 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → 要因と対処方法 (→ P. 161, 301) プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC (ビークルスタビリティコントロール) システムが停止しているときも点灯します。 → P. 174
	PKSB OFF 表示灯★ パーキングサポートブレーキの異常 (警告ブザー) システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・ センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できないときに点滅します。
 (黄色)	LDA (レーンディパーチャアラート) 表示灯 ※¹ LDA システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パーキングブレーキ未解除警告灯 (警告ブザー ※²) パーキングブレーキがかかっているとき → パーキングブレーキを解除してください。
	半ドア警告灯 (警告ブザー ※³) ※¹ いずれかのドアが確実に閉まっていない → 全ドアを閉めてください。
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 5.8L 以下になった → 燃料を補給してください。
	シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー ※⁴) 運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	マスターウォーニング★ システムの異常時に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P. 301

- ※¹ マルチインフォメーションディスプレイ装着車は、マルチインフォメーションディスプレイ内に警告灯または同内容のメッセージが表示されます。
- ※² パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
 パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
- ※³ 半ドア走行時警告ブザー：
 各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。
- ※⁴ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
 運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま一定時間が経過すると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ただちに処置してください（ドライブモニターディスプレイ装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
連続音	連続音	 (黄色点滅)	プッシュボタンスタートシステム表示灯（オートマチック車） シフトレバーがP以外の状態で、エンジンスイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → シフトレバーをPにする → 電子キーを車内にもどす
1 回	3 回	 (黄色点滅)	プッシュボタンスタートシステム表示灯（オートマチック車） シフトレバーがPの状態で、エンジンスイッチをOFFにせずに、運転席ドアが開閉され電子キーを持ち出した → エンジンスイッチをOFFにしたあと、電子キーを車内から持ち出す
1 回	—	 (15 秒間 黄色点滅)	プッシュボタンスタートシステム表示灯 電子キーを携帯していない状態でエンジンを始動しようとした → 電子キーを携帯してエンジンを始動する
9 回	—	 (黄色点滅)	プッシュボタンスタートシステム表示灯 電子キーが車室内にない状態で走行をはじめた → 車室内に電子キーがあるか確認する
1 回	—	 (15 秒間 黄色点滅)	プッシュボタンスタートシステム表示灯 電子キーの電池残量が少ない → 新しい電池と交換する（→ P. 265）

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
1 回	—	 (15 秒間 緑色に 速点滅)	プッシュボタンスタートシステム表示灯 ステアリングロックが解除できなかった → ステアリングロックを解除する(→ P. 135)
1 回	—	 (30 秒間 黄色点滅)	プッシュボタンスタートシステム表示灯 ・メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できなかった ・エンジンスイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できないことが2回連続で続いた → ブレーキペダルを踏みながら電子キーで、エンジンスイッチにふれる(→ P. 339)

知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

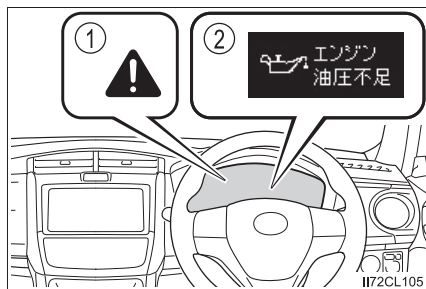
警告メッセージが表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ・警告ブザー一覧

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	衝突の可能性が高い ブリクラッシュブレーキが作動している (ブリクラッシュセーフティ) 警告ブザーが鳴ります。 → 周囲の安全を確認して、必要に応じて回避行動をとってください。
	衝突の可能性が高い、またはパーキングサポートブレーキ★が作動している 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキで減速してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ブレーキを踏みなさい  (点滅)	パーキングサポートブレーキ★の作動により、車両停止後にアクセルペダルが踏まれている 警告ブザーが鳴ります。 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
 ブレーキを踏んでください  (点滅)	パーキングサポートブレーキ★が作動している 警告ブザーが鳴ります。 → ブレーキペダルを踏んでください。
加速抑制中です  (点滅)	衝突の可能性が高い、またはパーキングサポートブレーキ★が作動している 警告ブザーが鳴ります。 → アクセルペダルから足を離してください。
 ドア・バックドアオープン	各ドアが確実に閉まっていない 開いているドアが表示されます。 各ドア、バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえたときには  が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → 開いているドアを閉めてください。
クリアランスソナー故障 販売店で点検してください 	クリアランスソナー★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
クリアランスソナー 使用できません ソナーの汚れを 除去してください 	クリアランスソナー★のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。 → 汚れおよび氷などを取り除いてください。
クリアランスソナー 使用できません 	クリアランスソナー★のシステムが一時的に使用不可と判断した 警告ブザーが鳴ります。 → しばらく走行してからクリアランスソナー★を再度設定してください。
パワーステアリング システムチェック ただちに販売店で 点検してください  	パワーステアリングシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
パーキング ブレーキを 解除してください 	パーキングブレーキが解除されていない パーキングブレーキをかけたまま、車速が5km/hをこえたときには  が点滅し、警告ブザーが鳴ります。 → パーキングブレーキを解除してください。
アクセルを 戻してください  (点滅)	アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントロール★が作動 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにアクセルペダルを離してください。
 充電システム故障 	充電システムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
※ スマートエントリー & スタートシステムチェック  (点滅)	プッシュボタンスタートシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ※ この車両には、スマートエントリーシステムは搭載されておりません。
LDA故障 販売店で 点検してください 	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ブリクラッシュ セーフティ故障 販売店で 点検してください  OFF (点滅)	PCS（ブリクラッシュセーフティ）の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
エンジン 油圧不足 	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと、警告ブザーが鳴ります。 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店に連絡してください。
4WD システムチェック 	4WD システム★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
LDA 約50km/h以下で 使用できません	車速が約 50km/h 以下のため、LDA（レーンディパーチャーアラート）が使用できない → 50km/h 以上の車速で走行する。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 LDA 現在の車速では 使用できません	車速がLDA（レーンディパーチャーアラート）の作動可能速度をこえたため、使用できない → 車速を落として走行してください。
 アイドリング ストップ故障 販売店で 点検してください 	Stop & Start システム★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ライトが 点灯しています  (点滅)	車幅灯点灯時に運転席ドアを開けた 警告ブザーが鳴ります。 → 車幅灯を消灯してください。
4WD システム過熱 2WDに 切り替えました  (点滅)	前後輪の回転速度の差が大きい状態が長時間続いた 後輪への駆動力配分を休止し、FFモードになります。 ・警告ブザーが鳴ります。 → スピードを落として低速走行する、またはエンジンをかけたまま停車してください。
パーキング サポートブレーキ 故障 販売店で 点検してください  OFF  (点滅)	パーキングサポートブレーキ★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 ドライブ スタート コントロール故障 	ドライブスタートコントロール★の異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 ブレーキ オーバーライド システム故障 	ブレーキオーバーライドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ヘッドランプ システム故障 販売店で 点検してください 	オートマチックハイビームシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 アクセルと ブレーキが 両方踏まれて います  (点滅)	アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。
AHB起動 のためには ハイビーム操作 が必要です	ヘッドランプがロービームの状態オートマチックハイビームスイッチを押した → ヘッドランプをハイビームに切りかえてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
VSCが OFFのため ブリクラッシュブレーキも 停止します  	ブリクラッシュブレーキおよびブリクラッシュブレーキアシストが現在機能していない (衝突警報は作動します) → VSC を ON にしてください。(→ P. 174, 217)
ブリクラッシュ セーフティ 現在使用できません 	PCS (ブリクラッシュセーフティ) が現在機能していない → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
パーキング サポートブレーキ 現在使用できません   (点滅) (点滅)	センサー部分の汚れなどにより、パーキングサポートブレーキ★が現在機能していない → 汚れおよび氷などを取り除いてください。
前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちください 	前方センサーの作動条件(温度など)が満たされていない 次のシステムが一時的に使用できなくなります。 ・ PCS (ブリクラッシュセーフティ) ・ LDA (レーンディパーチャーアラート) ・ オートマチックハイビーム ・ 先行車発進告知機能 → 前方センサーの作動条件(温度など)が満たされると、システムは使用可能になります。いったんシステムを OFF にして、しばらく待ってから、再度システムを ON にしてください。
前方カメラ 一時使用不可 ガラスの汚れやくもりを 取ってください 	前方センサーの前のフロントウインドウガラスに汚れ・雨滴・曇り・氷雪などが付着している 次のシステムが一時的に使用できなくなります。 ・ PCS (ブリクラッシュセーフティ) ・ LDA (レーンディパーチャーアラート) ・ オートマチックハイビーム ・ 先行車発進告知機能 → いったんシステムを OFF にして、汚れ・雨滴・曇り・氷雪などを取り除いてから、再度システムを ON にしてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 シートベルト 非装着  ハンドル操作  ブレーキ システム  エアコン優先  バッテリー 充電中	アイドリングストップが中断されたとき (Stop & Start システム装着車) → P. 192
 シートベルト 非装着  ブレーキ システム  エアコン優先  バッテリー 充電中  専用バッテリー 非装着	アイドリングストップが作動できないとき (Stop & Start システム装着車) → P. 192

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ LDA の車線逸脱警報について

次のような場合は、車線を逸脱しても、警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 作動条件以外の車速で走行しているとき
- 走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき

また、その他にも、システムが正常に作動しない場合があります。（→ P. 178）

ただちに処置してください。

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンを始動しようとした → 電子キーを携帯してエンジンを始動する
1 回	3 回	キーが 見つかりません  (点滅)	エンジンスイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した → 電子キーを車内にもどす シフトレバーが P の状態でエンジンスイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された → エンジンスイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす
1 回	連続音 (5 秒間)	キーが 見つかりません 電源を OFFしてください (交互に表示)  (点滅)	シフトレバーが P の状態でエンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした → エンジンスイッチを OFF にしたあと、再度施錠する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
9 回	なし	キーが 見つかりません  (点滅)	正規の電子キーが車室内にない 状態で行走をはじめた → 車室内に電子キーがあるか 確認する
連続音	なし	Pレンジに 入れてください  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態 で、エンジンスイッチを OFF に せずに運転席ドアを開いた → シフトレバーを P にする
連続音	連続音	Pレンジに 入れてください キーが 見つかりません (交互に表示)  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で エンジンスイッチを OFF にせず にキーを持ち出したまま運転席 ドアが開閉された → ・ シフトレバーを P にする ・ 電子キーを車内に入れる
1 回	連続音 (約 5 秒 間)	車室内に キーがあります  (点滅)	車内に電子キーを置いたまま、 フロントドアを開き、ロックレ バーを施錠側にしてドアハンド ルを引いたままドアを閉めて施 錠しようとした → 車内から電子キーを取り出 したあと、再度施錠する

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	なし	ブレーキを 踏みながら キーでエンジンスイッチ に触れてください  (点滅)	・メカニカルキーで解錠してエンジンスイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・エンジンスイッチを押したとき車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた → ブレーキを踏みながら電子キーでエンジンスイッチにふれる
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか 	電子キーの電池残量が少ない → 新しい電池と交換する (→ P. 265)
1 回	なし	始動時はブレーキ を踏みながら エンジンスイッチを 押してください  (点滅)	電子キーが正常に働かないときのエンジンの始動の方法で(→P. 339) エンジンスイッチに電子キーをふれた → ブザーが鳴ってから10秒以内にエンジンスイッチを押す
1 回	なし	ステアリング ロック未解除  (点滅)	エンジンスイッチを押してから約3秒以内にステアリングロックが解除できなかった → ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながらエンジンスイッチを押す

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）。パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 314）

タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■ タイヤがパンクしたときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

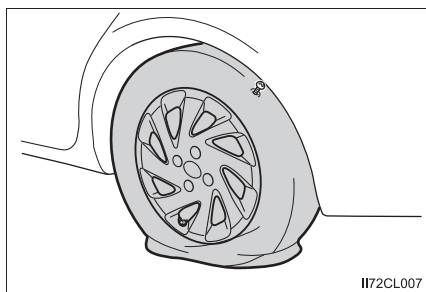
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを N に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

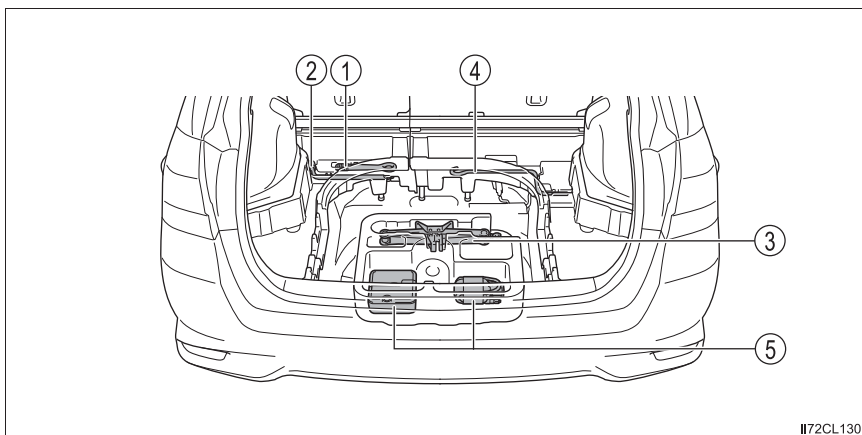
■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

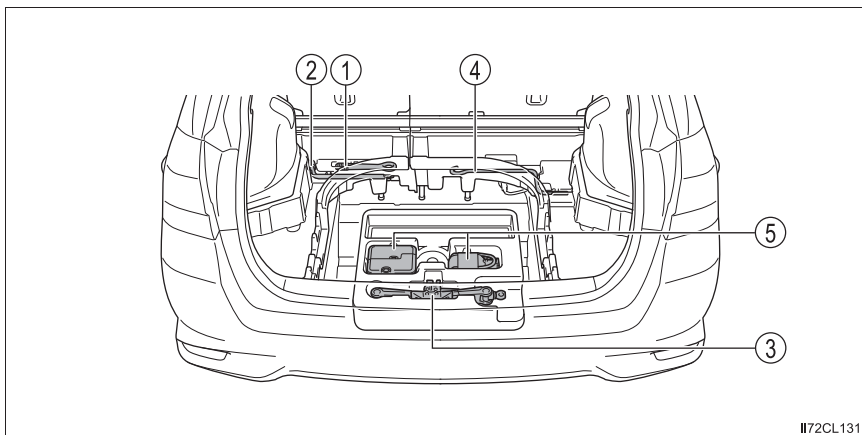
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ FF 車（前輪駆動）



II72CL130

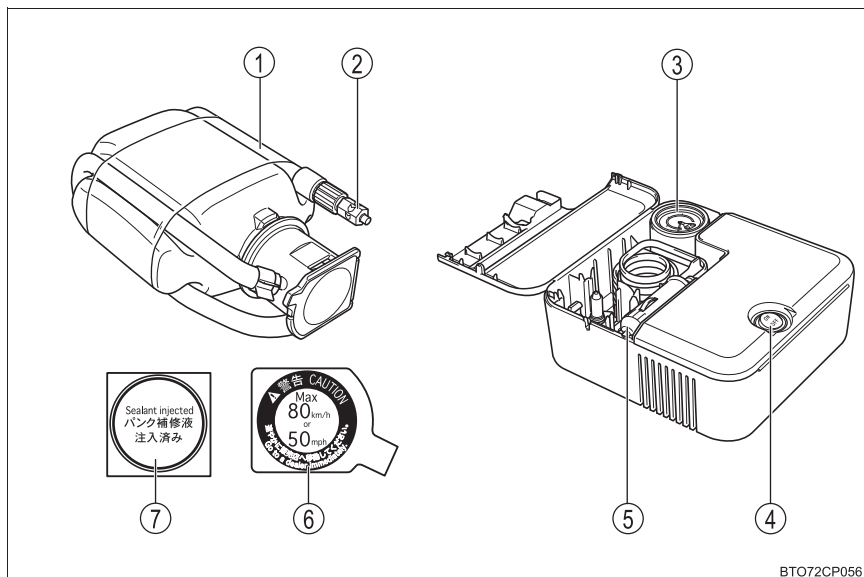
▶ 4WD 車（4 輪駆動）



II72CL131

- | | |
|--------------|-----------------|
| ① けん引フック | ④ ジャッキハンドル |
| ② ホイールナットレンチ | ⑤ タイヤパンク応急修理キット |
| ③ ジャッキ ※ | |
- ※ ジャッキの使い方（→ P. 332）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

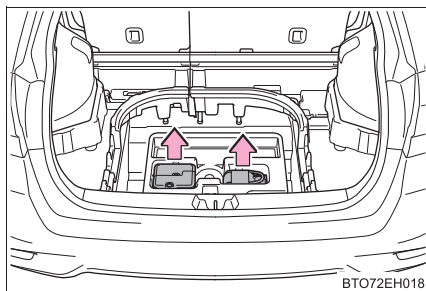
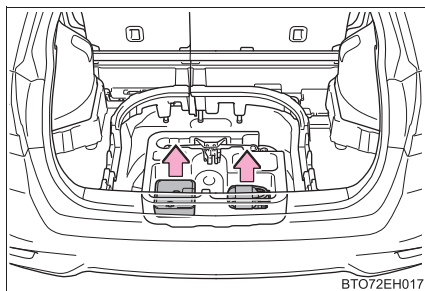


BTO72CP056

- | | |
|-------------|----------------|
| ① ホース | ⑤ 電源プラグ |
| ② 空気逃がしキャップ | ⑥ 速度制限ラベル |
| ③ 空気圧計 | ⑦ パンク補修液注入済ラベル |
| ④ スイッチ | |

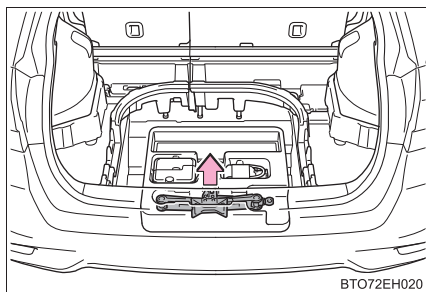
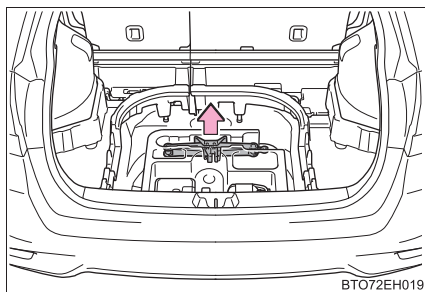
タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

- 1 デッキボード、デッキアンダートレイのセンタートレイを取りはずす
(→ P. 237)
- 2 応急修理キットを取り出す
 - ▶ FF 車 (前輪駆動)
 - ▶ 4WD 車 (4 輪駆動)



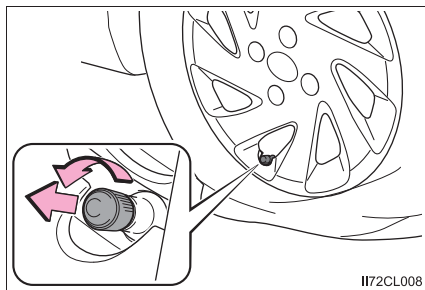
ジャッキの取り出し方

- 1 デッキボード、デッキアンダートレイのセンタートレイを取りはずす
(→ P. 237)
- 2 ジャッキを取り出す
 - ▶ FF 車 (前輪駆動)
 - ▶ 4WD 車 (4 輪駆動)



応急修理するとき

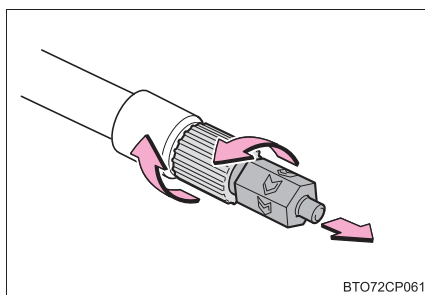
- 1 応急修理キットを取り出す
- 2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



- 3 ボトルの保護フィルムをはがし
ホースをのばす
ボトルのホースから空気逃がし
キャップを取りはずす

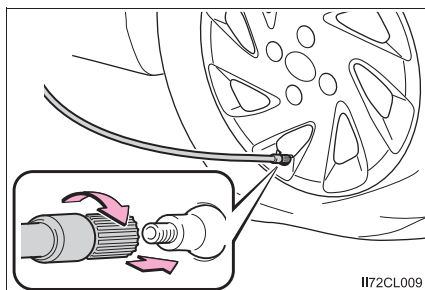
ボトルに同封されているパンク補修液
注入済みラベルは指定の位置へ貼り付
けます。(手順9へ)

空気逃がしキャップは再度使用するた
め、なくさないように保管してくださ
い。

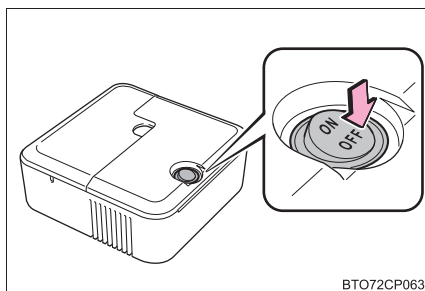


- 4 ボトルのホースをパンクしたタ
イヤのバルブに接続する

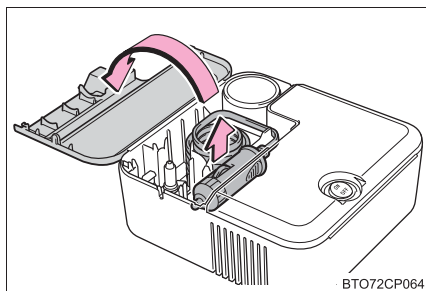
ホース先端を時計まわりにまわして、
しっかりと最後までねじ込みます。



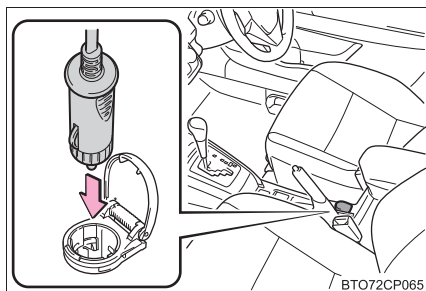
- 5 コンプレッサーのスイッチが
OFFであることを確認する



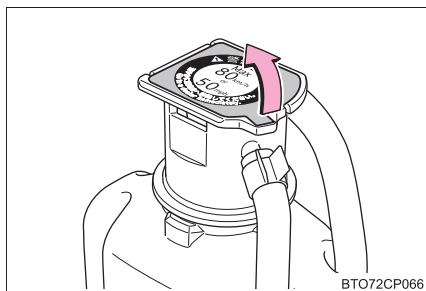
- 6 コンプレッサーの電源プラグをはずす



- 7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに挿し込む (→ P. 242)

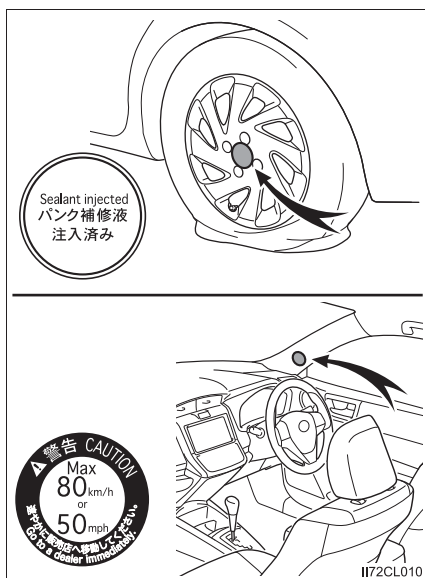


- 8 速度制限ラベルをはがす



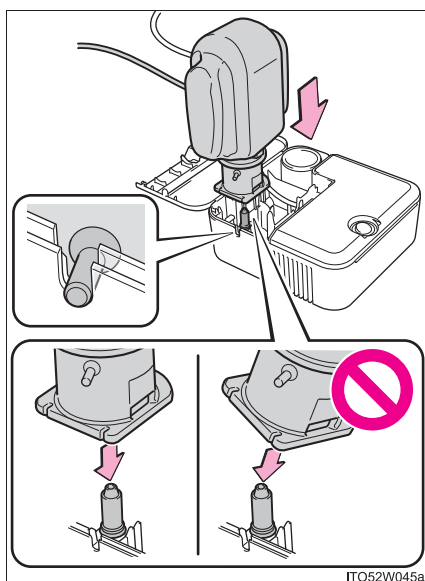
9 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

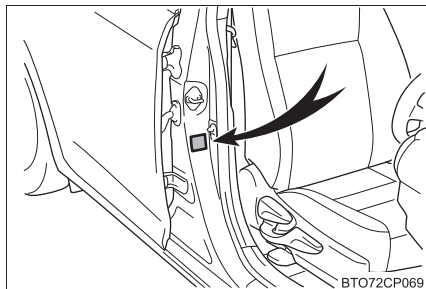


10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかり合っているか確認してください。



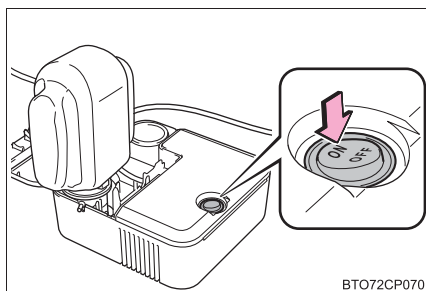
- 11** タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→ P. 258)



BTO72CP069

- 12** エンジンを始動する

- 13** コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



BTO72CP070

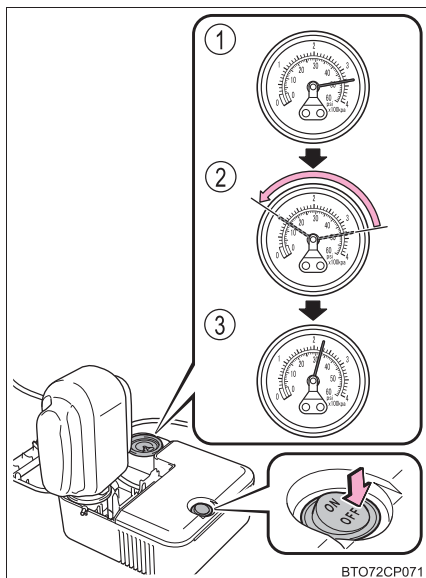
- 14** 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

- ① スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する
- ② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる
- ③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→ P. 323)



BTO72CP071

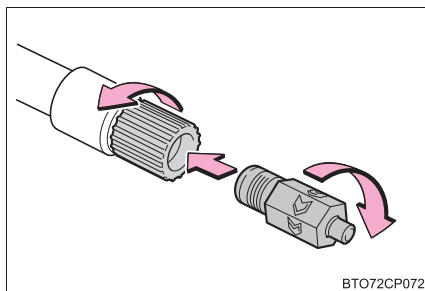
- 15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリソケットから電源プラグを抜き、バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 17** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。

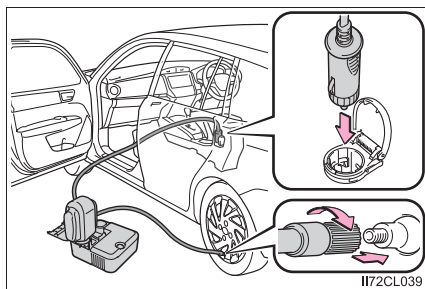


BT072CP072

- 18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、安全に走行する（速度 80km/h 以下）

- 20** 走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する



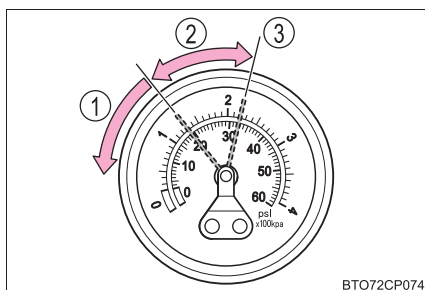
II72CL039

- 21** コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 ON にし、OFF にして空気圧を確認する

- ① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- ② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

- ③ 空気圧が指定空気圧（→ P. 359）の場合：手順 **23** へ

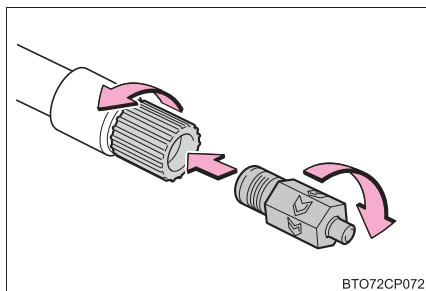


BT072CP074

- 22** コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行あとにあらためて手順 **20** から実施する

- 23** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



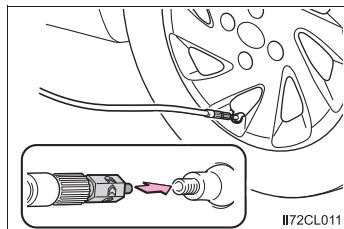
BT072CP072

- 24** ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する
- 25** 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます。
- タイヤの修理・交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■ 空気を入れすぎてしまったとき

- 1** タイヤからホースを取りはずす
- 2** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



II72CL011

- 3** ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4** コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する
- 指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が－40℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告**■パンク補修液について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

 警告**■ 補修液を均等に広げるための運転について**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 257 を参照してください）

警告

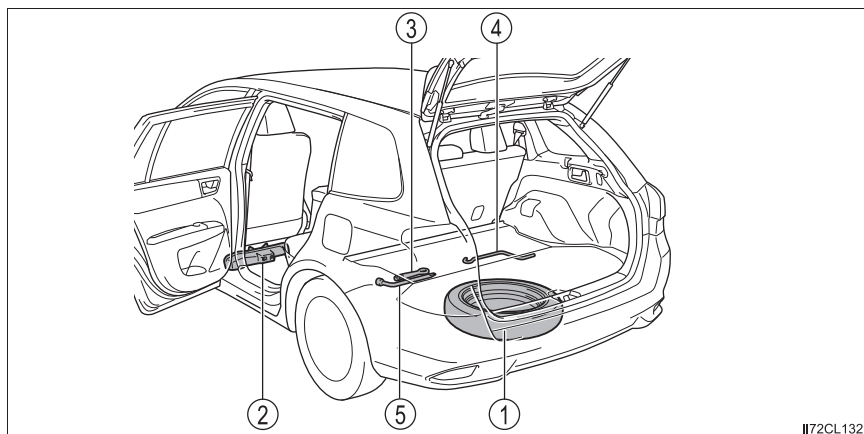
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを R に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置

① 応急用タイヤ

② ジャッキ

③ けん引フック

④ ジャッキハンドル

⑤ ホイールナットレンチ

 警告**■ ジャッキの使用について**

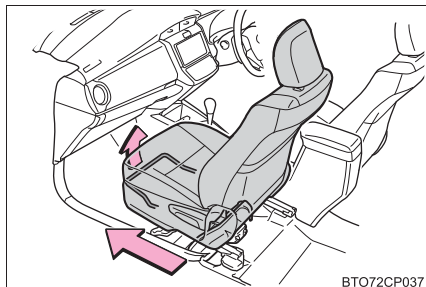
次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

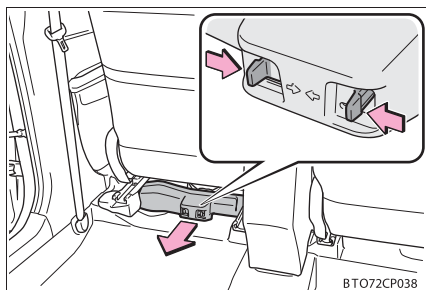
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキの取り出し方

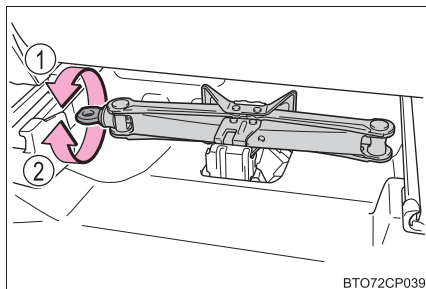
- 1 助手席シートをいちばん前に移動する



- 2 ノブを内側につまみ、手前に引いて、カバーを取りはずす

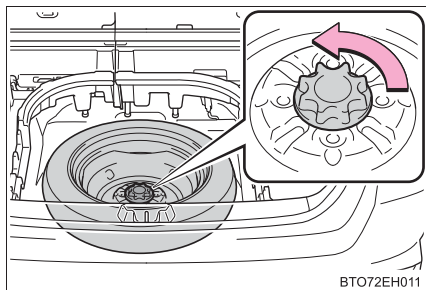


- 3 ジャッキをゆるめて取りはずす
 - ① 締まる
 - ② ゆるむ



応急用タイヤの取り出し方

- 1 デッキボード、デッキアンダートレイのセンタートレイ★を取りはずす (→ P. 237)
- 2 留め具をはずし、応急用タイヤを取りはずす



BT072EH011

⚠ 警告

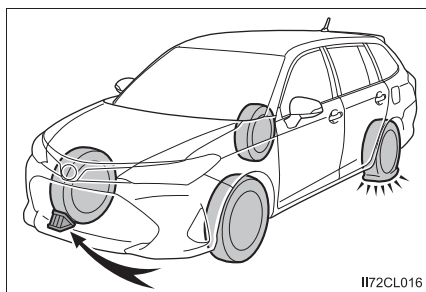
■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

- 1 輪止め※をする

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。



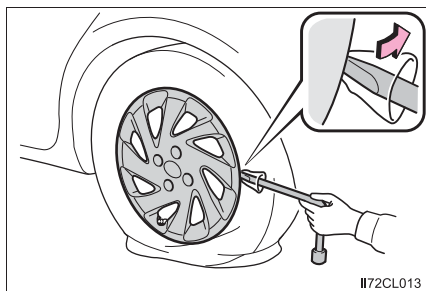
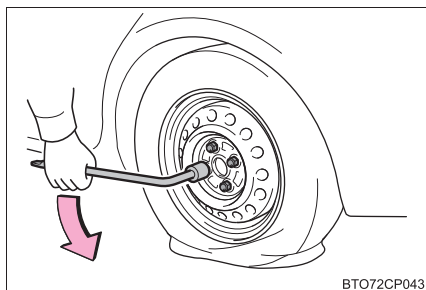
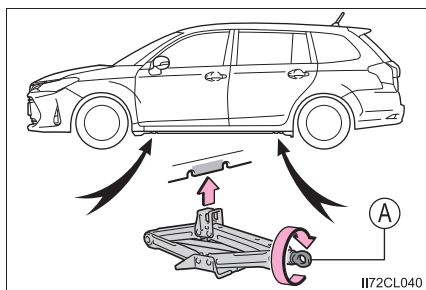
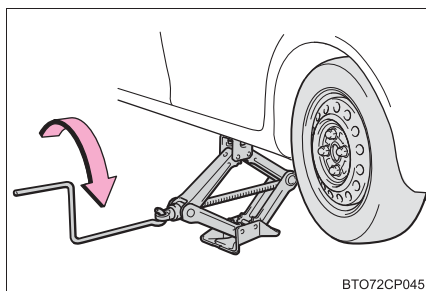
II72CL016

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

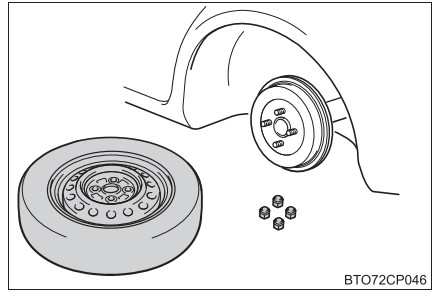
2 ホイールキャップをはずす

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

**3** ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる**4** ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける**5** タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上 にします。



警告

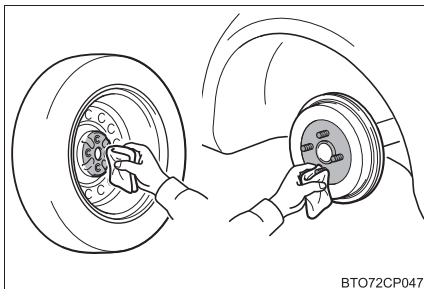
■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後は、すぐに $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける

タイヤの取り付け

- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る。

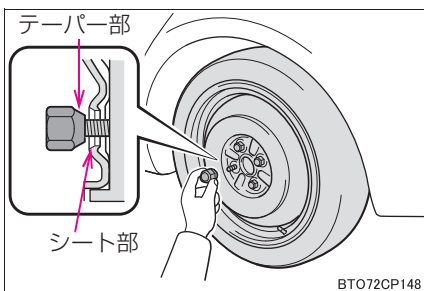
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



BT072CP047

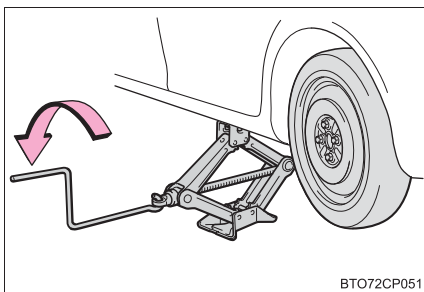
- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



BT072CP148

- 3** 車体を下げる

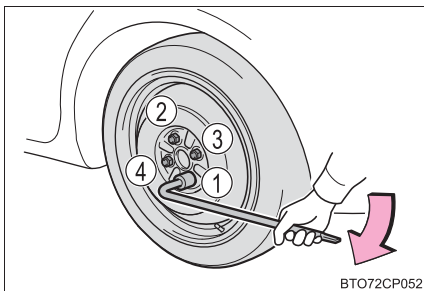


BT072CP051

- 4** 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

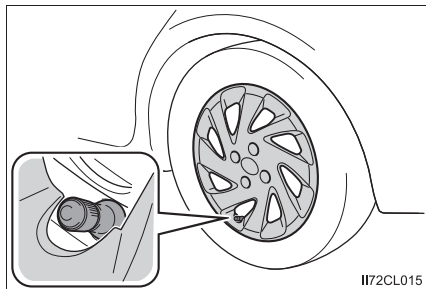
103N・m (1050kgf・cm)



BT072CP052

- 5 ホイールキャップを取り付ける※
タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付ける。

※ 応急用タイヤに取り付けることはできません。



- 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 359）

■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

- 1 後輪を応急用タイヤに交換する
- 2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■ 応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度（トレッドウエアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

 警告**■ 応急用タイヤを装着しているとき**

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ EPS
- ・ オートマチックハイビーム
- ・ パーキングサポートブレーキ★
- ・ TRC
- ・ LDA（レーンディパーチャーアラート）
- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ アクティブトルクコントロール 4WD システム★

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの装着について**

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 126）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 126）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 62）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 342）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性あります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 338）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 342)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

▶ オートマチック車

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 エンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

▶ マニュアル車

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがNであることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏みながら、約15秒間エンジンスイッチを押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

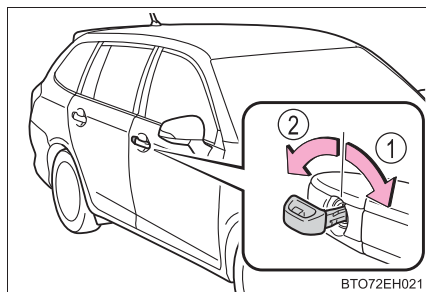
電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 89）、電子キーの電池が切れたときは、ワイヤレスリモコンが使用できなくなったり、エンジンを始動できなくなったりします。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの解錠・施錠

メカニカルキー（→P. 86）を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠

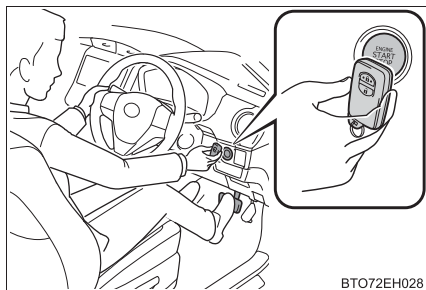


エンジン始動の方法

▶ オートマチック車

- ① シフトレバーがPの状態ブレーキペダルをしっかりと踏む
- ② 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。
カスタマイズ機能でプッシュボタンスタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



- 3 ドライブモニターディスプレイ装着車：
ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、プッシュボタンスタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する
マルチインフォメーションディスプレイ装着車：
ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーション

ディスプレイに  が表示されていることを確認する

- 4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

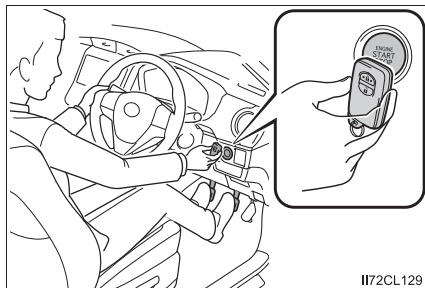
▶ マニュアル車

- 1 シフトレバーが N の状態でクラッチペダルとブレーキペダルを踏む

- 2 電子キーのトヨタエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でプッシュボタンスタートシステムを非作動にしたときは、アクセサリモードへ切りかわります。



- 3 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、プッシュボタンスタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する。

- 4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

 知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P（オートマチック車）または N（マニュアル車）にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 265）

■ エンジンスイッチのモードの切りかえ

エンジン始動方法の手順 **3** で、オートマチック車はブレーキペダル、マニュアル車はクラッチペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 130）

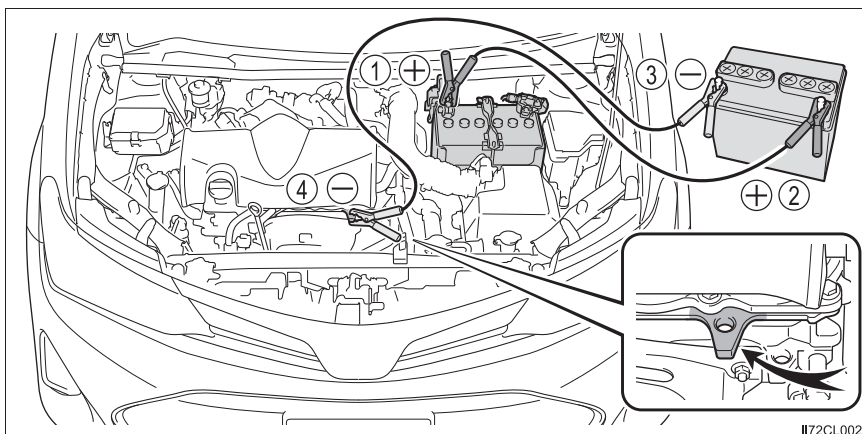
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

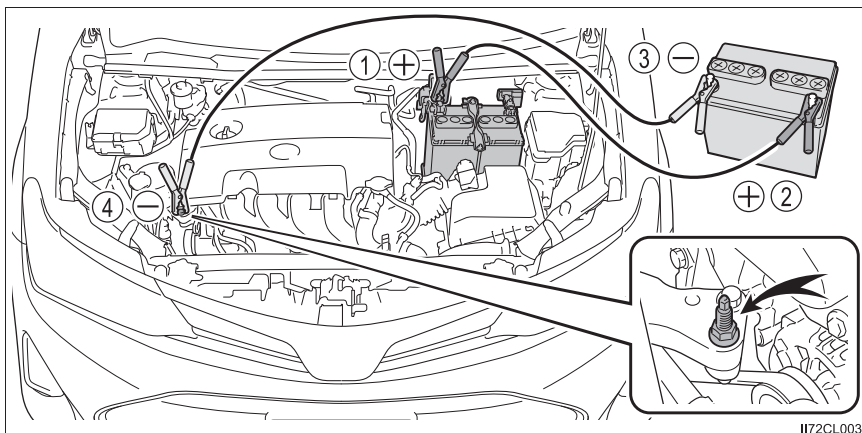
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 ボンネットを開ける (→ P. 253)
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部 (図に示すような固定された部分) につなぐ

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車



▶ 1NZ-FE エンジン搭載車



1172CL003

- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
- 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する
- 6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について（オートマチック車）

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンが停止しているときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。（Stop & Start システム★によるエンジン停止中を除く）
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

- バッテリー脱着後、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーがあがる前の状態に車両は復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。
- バッテリーがあがったあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 5 ～ 60 分間、Stop & Start システム★が作動しないことがあります。

■バッテリーの交換について (Stop & Start システム装着車)

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。S-95 またはそれ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。
適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ 車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→ P. 294）が点滅または点灯したり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

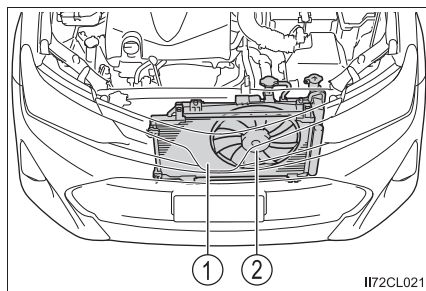
- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）の間にあるかを点検する

① リザーバタンク

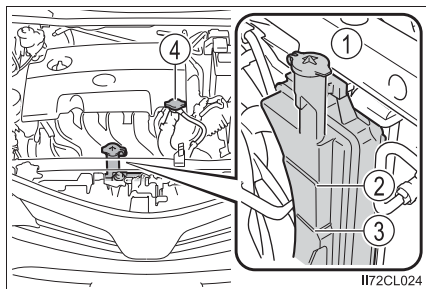
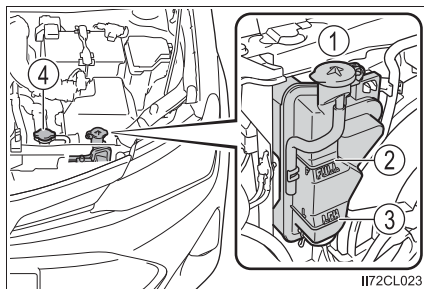
③ “LOW”（下限）

② “FULL”（上限）

④ ラジエーターキャップ

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

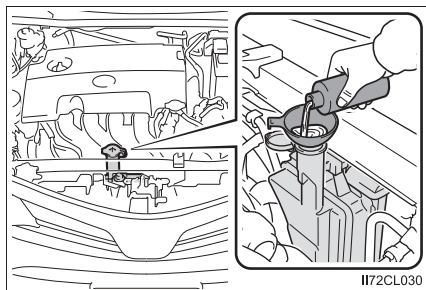
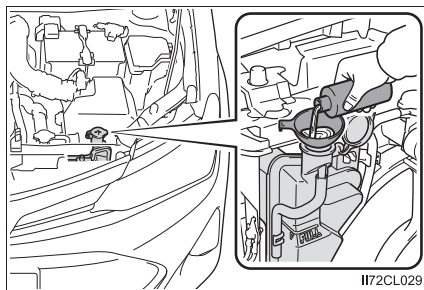


- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急処置として水を補給してください。

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7 ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

 警告**■ エンジンルームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、ラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 注意**■ 冷却水を入れるときの注意**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は N にしてエンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪などを取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをオートマチック車は D または R、マニュアル車は 1 または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

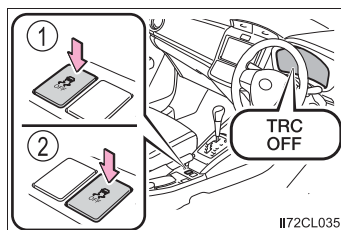
■脱出しにくいとき

▶ ドライブモニターディスプレイ装着車



を押して TRC を OFF にしてください。

- ① FF 車（前輪駆動）
- ② 4WD 車（4 輪駆動）

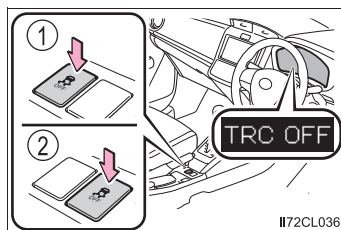


▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



を押して TRC を OFF にしてください。

- ① FF 車（前輪駆動）
- ② 4WD 車（4 輪駆動）



 警告**■ 脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
（指定燃料・オイル量
など）352

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧361

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	42

※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

エンジンオイル

▶ 2NR-FKE エンジン搭載車

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正 モーターオイル SN OW-16 —API SN/RC, SAE OW-16 適合： トヨタ純正 モーターオイル SN PLUS OW-20 —API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE OW-20 トヨタ純正 モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	3.0	3.3

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

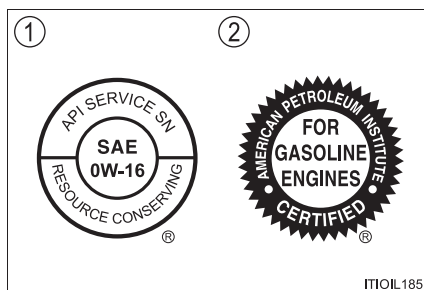
API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

OW-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

OW-16 が入手困難な場合は、OW-20、5W-30 もご使用いただけます。

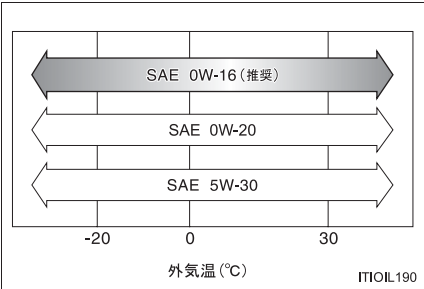
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



- オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：
- ・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
 - ・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正 モーターオイル SN PLUS 0W-20 —API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 適合： トヨタ純正 モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	3.4	3.7

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

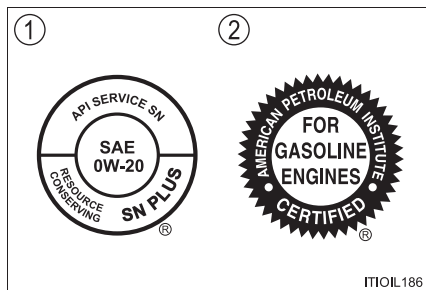
API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-20 が入手困難な場合は、5W-30 もご使用いただけます。

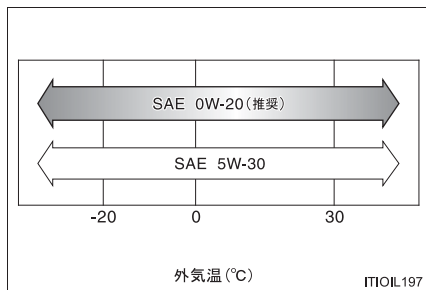
なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
 - ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
- 粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフ クーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12°C 濃度 50% - 35°C	2NR-FKE	4.9
	1NZ-FE (オートマチック車)	5.0
	1NZ-FE (マニュアル車)	4.8

オートマチックトランスミッション (オートマチック車)

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値 ※)
トヨタ純正 CVT フルード FE	2NR-FKE	7.5
	1NZ-FE	7.9

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

 注意

■ CVT フルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

マニュアルトランスミッション (マニュアル車)

指定銘柄・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャルⅡ (API GL-3 SAE75W-90)	1.9

トランスファー（4WD 車）

指定銘柄・推奨粘度	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE75W-85)	0.45

リヤディファレンシャル（4WD 車）

指定銘柄・推奨粘度	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE75W-85)	0.5

ブレーキ**■ ブレーキフルード**

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	80 以上

※ エンジン回転時に 294N（30kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200N（20.4kgf）のときのノッチ ※ 数	8 ～ 11

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”）という音のことです。

クラッチ

■ クラッチフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ クラッチペダル

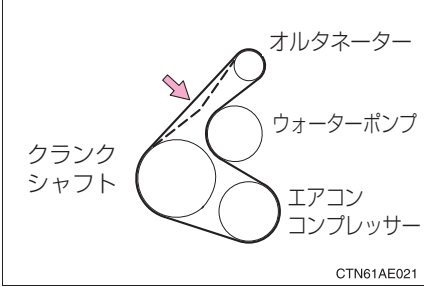
項目	基準値 [mm]
遊び	5 ~ 15
プッシュロッドの遊び (ペダル上部)	1 ~ 5
切れたときの床板とのすき間 ※	25 以上

※ クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
2.3

V リブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量  オルタネーター ウォーターポンプ エアコンコンプレッサー クランクシャフト CTN61AE021	2NR-FKE	自動調整
	1NZ-FE	12.5 ~ 13.5
押力 98N (10kgf) (冷間時)		

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準 タイヤ	175/65R15 84H (FF 車)	15×5J	230 (2.3)	
	175/65R15 84H (4WD 車)	15×5J	220 (2.2)	
	185/60R15 84H	15×5 1/2J	230 (2.3)	
応急用 タイヤ★	T125/70D16 96M	16×4T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ロービーム（バルブタイプ：H11） ハイビーム（バルブタイプ：HB3）	55 60
	車幅灯	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21 / 5
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	パーソナルランプ	8
	ルームランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※ 表に記載のないランプはLEDを採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
カローラ フィールダー	NRE161G	2NR-FKE (1.5L ガソリン)	FF（前輪駆動）
	NZE161G	1NZ-FE (1.5L ガソリン)	FF（前輪駆動）
	NZE164G		4WD（4輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

■ プッシュボタンスタートシステム (→ P. 126)

機能の内容	初期設定	変更後
システムの作動	あり	なし

■ ワイヤレスドアロック (→ P. 89)

機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレス機能	あり	なし
作動の合図 (ブザー)	あり	なし
作動の合図 (ブザー音量調整)	7	レベル 0 ~ 7
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
半ドア警告ブザー	あり	なし

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 144)

機能の内容	初期設定	変更後
ライトセンサーの感度調整	-2	レベル -1 ~ 2
ランプ消し忘れ防止機能	運転席ドアと連動	エンジンスイッチと連動

■ イルミネーション (→ P. 231)

機能の内容	初期設定	変更後
消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
		30 秒
解錠後の作動	あり	なし
エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし

■ クリアランスソナー★ (→ P. 196)

機能の内容	初期設定	変更後
フロントセンサーの検知可能距離	遠い	近い
リヤセンサーの検知可能距離	遠い	近い

知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図（ブザー音量調整）」の設定に依存します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは （症状別さくいん）.....	364
車から音が鳴ったときは （音さくいん）	367
アルファベット順さくいん.....	368
五十音順さくいん	370

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 87）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 88）



解錠・施錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 265）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
施錠するときはエンジンスイッチをOFFにしてください。（→ P. 130）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 89）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 92）

故障かな？と思ったら**エンジンがかからない**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 126）
- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 138）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 132）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 134）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 339）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 342）

**ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーがPから動かない
（オートマチック車）**

- エンジンスイッチはイグニッション ON モードになっていますか？
エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも
解除できないとき（→ P. 139）

**エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった**

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 134）

**パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない**

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？
ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 108）



エンジンスイッチが自動的に OFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッションONモード(エンジンがかかっていない状態) にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。(→ P. 133)



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」(→ P. 367) をご確認ください。



警告灯が表示されたとき

- 警告灯が表示されたときは、P. 294 をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。(→ P. 313)
- 応急用タイヤ装着車
車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。(→ P. 327)



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。(→ P. 349)

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状況や誤操作などをお知らせするために各種の警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている★	P. 299, 311
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯が点灯している	P. 147
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 299, 312

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 90
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 297
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 297
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 119
前方の車両と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 162
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用している	P. 175
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P. 185

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

4WD

(4 ホイールドライブ)215

A/C

(エアコン)226

ABS

(アンチロックブレーキシステム)215

AHB

(オートマチックハイビーム)181

EDR

(イベントデータレコーダー) 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング)215

FF

(フロントエンジンフロントドライブ)360

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション)353

ISOFIX

(アイソフィックス／イソフィックス) 55, 58

LDA

(レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報)175

PCS

(ブリクラッシュセーフティ)162

PKSB

(パーキングサポートブレーキ)204

SRS

(サブリメンタルレストRAINTシステム) 32

TRC

(トラクションコントロール)215

VSC

(ビークルスタビリティコントロール)215

五十音順さくいん

あ

アースポイント (バッテリー あがりの処置)	342
アームレスト (リヤアームレスト)	244
アイドリングストップ	187
アイドリングストップ 時間	72, 80
Stop & Start System	187
Stop & Start キャンセル スイッチ	189
Stop & Start キャンセル 表示灯	66
Stop & Start 表示灯	66
アウターミラー (ドアミラー) ...	106
操作	106
アクセサリーソケット	242
アクセサリーモード	130
アシストグリップ	243
アンチロックブレーキシステム (ABS)	215
アンテナ プッシュボタンスタート システム	132
ルーフアンテナ	246

い

イグニッションスイッチ (エンジンスイッチ)	126
位置交換 (タイヤローテーション)	257
イベントデータレコーダー (EDR)	8

イモビライザーシステム	62
イルミネーテッドエントリー システム	232
インジケーター (表示灯)	66
インナーミラー	105

う

ウインカー (方向指示灯)	142
電球 (バルブ) の交換	275, 277, 279
方向指示レバー	142
ワット数	360
ウインドウ	108
ウォッシャー	149, 151
パワーウインドウ	108
リヤウインドウ デフォッガー	227
ウインドウロックスイッチ	108
ウインドシールドデアイサー	228
ウォーニングランプ (警告灯)	64, 294
ウォッシャー	149, 151
液の補充	256
スイッチ	149, 151
タンク容量	358
冬の前の準備・点検	221
動けなくなったときは (スタック)	349
運転	112
運転を補助する装置	215
寒冷時の運転	221
正しい運転姿勢	24
手順	112

え

エアコン	226
フィルターの交換	263
マニュアルエアコン	226
エアバッグ	32
SRS エアバッグ警告灯	294
作動条件	36
配置	32
エコドライブインジケータランプ	66
エレクトリックパワー	
ステアリング (EPS)	215
機能	215
パワーステアリング警告灯	295
パワーステアリング警告	
ブザー	295
エンジン	
エンジンイモビライザー	
システム	62
エンジンがかからない	
(エンジンが始動	
できない)	337
エンジン警告灯	294
エンジン (イグニッション)	
スイッチ	126
エンジンの始動方法	126
オーバーヒート	346
ボンネット	253
エンジンオイル	353
冬の前の準備・点検	221
メンテナンスデータ	353
油圧警告灯	294
油圧警告ブザー	294

エンジン (イグニッション)

スイッチ	126
エンジンのかけ方	126
自動電源 OFF 機能	133
車両を緊急停止するには	286
モードの切りかえ	130
エンジンフード (ボンネット)	253
開け方	253
エンジンルーム	
エンジンルームから	
蒸気が出ている	346

お

オイル (エンジンオイル)	353
応急用タイヤ	327
空気圧	359
交換方法	327
オートマチック	
トランスミッション	138
操作	138
オートマチックハイビーム	181
オーバーヒート	346
オープナー	
給油口	155
ボンネット	253
お子さまを乗せるとき	41
ウインドウロックスイッチ	108
お子さまの安全のために	41
シートベルトの着用	29
チャイルドシート	42
チャイルドプロテクター	92
オドメーター	68
機能	72, 78, 79
表示切りかえボタン	71, 78

か

カーテンシールドエアバッグ	32
カーペット	250
洗浄	250
フロアマットの取り付け方	22
外気温度表示	72, 79
外装の電球（バルブ）	271
交換要領	271
ワット数	360
カスタマイズ機能	73, 81, 361
型式	360
カップホルダー	235
ガラスの曇り止め （リヤウインドウデフォッガー）	227
ガレージジャッキ	255
冠水路走行	123
寒冷時の運転	221

き

キー	86
エンジンが始動できない	337
キーナンバープレート	86
キーの構成	86
キーをなくした	87, 88
正常に働かない	339
解錠・施錠ができない	339
電子キー	86
電池が切れた	265, 339
メカニカルキー	86
ワイヤレスリモコン	86
給油	153
給油のしかた	153
緊急時シートベルト固定機構	29
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	337
オーバーヒートした	346
キーの電池が切れた	265, 339
警告灯がついた	294
警告メッセージが 表示された	301
けん引	288
故障したときは	282
車両を緊急停止する	286
水没・冠水したときは	287
スタックした	349
電子キーが正常に働かない	339
発炎筒	284
バッテリーがあがった	342
パンクした	327, 313

く

空気圧 (タイヤ)	359
メンテナンスデータ	359
区間距離計	
(トリップメーター)	68
機能	72, 78
表示切りかえボタン	71, 78
曇り取り	
フロントウインドウ	
ガラス	227
ミラーヒーター	227
リヤウインドウ	
デフォグガー	227
クラクション (ホーン)	103
クリアランスソナー	196
警告メッセージ	301
操作	196
クリアランスランプ (車幅灯) ...	144
スイッチ	144
電球 (バルブ) の交換	276
ワット数	360
クリップ	
フロアマット	22
グローブボックス	234

け

警音器 (ホーン)	103
計器類 (メーター)	68
照度調整	73, 78
スピードメーター	68
タコメーター	68
時計調整ボタン	244
時計表示	68
ドライブインフォメーション ...	79
ドライブモニターディスプレイ	
.....	71
燃料計	68
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	77
警告灯	65
ABS & ブレーキアシスト	295
SRS エアバッグ	294
LDA 表示灯	297
エンジン	294
オートマチックハイビーム表示灯	
.....	296
高水温	294
シートベルト非着用	297
充電	294
Stop & Start	
キャンセル表示灯	295
スリップ表示灯	295
燃料残量	297
パーキングブレーキ未解除	297
パワーステアリング	295
半ドア	297
プッシュボタンスタート	
システム表示灯	299
PKSB OFF 表示灯	297
PCS	297

プリテンショナー	294
ブレーキ	294
ブレーキオーバーライド システム／ドライブスタート コントロール	296
マスターウォーニング	298
油圧	294
4WD	295
警告ブザー	
高水温	294
シートベルト非着用	297
パーキングブレーキ 未解除走行時	297
パワーステアリング	295
半ドア	90
半ドア走行時	297
プッシュボタンスタート システム	299, 304
ブレーキ	294
油圧	294
ランプ消し忘れ	147
リバース	139
警告メッセージ	301
けん引	288
けん引のしかた	288
フック	290

こ

交換

エアコンフィルター	263
キーの電池	265
タイヤ	327
電球（バルブ）	271
ヒューズ	268
工具（ツール）	315, 328
光軸調整ダイヤル	146
航続可能距離	73, 79
後退灯（バックアップランプ） 電球（バルブ）の交換	277
ワット数	360
コンソールボックス	234
コンビニフック	238

さ

サイドエアバッグ	32
サイド方向指示灯 電球（バルブ）の交換	279
方向指示レバー	142
ワット数	360
サイドミラー（ドアミラー）	106
操作	106
坂道発進補助機能	189
サンバイザー	242

し

シート	97, 98
正しい運転姿勢	24
調整	97, 98
手入れ	250
フロントシート	97
ヘッドレスト	100
リヤシート	98
シートベルト	26
お子さまの着用	29
緊急時シートベルト固定機構	29
シートベルト非着用警告灯	297
正しく着用するには	26
着け方・はずし方	26
手入れ	250
妊娠中の方の着用	30
シートベルトプリテンショナー	29
機能	29
プリテンショナー	
警告灯	294
室内灯	231
操作	232
ワット数	360
始動のしかた	126
シフトポジション	138

シフトレバー	138, 140
シフトロックシステム	
(解除ボタン)	139
操作	138, 140
リバース警告ブザー	139
シフトレバーがシフト	
できないときは	139
締め付けトルク (ホイール)	334
ジャッキ	
ガレージジャッキ	255
車載ジャッキ	315, 328
ジャッキハンドル	315, 328
車幅灯	
スイッチ	144
電球 (バルブ) の交換	276
ワット数	360
車両型式	360
車両仕様 (スペック)	352
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	286
手動光軸調整ダイヤル	146
瞬間燃費	72, 79
助手席アッパーボックス	234
仕様 (車両仕様)	352

す

スイッチ

イグニッション	126
ウインドウロック	108
ウインドシールド デアイサー	228
ウォッシャー	149, 151
LDA	177
エンジンスイッチ	126
オートマチックハイビーム	181
ドアミラー	106
ドアロック	91
パワーウインドウ	108
PCS OFF	166
非常点滅灯 (ハザードランプ)	283
VSC OFF	216
ランプ	144
リヤウインドウ デフォッガー	227
ワイパー	149, 151
スタック	349
ステアリングホイール (ハンドル)	103
位置調整	103
ステアリングロック	134
解除できないとき	135
ストップランプ (制動灯) 電球 (バルブ) の交換	277
ワット数	360
スノータイヤ (冬用タイヤ)	221
スピードメーター	68

スペアタイヤ (応急用タイヤ)

空気圧	359
交換方法	327
スペック (車両仕様)	352
Stop & Start System	187
アイドリングストップ 時間	72, 80
Stop & Start キャンセル スイッチ	189
Stop & Start キャンセル 表示灯	66
Stop & Start 表示灯	66
スモールランプ (車幅灯)	144
スイッチ	144
電球 (バルブ) の交換	276
ワット数	360

せ

清掃	246, 250
外装	246
シートベルト	250
内装	250
制動灯	
電球（バルブ）の交換	277
ワット数	360
積算距離計	
（オドメーター）	68
機能	72, 78
表示切りかえボタン	71, 78
セキュリティインジケーター	62
センサー	
前方センサー	157
ライトセンサー	147
洗車	246
前照灯（ヘッドランプ）	144
スイッチ	144
電球（バルブ）	
の交換	273, 274
ライトセンサー	147
ランプ消し忘れ警告ブザー	147
ランプ消し忘れ防止機能	147
ワット数	360
先行車発進告知機能	185

そ

速度計（スピードメーター）	68
---------------------	----

た

ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）	142
電球（バルブ）	
の交換	275, 277, 279
方向指示レバー	142
ワット数	360

タイヤ	257
応急用タイヤ	327
空気圧	359
交換	327
締め付けトルク	334
点検	257
パンクしたときは	313, 327
ホイールサイズ	359
ローテーション	
（位置交換）	257
タイヤが空まわりする	
（スタックした）	349
タイヤチェーン	221
タコメーター	69

ち

チェーン（タイヤチェーン）	221
チャイルドシート	42
ISOFIX ロアアンカレッジで	
固定	58
お子さまを乗せるときは	41
規格	47
固定方法の種類	55
シートベルトで固定	56
知っておいていただきたい	
こと	42
テザーベルト	60
トップテザーアンカレッジに	
固定	60
チャイルドプロテクター	92
駐車ブレーキ	
（パーキングブレーキ）	143
操作	143
パーキングブレーキ未解除	
警告灯	297
未解除走行時警告ブザー	297
メンテナンスデータ	357

つ

ツール (工具)..... 315, 328

て

ディスプレイ

警告メッセージ..... 301

ドライブモニター

ディスプレイ..... 71

マルチインフォメーション

ディスプレイ..... 77

ディファレンシャル..... 357

手入れ..... 246, 250

外装..... 246

シートベルト..... 250

内装..... 250

テールランプ (尾灯)..... 144

スイッチ..... 144

電球 (バルブ) の交換..... 277

ワット数..... 360

デッキアンダートレイ..... 237

デッキフック..... 238

デッキボード..... 237

デフォッガー (リヤウインドウ

デフォッガー)..... 227

電球 (バルブ)

交換要領 (外装バルブ)..... 271

ワット数..... 360

点検基準値

(メンテナンスデータ)..... 352

電子キー..... 86

作動範囲..... 132

正常に働かないとき..... 339

電池が切れた..... 265, 339

電池交換..... 265

電池交換 (キー)..... 265

と

ドア..... 89

チャイルドプロテクター..... 92

ドアガラス..... 108

ドアロックスイッチ..... 91

半ドア警告灯..... 297

半ドア走行時警告ブザー..... 297

ロックレバー..... 91

ワイヤレスリモコン..... 89

ドアミラー..... 106

操作..... 106

盗難防止装置

エンジンイモビライザー

システム..... 62

時計..... 244

トノカバー..... 238

Toyota Safety Sense..... 156

ドライブインフォメーション..... 79

ドライブスタートコントロール

急発進の抑制制御..... 114

ドライブモニターディスプレイ..... 71

トラクションコントロール

(TRC)..... 215

トランスミッション..... 138, 140

操作..... 138, 140

メンテナンスデータ..... 356

トリップ

インフォメーション..... 72, 78

トリップメーター..... 68

機能..... 72, 78

表示切りかえボタン..... 71, 78

な

内装

収納装備..... 233

手入れ..... 250

に

荷物

積むときの注意 124

ぬ

ぬかるみにはまった

(スタックした) 349

ね

燃費

瞬間燃費 72, 79

平均燃費 72, 79

燃料 352

給油 153

種類 352

燃料残量警告灯 297

容量 352

燃料計 68

は

パーキングサポートブレーキ 204

警告灯 297

警告メッセージ 301

操作 205

表示灯 67

パーキングブレーキ 143

操作 143

パーキングブレーキ未解除

警告灯 297

未解除走行時警告ブザー 297

メンテナンスデータ 357

パーソナルランプ 232

操作 232

ワット数 360

排気ガス 40

ハイビーム (ヘッドランプ) 145

オートマチックハイビーム 181

スイッチ 145

電球 (バルブ) の交換 274

ワット数 360

ハイマウントストップランプ

電球 (バルブ) の交換 279

ハザードランプ (非常点滅灯) 283

スイッチ 283

電球 (バルブ)

の交換 275, 277, 279

ワット数 360

挟み込み防止機能

パワーウィンドウ 108

発炎筒 284

バックアップランプ (後退灯)

電球 (バルブ) の交換 277

ワット数 360

バックドア 93

バッテリーがあがった 342

バルブ (電球)

交換要領 (外装バルブ) 271

ワット数 360

パワーウィンドウ 108

ウィンドウロックスイッチ 108

閉めることができない

ときは 109

操作 108

挟み込み防止機能 108

巻き込み防止機能 109

パワーステアリング 215

機能 215

警告灯 295

パンクした

- 応急用タイヤ装着車 327
 タイヤパンク応急修理キット
 装着車 313

番号灯

- (ライセンスプレートランプ) ... 144
 スイッチ 144
 電球 (バルブ) の交換 278
 ワット数 360

ハンドル

- (ステアリングホイール) 103
 位置調整 103

ひ

ビークルスタビリティ

- コントロール (VSC) 215

ヒーター

- マニュアルエアコン 226
 ミラーヒーター 227

非常点滅灯

- (ハザードランプ) 283
 スイッチ 283
 電球 (バルブ)
 の交換 275, 277, 279
 ワット数 360

尾灯 (テールランプ) 144

- スイッチ 144
 電球 (バルブ) の交換 277
 ワット数 360

ヒューズ 268

表示灯 66

日よけ (サンバイザー) 242

ヒルスタートアシスト

- コントロール 215

ふ

ブースターケーブルの

- つなぎ方 342

ブザー

- 高水温 294
 シートベルト非着用 297
 パーキングブレーキ
 未解除走行時 297
 パワーステアリング 295
 半ドア 90
 半ドア走行時 297
 ブレーキ 294
 プッシュボタンスタート
 システム 299, 304

- 油圧 294
 ランプ消し忘れ 147
 リバース 139

フックデータ 352

- コンビニフック 238
 けん引フック 290
 デッキフック 238
 フロアマット固定フック 22

プッシュボタンスタート

- システム 126
 アンテナの位置 132
 エンジンの始動 126
 カスタマイズ設定 361
 警告ブザー 133
 警告メッセージ 310
 作動範囲 132
 正常に働かないとき 339
 電波がおよぼす影響
 について 136
 ドアの解錠・施錠 89

フューエルメーター (燃料計)	68
フューエルリッド (給油口)	153
冬の前の準備 (寒冷時の運転) ...	221
冬用タイヤ	221
プリクラッシュセーフティ	
(PCS)	162
機能	162
PCS OFF スイッチ	166
PCS 警告灯	297
ブレーキ	
緊急ブレーキシグナル	215
警告ブザー	294
パーキングブレーキ	143
ブレーキ警告灯	294
メンテナンスデータ	357
ブレーキアシスト	215
ABS & ブレーキアシスト	
警告灯	295
機能	215
ブレーキ付近からキーキー音が	
聞こえる	119
ブレーキフルード	357
フロアマット	22
フロントシート	97
正しい運転姿勢	24
調整	97
手入れ	250
ヘッドレスト	100
フロント方向指示灯	142
電球 (バルブ) の交換	275
方向指示レバー	142
ワット数	360

へ

平均燃費	72, 79
ヘッドランプ	144
手動光軸調整ダイヤル	146
スイッチ	144
電球 (バルブ)	
の交換	273, 274
ランプ消し忘れ警告ブザー	147
ワット数	360
ヘッドレスト	100

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	327
メンテナンスデータ	359
方向指示灯	142
電球 (バルブ)	
の交換	275, 277, 279
方向指示レバー	142
ワット数	360
ホーン (警音器)	103
保証	9
ボトルホルダー	235
ボンネット	253
開け方	253

ま

マスターウォーニング	301
マニュアルエアコン	226
マニュアル	
トランスミッション	140
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	77
警告メッセージ	301
ドライブインフォメーション ...	79

み

ミラー

インナーミラー 105

ドアミラー 106

め

メーター（計器類）..... 68

警告灯 65

照度調整 73, 78

ドライブモニター

ディスプレイ 71

表示灯 66

マルチインフォメーション

ディスプレイ 77

メカニカルキー 86

メンテナンスデータ 352

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 361

雪道ですべて動けない

（スタックした）..... 349

油脂類 352

よ

4WD 215

ら

ライセンスプレートランプ

（番号灯） 144

スイッチ 144

電球（バルブ）の交換 278

ワット数 360

ラゲージルーム

コンビニフック 238

デッキアンダートレイ 237

デッキフック 238

デッキボード 237

トノカバー 238

ラジエーター

オーバーヒート 346

メンテナンスデータ 356

ランプ

室内灯 231

電球（バルブ）の交換 271

パーソナルランプ 232

非常点滅灯

（ハザードランプ） 283

ヘッドランプ（前照灯） 144

方向指示灯（ターンシグナル

ランプ／ウインカー） 142

ライトセンサー 147

ランプ消し忘れ警告ブザー 147

ランプ消し忘れ防止機能 147

ルームランプ 232

ワット数 360

ランプ消し忘れ警告ブザー 147

ランプ消し忘れ防止機能 147

り

リヤアームレスト.....	244
リヤウインドウデフォッガー	
スイッチ	227
リヤシート	98
リヤ方向指示灯.....	142
電球（バルブ）の交換.....	277
方向指示レバー	142
ワット数.....	360
リヤワイパー	151

る

ルームミラー	
（インナーミラー）	105
ルームランプ	232
操作	232
ワット数.....	360

れ

レーンディパーチャーアラート	
（LDA）.....	175
冷却水	356
高水温警告灯	294
低水温表示灯	66
冬の前の準備	221
メンテナンスデータ	356
冷却装置（ラジエーター）	
オーバーヒート	346
メンテナンスデータ	356
レバー	
給油口.....	155
シフト.....	138, 140
ハンドル位置調整レバー	103
方向指示.....	142
ボンネット解除.....	253
ロック（レバー）	91

ろ

ロック	
ウインドウロック	108
シフトロック	139
チャイルドプロテクター	92
ドア	89
ワイヤレスリモコン	89

わ

ワイパー &	
ウォッシャー	149, 151
ワイパーブレード（寒冷地用）....	222
ワイヤレスリモコン	86
作動の合図	89
操作	89
電池の交換	265
半ドア警告ブザー	90
ワックス.....	246
ワット数.....	360

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	給油口
P. 253	P. 155

II PCL007

ボンネット解除レバー	給油口オープナー	タイヤ空気圧
P. 253	P. 155	P. 359

燃料の容量（参考値）	42L
燃料の種類	・ 無鉛レギュラーガソリン P. 352 ・ バイオ混合ガソリン（レギュラー）※ ※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 359
エンジンオイル容量（参考値）	オイルのみ交換時 2NR-FKE エンジン車： 3.0L 1NZ-FE エンジン車： 3.4L オイルとオイルフィルター交換時 2NR-FKE エンジン車： 3.3L 1NZ-FE エンジン車： 3.7L
エンジンオイルの種類	P. 353

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）を
ご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
<https://toyota.jp/recall/index.html> にて
掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

